

# 少子化対策に関する県民意識調査

## 調査結果報告書 概要版

平成 31 年 3 月

群馬県こども未来部こども政策課

(調査実施機関：株式会社サーベイリサーチセンター)



## 目次

<b>第1</b>	<b>調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1	調査目的 .....	1
2	調査期間 .....	1
3	調査実施状況 .....	1
4	調査方法 .....	1
5	調査主体 .....	3
6	報告書の見方 .....	3
<b>第2</b>	<b>結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）</b> .....	<b>4</b>
1	あなた自身について（属性） .....	4
2	結婚に対する考えについて .....	6
3	子育てに対する考えについて .....	11
4	妊娠・出産に対する考えについて .....	16
5	少子化について .....	20
6	少子化対策について .....	21
7	子どもの未来について .....	26
<b>第3</b>	<b>夫婦全般に関する調査（夫婦調査）</b> .....	<b>28</b>
1	あなたご自身について（属性） .....	28
2	あなた方ご夫婦について（属性） .....	31
3	結婚について .....	36
4	子どもについて .....	38
5	妊娠・出産について .....	42
6	結婚、男女関係、家庭、子どもについて .....	47
7	少子化対策について .....	53
8	子どもの未来について .....	58
<b>第4</b>	<b>地域での子育てに関する調査（保護者調査）</b> .....	<b>60</b>
1.	あなた自身について（属性） .....	60
2.	子育てについて .....	64
3.	地域との関わりについて .....	73
4.	子どもについて .....	75
5.	子育てと仕事について .....	77
6.	少子化対策について .....	80
7.	子どもの未来について .....	86
<b>第5</b>	<b>仕事と生活の調和に関する調査（企業調査）</b> .....	<b>88</b>
1.	貴事業所について（属性） .....	88
2.	両立支援制度について .....	91
3.	育児休業制度について .....	92
4.	両立支援制度や働きやすい職場環境整備について .....	97
5.	女性活躍推進について .....	100
6.	ワーク・ライフ・バランスの推進や少子化問題について .....	101

第6 仕事と生活の調和に関する調査（従業員調査） .....	102
1. あなた自身について（属性） .....	102
2. 職場環境について .....	104
3. 育児休業制度について .....	106
4. ワーク・ライフ・バランスや子育て支援、少子化対策について .....	109

## 第1 調査の概要

### 1 調査目的

- (1) 次世代育成支援対策推進法に基づく県行動計画の次期計画策定の基礎資料とするため、家族形成支援、子育て支援、両立支援（ワーク・ライフ・バランスの推進）に関して、県民の意識やニーズを総合的に把握する。
- (2) 「ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン 2016」について、施策評価に必要なデータを把握する。

### 2 調査期間

- (1) アンケート調査  
・平成 30 年 12 月～平成 31 年 2 月

### 3 調査実施状況

- (1) アンケート回収状況

調 査 対 象	対象数	回収数	回収率
結 婚 ・ 家 族 形 成 に 関 す る 調 査	1,125	480	42.7
夫 婦 全 般 に 関 す る 調 査	750	465	62.0
地 域 で の 子 育 て に 関 す る 調 査	1,500	1,277	85.1
幼稚園・保育園児の保護者	1,000	882	88.2
未 就 園 児 の 保 護 者	500	395	79.0
仕 事 と 生 活 の 調 和 に 関 す る 調 査 ( 企 業 )	500	171	34.2
仕 事 と 生 活 の 調 和 に 関 す る 調 査 ( 従 業 員 )	1,000	317	31.7

※結婚・家族形成に関する調査、夫婦全般に関する調査の対象数は、Web モニター調査のため想定数である

### 4 調査方法

- (1) 結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

#### ①対象者

- ・県内在住の 20～30 代の男女（独身者） 1,125 人  
Web モニターを対象に実施

#### ②調査項目

- ・結婚に対する考えについて
- ・子育てに対する考えについて
- ・妊娠・出産に対する考えについて
- ・少子化について
- ・少子化対策について

- ・子どもの未来について

③実施方法

Web 調査による配信

(2) 夫婦全般に関する調査（夫婦調査）

①対象者

- ・県内在住の 20～40 代の女性（既婚者） 750 人

Web モニターを対象に実施

②調査項目

- ・結婚について
- ・子どもについて
- ・妊娠・出産について
- ・結婚、男女関係、家庭、子どもについて
- ・少子化対策について
- ・子どもの未来について

③実施方法

Web 調査による配信

(3) 地域での子育てに関する調査（保護者調査）

①対象者

計 1,500 人

- ・就園児の保護者（県内幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の利用者） 1,000 人
- ・未就園児の保護者（県内児童館・子育て支援センターの利用者） 500 人

②調査項目

- ・子育てについて
- ・地域との関わりについて
- ・子どもについて
- ・子育てと仕事について
- ・少子化対策について
- ・子どもの未来について

③実施方法

- ・就園児の保護者  
幼稚園・保育所等に一括郵送、園等から保護者に配付
- ・未就園児の保護者  
児童館・子育て支援センター等に一括郵送、施設から保護者に配付

(4) 仕事と生活の調和に関する調査（企業調査）

①対象者

- ・県内の民間事業所 500 社

平成 28 年経済センサス（活動調査）から抽出

※「建設業」「製造業」「運輸業」「卸売・小売業」「金融・保険業」「飲食・宿泊業」「福祉・医療」「サービス業（その他に分類されないもの）」の 8 業種から、常用雇  
用者 30 人以上（「卸売・小売業」のうち小売業と「飲食・宿泊業」のうち飲食、「サ  
ービス業」は 10 人以上）

②調査項目

- ・両立支援制度について
- ・育児休業制度について
- ・両立支援制度や働きやすい職場環境整備について
- ・女性活躍推進について
- ・ワーク・ライフ・バランスの推進や少子化問題について

③実施方法

各企業に直接郵送

郵送による回収（調査票送付後、督促はがきにて協力依頼）

(5) 仕事と生活の調和に関する調査（従業員調査）

①対象者

- ・上記企業の子育て中の従業員 2 名                    1,000 人

②調査項目

- ・職場環境について
- ・育児休業制度について
- ・ワーク・ライフ・バランスや子育て支援、少子化対策について

③実施方法

各企業に一括郵送し、企業から従業員に配付

## 5 調査主体

群馬県（こども未来部こども政策課）

## 6 報告書の見方

① 本報告書内では、調査名称や調査対象区分を、以下の呼び方としている。

【調査名称】

◇結婚・家族形成に関する調査	→	独身者調査
◇夫婦全般に関する調査	→	夫婦調査
◇地域での子育てに関する調査	→	保護者調査
◇仕事と生活の調和に関する調査（企業調査）	→	企業調査
◇仕事と生活の調和に関する調査（従業員調査）	→	従業員調査

② グラフ中の「n」は、設問に対する有効回答数を示しており、グラフ中の回答率（%）は「n」を100%としたものである。

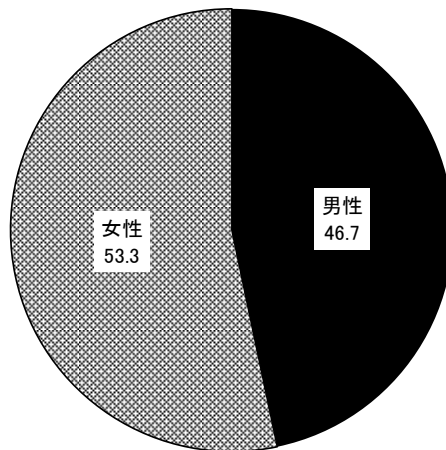
③ 各選択肢の回答率（%）は、小数第2位を四捨五入して表記したため、合計が100%に一致しない場合もある。

## 第2 結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

### 1 あなた自身について（属性）

（問1） あなたの性別をお答えください。

性別は、「男性」が46.7%、「女性」が53.3%となっている。

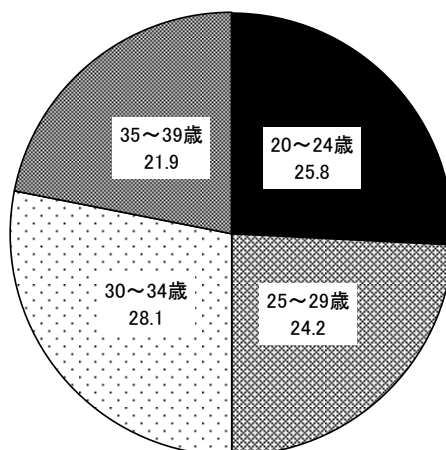


n = 480

%

（問2） あなたの年齢をお答えください。

年齢は、各年齢2割台となっている。



n = 480

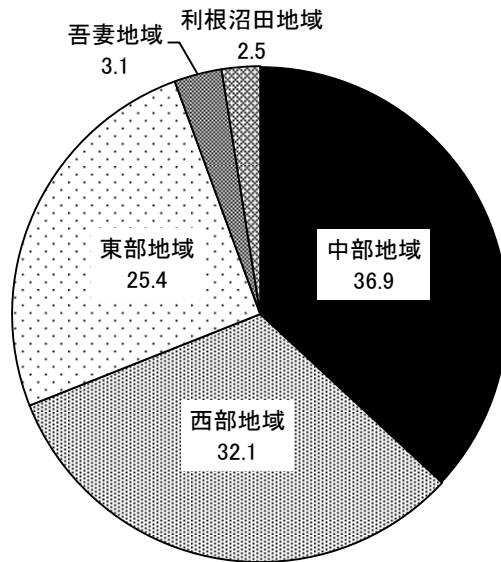
%



(問3) あなたがお住まいの都道府県をお答えください。

(問4) あなたがお住まいの市町村をお答えください。

お住まいの市町村を5地域に分けた場合、「中部地域」が36.9%で最も高く、次いで「西部地域」が32.1%、「東部地域」が25.4%となっている。



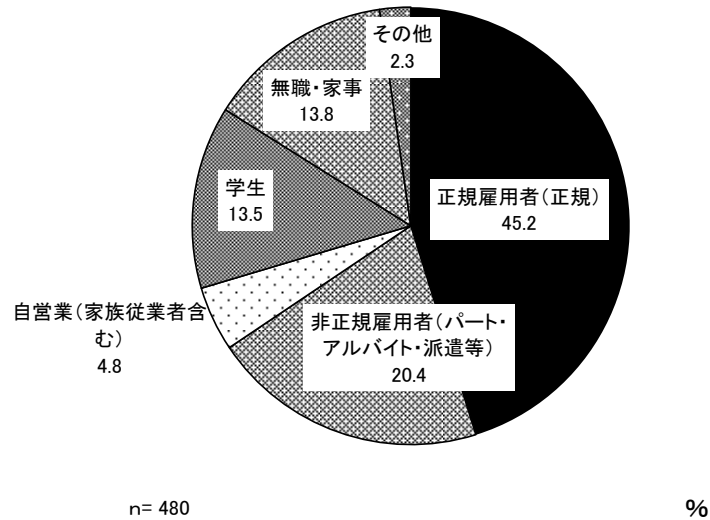
n= 480

%

※ (問3) については、全回答が群馬県となるため、グラフの掲載やコメント記述は割愛する

(問5) あなたの職業をお答えください。

職業は、「正規雇用者(正規)」が45.2%で最も高く、次いで「非正規雇用者(パート・アルバイト・派遣等)」が20.4%、「無職・家事」が13.8%となっている。



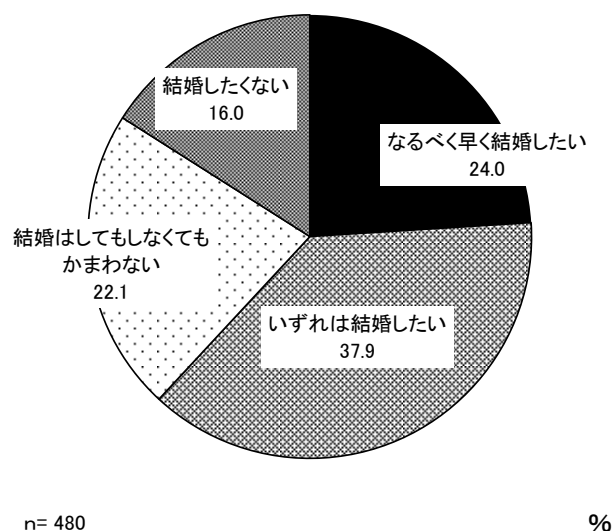
(問6) あなたは現在結婚をしていますか。

※ (問6) については、全回答が未婚であるため、グラフの掲載やコメント記述は割愛する

## 2 結婚に対する考えについて

問1 あなたは将来結婚したいと思いますか。

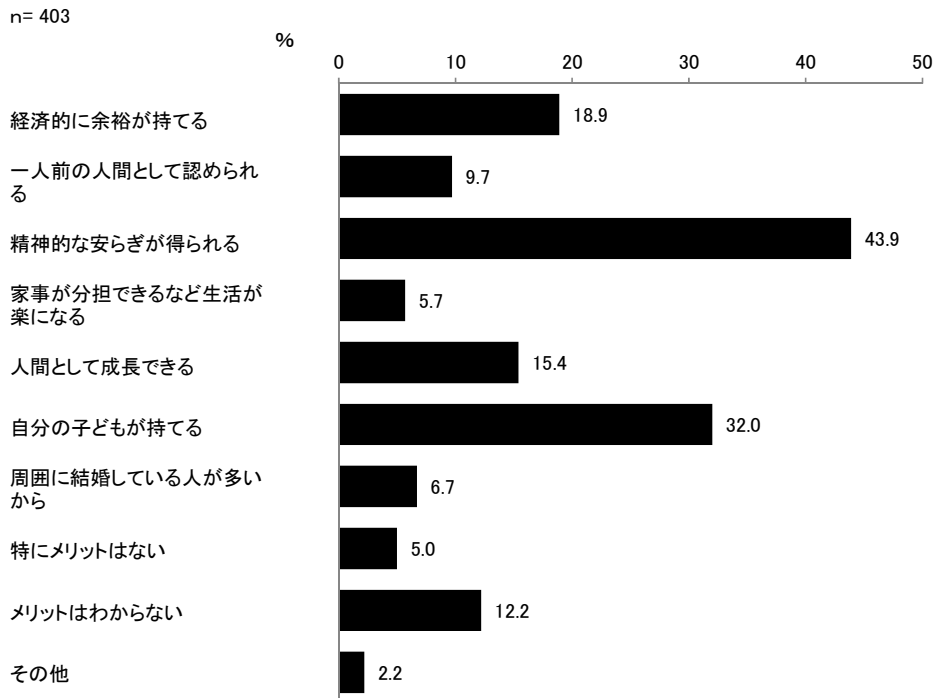
将来結婚したいかは、「いずれは結婚したい」が37.9%で最も高く、次いで「なるべく早く結婚したい」が24.0%、「結婚はしてもしなくてもかまわない」が22.1%となっている。



【問1で「なるべく早く結婚したい」「いずれは結婚したい」「結婚はしてもしなくてもかまわない」を選んだ方のみにお聞きします。】

問2 「結婚したい」と思う理由は何ですか。（回答は2つまで）

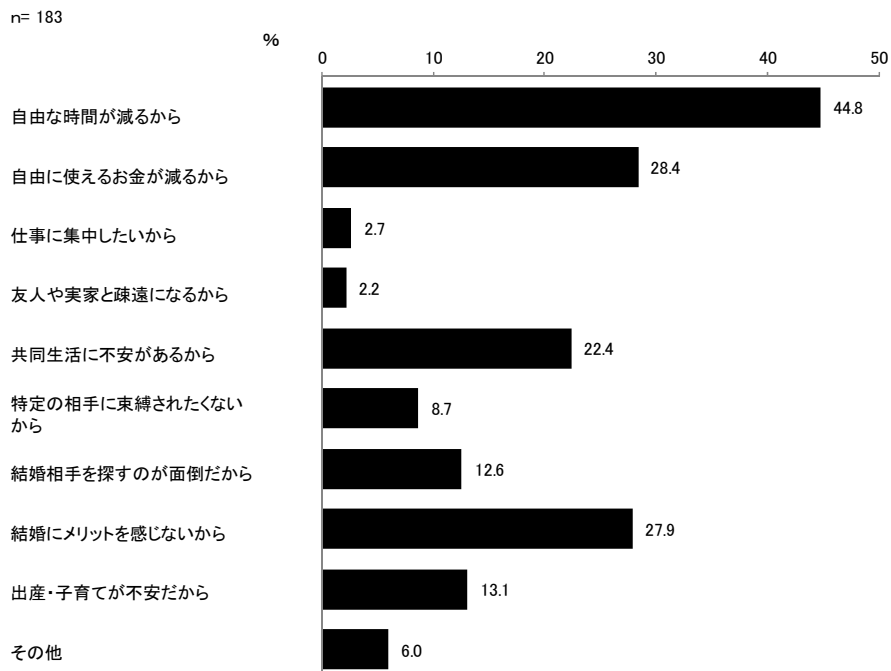
「結婚したい」と思う理由は、「精神的な安らぎが得られる」が43.9%で最も高く、次いで「自分の子どもが持てる」が32.0%、「経済的に余裕が持てる」が18.9%となっている。



【問1で「結婚はしてもしなくてもかまわない」「結婚したくない」を選んだ方のみにお聞きします。】

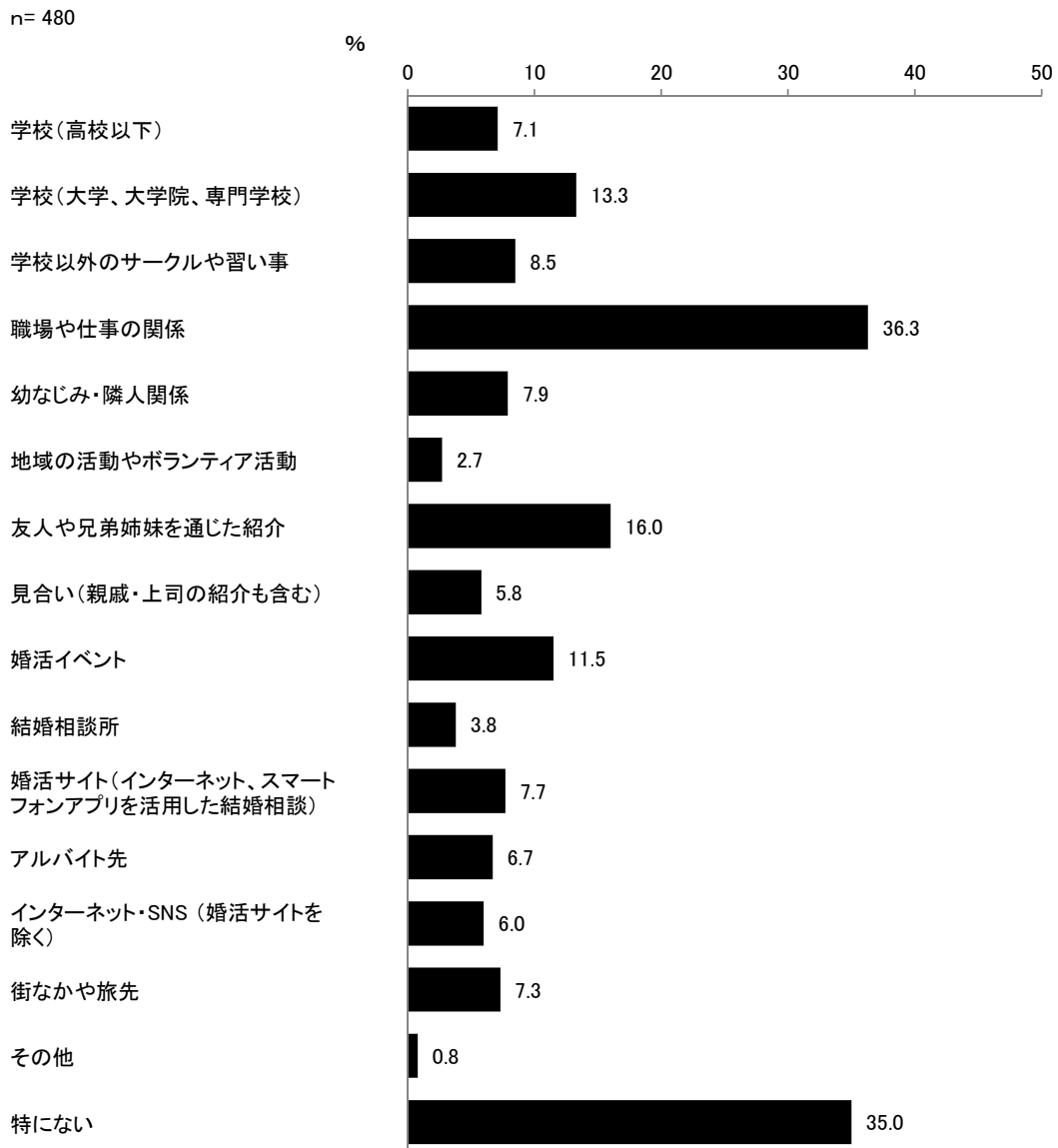
問3 「結婚したくない」と思う理由は何ですか。（回答は2つまで）

「結婚したくない」と思う理由は、「自由な時間が減るから」が44.8%で最も高く、次いで「自由に使えるお金が減るから」が28.4%、「結婚にメリットを感じないから」が27.9%となっている。



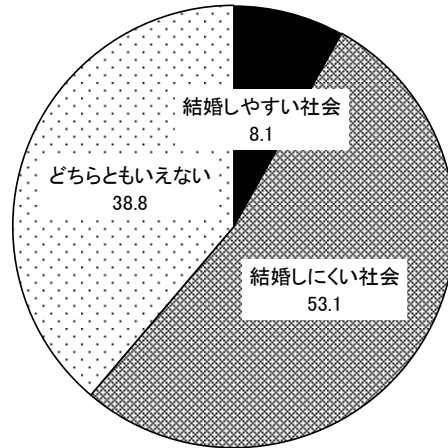
問4 結婚相手と知り合うきっかけとして期待するものはどのようなことですか。(回答は3つまで)

結婚相手と知り合うきっかけとして期待するものは「職場や仕事の関係」が36.3%で最も高く、次いで「特にない」が35.0%、「友人や兄弟姉妹を通じた紹介」が16.0%となっている。



問5 今の社会は結婚しやすい社会だと思いますか。

今の社会は結婚しやすい社会だと思うかは、「結婚しにくい社会」が53.1%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が38.8%、「結婚しやすい社会」が8.1%となっている。



n= 480

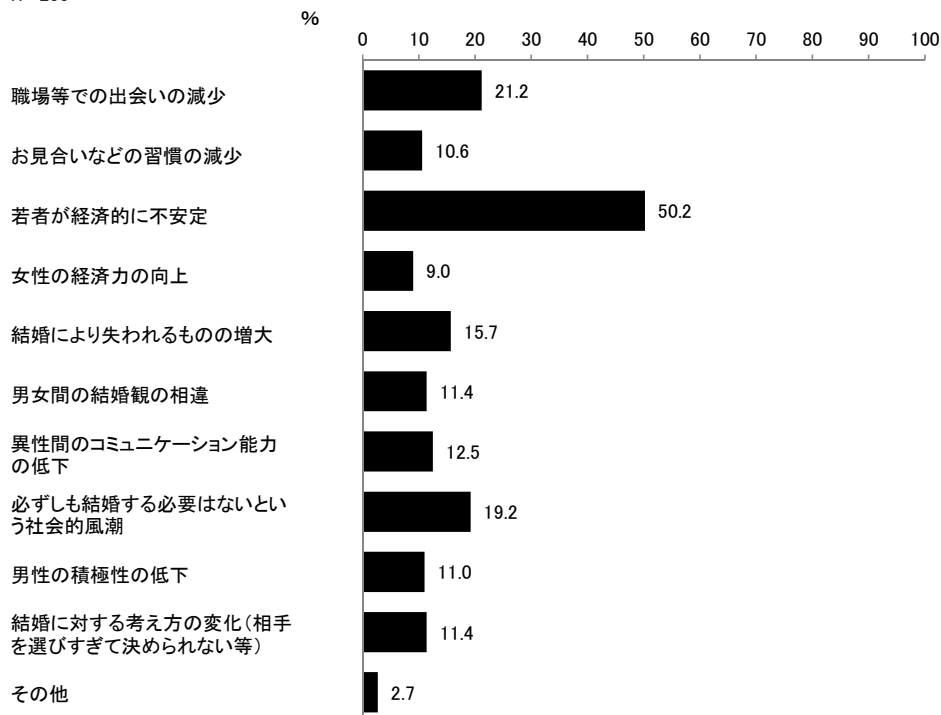
%

【問5で「結婚しにくい社会」を選んだ方のみにお聞きします。】

問6 その理由について、どのようにお考えですか。（回答は2つまで）

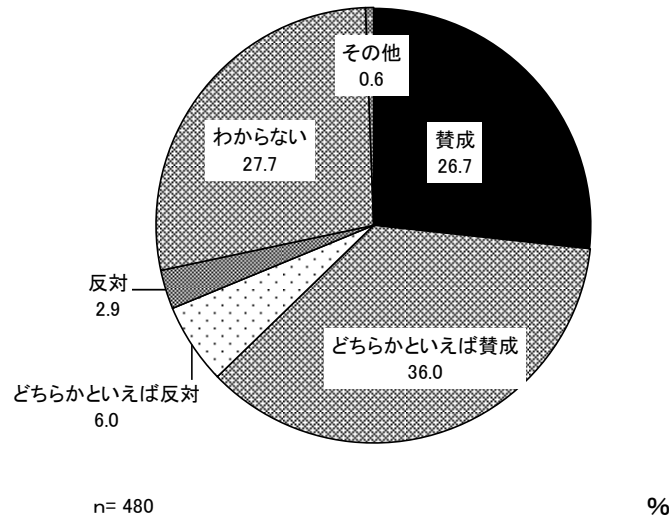
結婚しにくい社会を選んだ理由は、「若者が経済的に不安定」が50.2%で最も高く、次いで「職場等での出会いの減少」が21.2%、「必ずしも結婚する必要はないという社会的風潮」が19.2%となっている。

n= 255



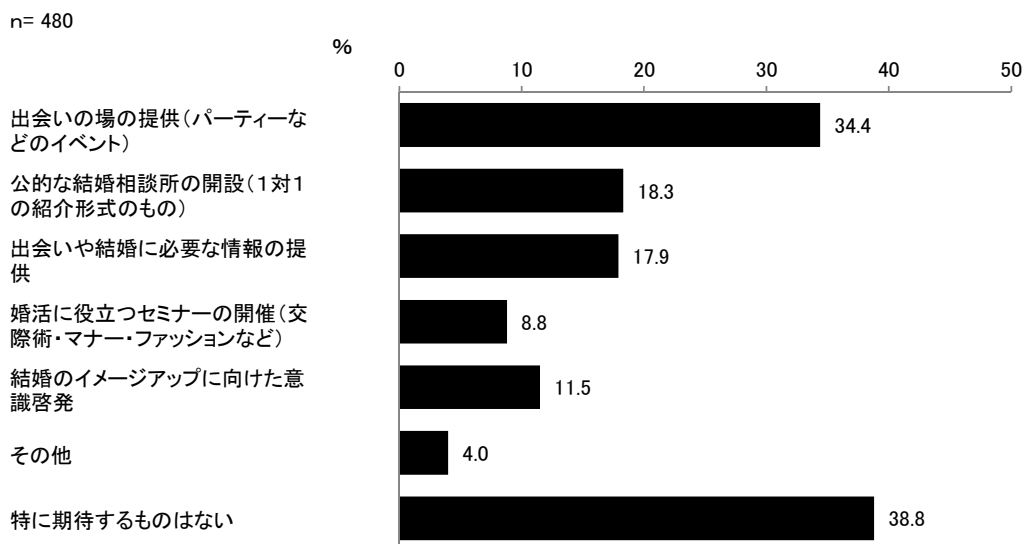
問7 結婚を希望する人に対して、行政が結婚を支援する施策を行うことについて、どのようにお考えですか。

結婚を支援する施策を行うことは、「賛成」が26.7%、「どちらかといえば賛成」が36.0%で賛成している人が6割以上となっている。



問8 結婚にかかわる支援として、どのようなことを行政に期待しますか。（回答は2つまで）

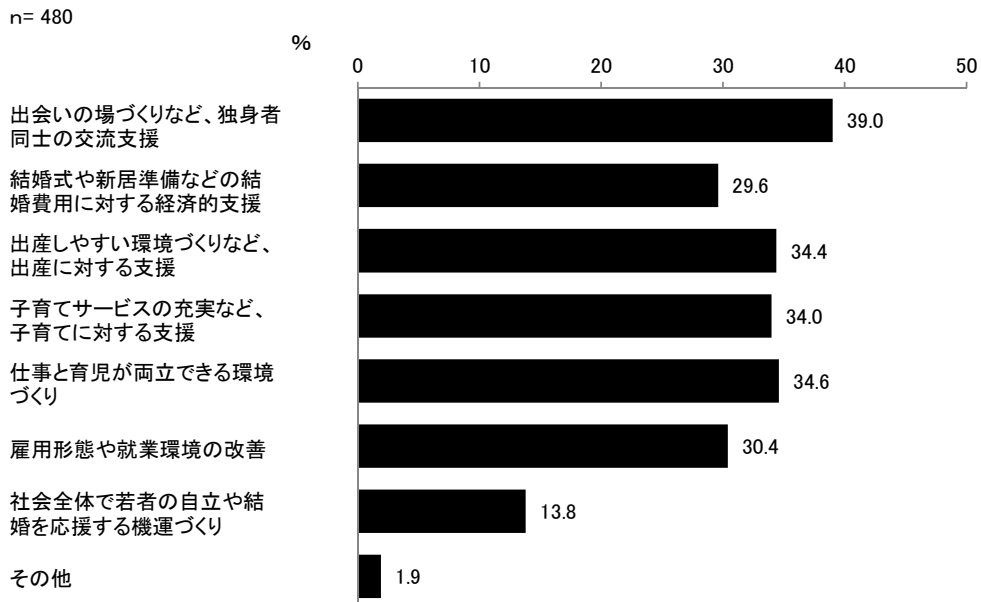
行政に期待する結婚にかかわる支援は、「特に期待するものはない」が38.8%で最も高いが、「特に期待するものはない」を除くと、「出会いの場の提供（パーティーなどのイベント）」が34.4%で高く、次いで「公的な結婚相談所の開設（1対1の紹介形式のもの）」が18.3%、「出会いや結婚に必要な情報の提供」が17.9%となっている。



問9 「結婚しやすい環境づくり」として、どのようなことが重要だと思いますか。

(回答は3つまで)

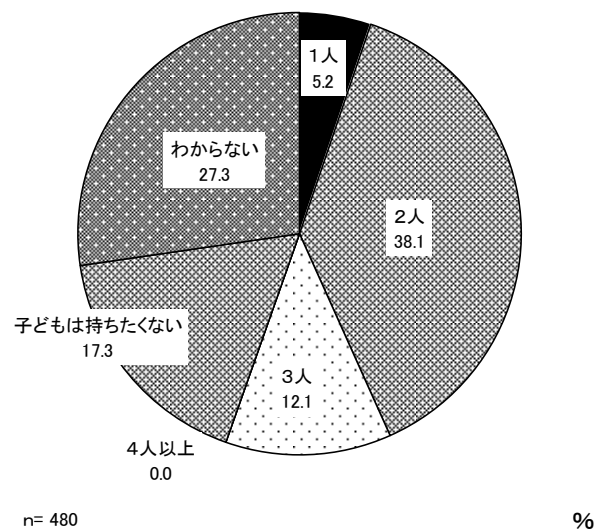
結婚しやすい環境づくりに重要なことは、「出会いの場づくりなど、独身者同士の交流支援」が39.0%で最も高く、次いで「仕事と育児が両立できる環境づくり」が34.6%、「出産しやすい環境づくりなど、出産に対する支援」が34.4%となっている。



### 3 子育てに対する考えについて

問10 あなたは将来子どもを何人持ちたいですか。4人以上を選択した方は具体的な数値をお答えください。

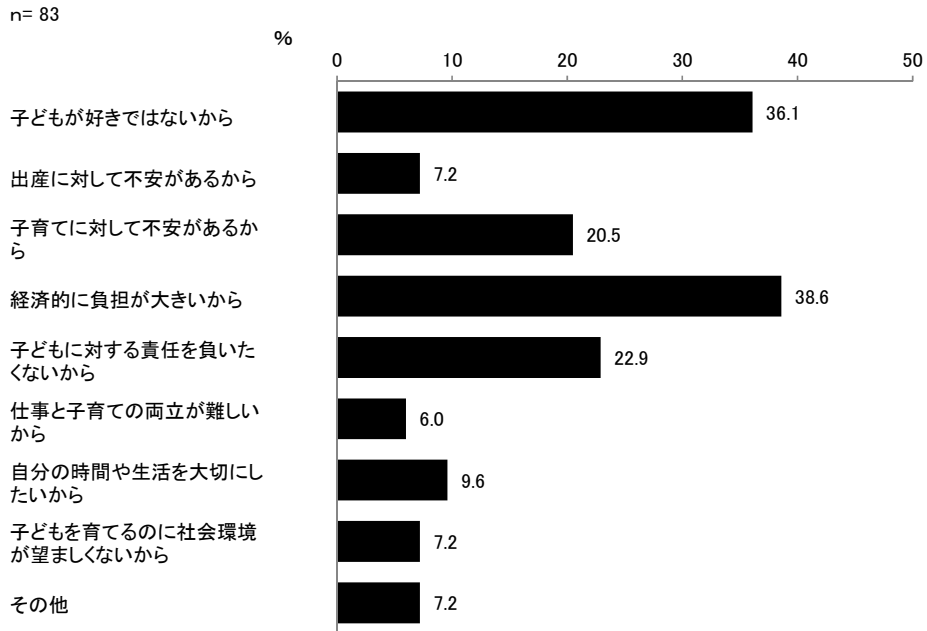
将来子どもを持ちたい人数は、「2人」が38.1%で最も高く、次いで「わからない」が27.3%、「子どもは持ちたくない」が17.3%となっている。



【問10で「子どもは持ちたくない」を選択した方にお聞きします。】

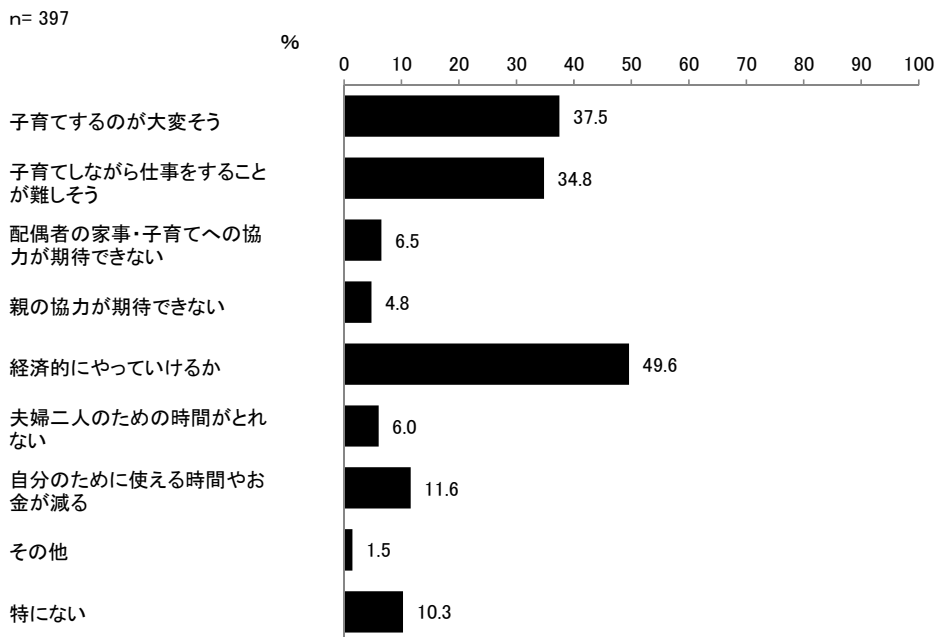
問11 「子どもを持ちたくない」と思う理由は何ですか。（回答は2つまで）

子どもを持ちたくない理由は、「経済的に負担が大きいから」が38.6%で最も高く、次いで「子どもが好きではないから」が36.1%、「子どもに対する責任を負いたくないから」が22.9%となっている。



問12 将来、子育てをする上で不安なことは何ですか。（回答は2つまで）

将来子育てをする上で不安なことは、「経済的にやっていけるか」が49.6%で最も高く、次いで「子育てするのが大変そう」が37.5%、「子育てしながら仕事をするのが難しそう」が34.8%となっている。



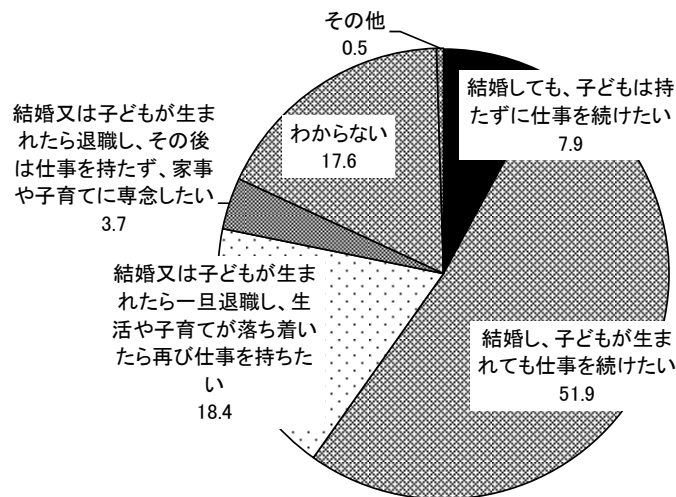
※問10で「子どもは持ちたくない」と回答した方は対象外



【問1で「なるべく早く結婚したい」「いずれは結婚したい」「結婚はしてもしなくてもかまわない」を選んだ方にお聞きします。】

問13 あなたは、自分自身の仕事と結婚・子育てについて、どのような希望がありますか。

自分自身の仕事と結婚・子育てについての希望は、「結婚し、子どもが生まれても仕事を続けたい」が51.9%で最も高く、次いで「結婚又は子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事をもちたい」が18.4%、「わからない」が17.6%となっている。



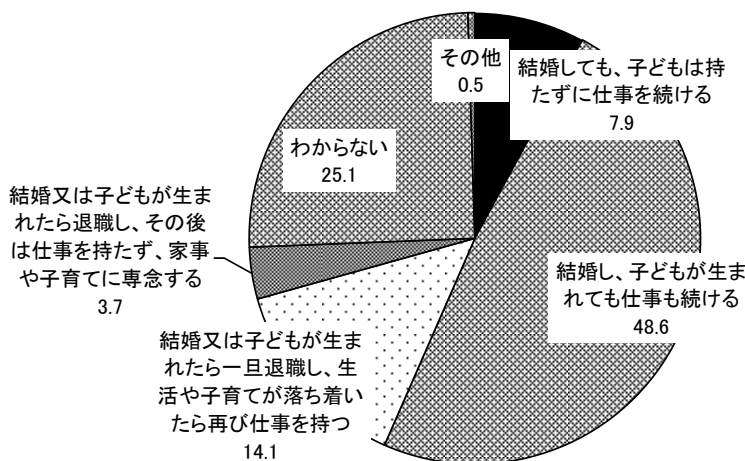
n= 403

%

【問1で「なるべく早く結婚したい」「いずれは結婚したい」「結婚はしてもしなくてもかまわない」を選んだ方にお聞きします。】

問14 あなたは、自分自身の仕事と結婚・子育てについて、実際にはどのようになりそうですか。

自分自身の仕事と結婚・子育てについての実際は、「結婚し、子どもが生まれても仕事も続ける」が48.6%で最も高く、次いで「わからない」が25.1%、「結婚又は子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事をもちたい」が14.1%となっている。



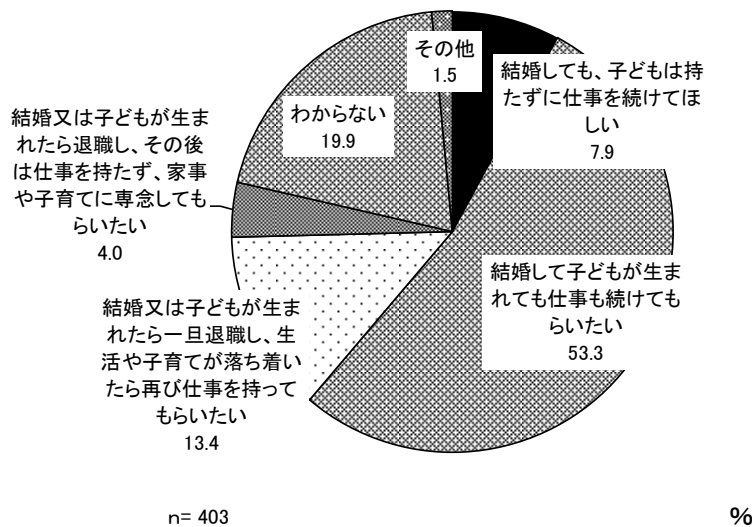
n= 403

%

【問1で「なるべく早く結婚したい」「いずれは結婚したい」「結婚はしてもしなくてもかまわない」を選んだ方にお聞きします。】

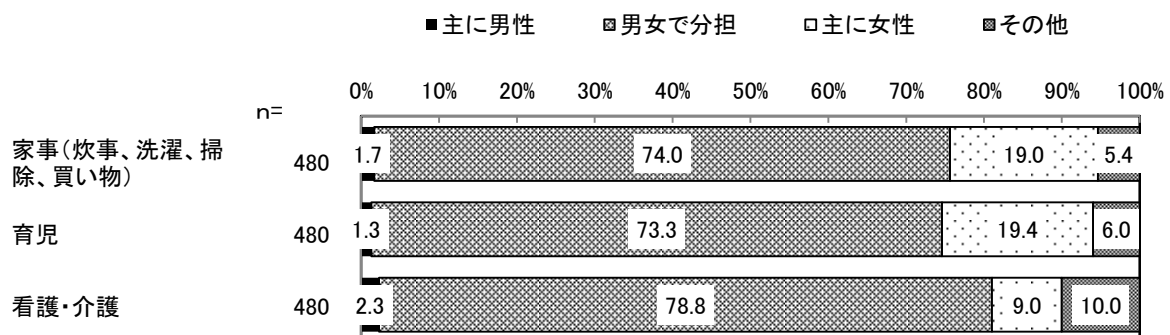
問15 あなたは、将来のパートナー（夫や妻など）の仕事と結婚・子育てについて、どのような希望がありますか。

将来のパートナー（夫や妻など）の仕事と結婚・子育てについての希望は、「結婚して子どもが生まれても仕事も続けてもらいたい」が53.3%で最も高く、次いで「わからない」が19.9%、「結婚又は子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持ってもらいたい」が13.4%となっている。



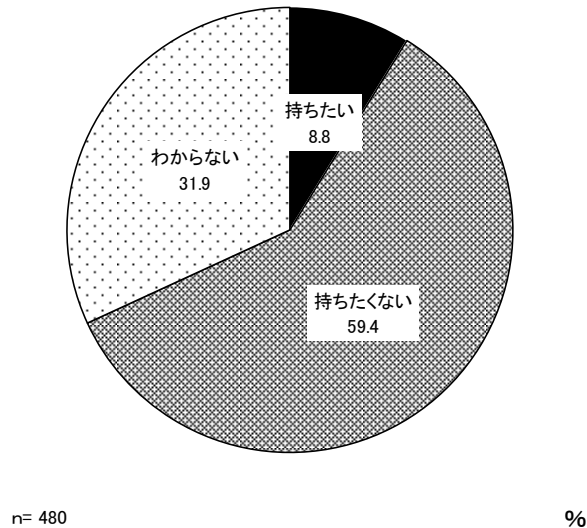
問16 あなたは、家庭内での家事、育児、看護・介護の分担について、どのように考えていますか。（回答はそれぞれ1つ）

家庭内での家事、育児、看護・介護の分担についての考えは、「男女で分担」がどの項目でも最も高くなっており、7割以上となっている。「主に女性」は育児が19.4%、家事（炊事、洗濯、掃除、買い物）が19.0%となっている。



問17 あなたは結婚しないまま子どもを持ちたいと思いますか。

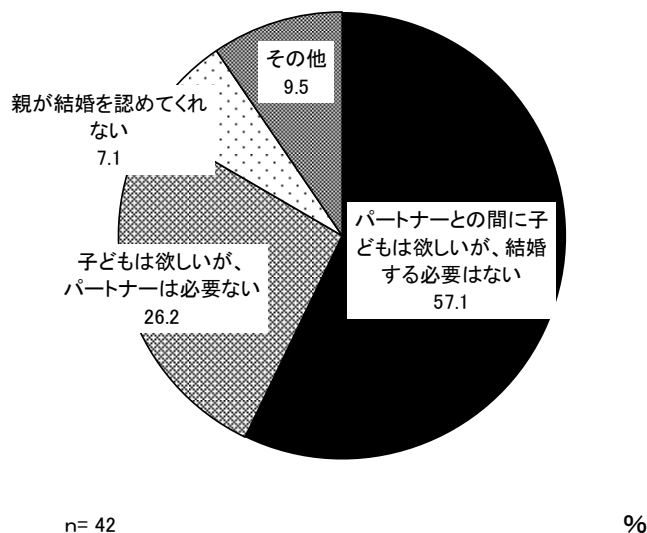
結婚しないまま子どもを持ちたいと思うかは、「持ちたくない」が59.4%で最も高く、次いで「わからない」が31.9%、「持ちたい」が8.8%となっている。



【問17で「持ちたい」を選択した方にお聞きします。】

問18 「結婚しないまま子どもを持ちたい」と思う理由はどのようなことですか。

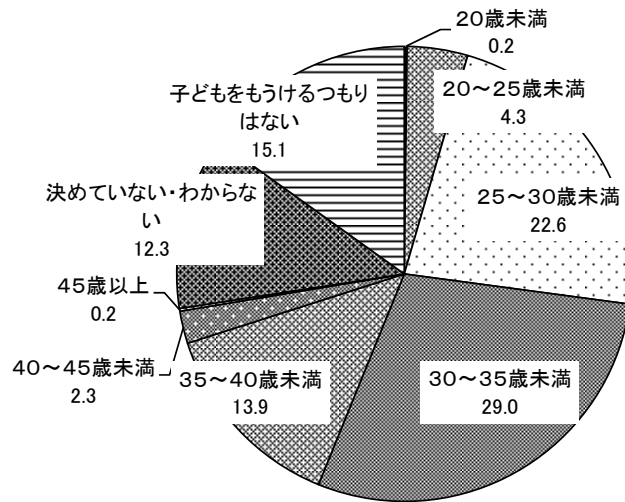
「結婚しないまま子どもを持ちたい」と思う理由は「パートナーとの間に子どもは欲しいが、結婚する必要はない」が57.1%で最も高く、次いで「子どもは欲しいが、パートナーは必要ない」が26.2%、「その他」が9.5%となっている。



#### 4 妊娠・出産に対する考えについて

問19 自分の人生設計上、子どもをもうけるとすれば、遅くとも女性が何歳になるまでに出産を迎えた方がよいと考えていますか。

子どもをもうけるとすれば、遅くとも女性が何歳になるまでに出産を迎えた方がよいと考えるかは、「30～35歳未満」が29.0%で最も高く、次いで「25～30歳未満」が22.6%、「子どもをもうけるつもりはない」が15.1%となっている。



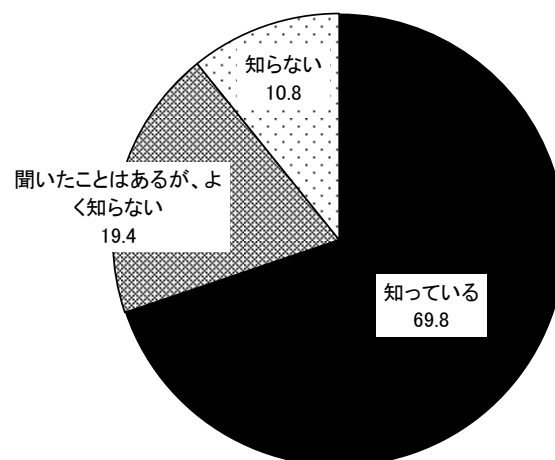
n= 438

%

※回答者の条件に偏りがあるため、参考データとする。

問20 あなたは男女ともに年齢が高くなるほど妊娠の確率が低下することなど、妊娠と年齢の関係についてご存知でしたか。

妊娠と年齢の関係については、「知っている」が69.8%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」が19.4%、「知らない」が10.8%となっている。



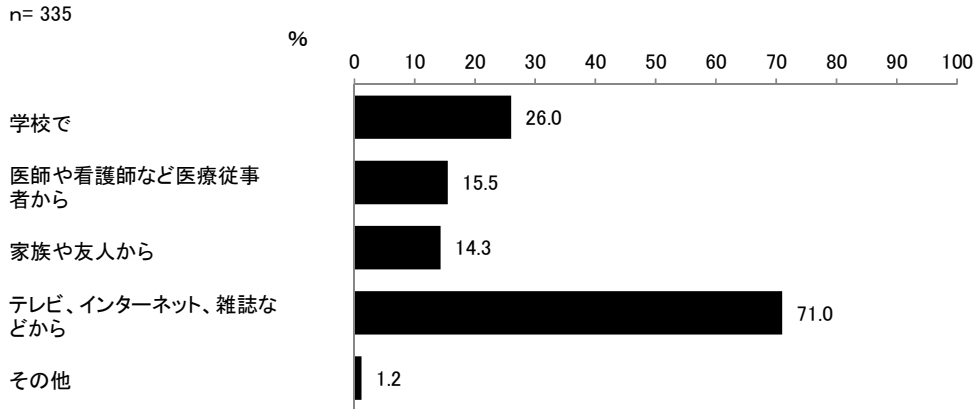
n= 480

%

【問 20 で「知っている」と回答した方にお聞きします。】

問 21 どのようにして知りましたか。（回答はいくつでも）

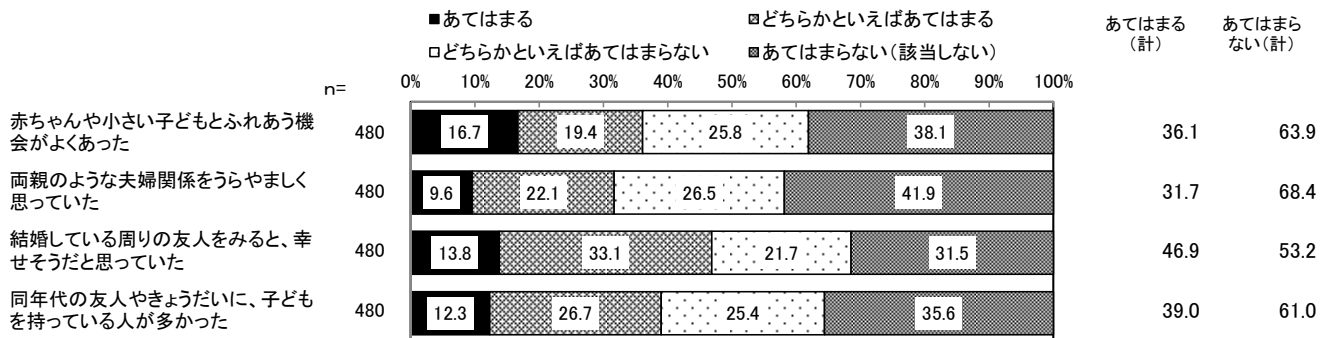
どのように知ったかは、「テレビ、インターネット、雑誌などから」が 71.0%で最も高く、次いで「学校で」が 26.0%、「医師や看護師など医療従事者から」が 15.5%となっている。



問 22 あなたの身近な状況について、あてはまるものをお答えください。

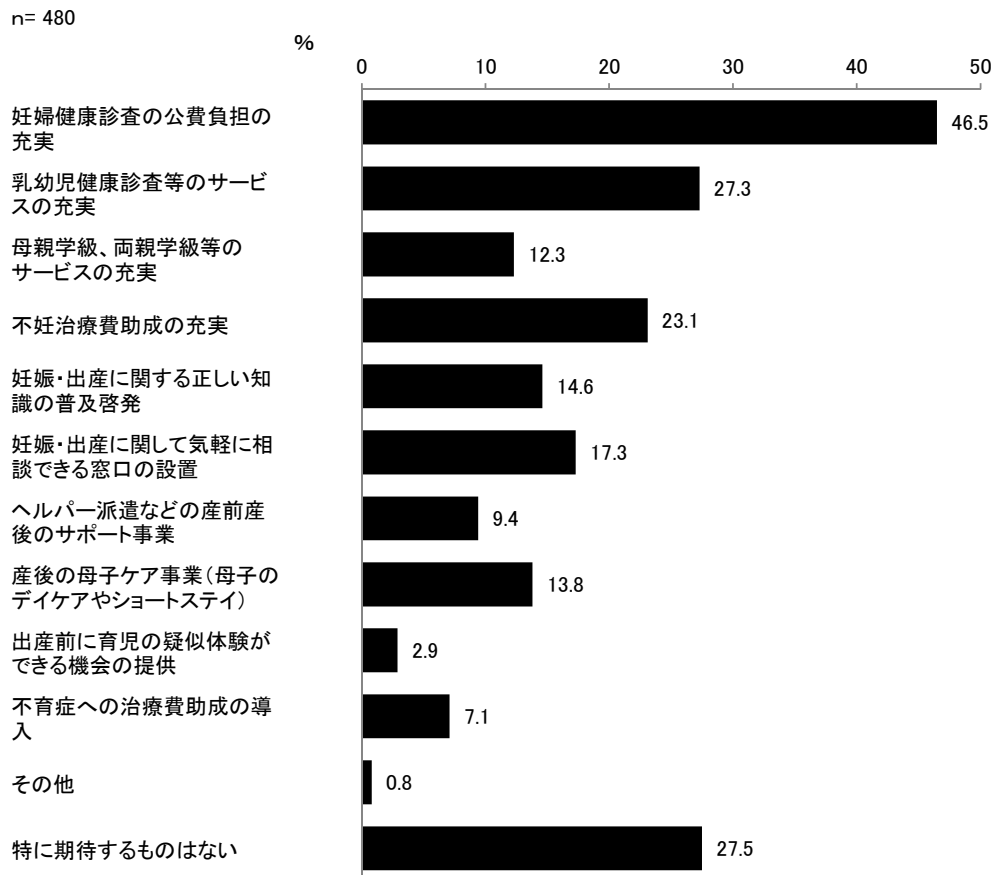
（質問項目に該当する相手がない（いなかった）場合は、「あてはまらない（該当しない）」を選択してください。）（回答はそれぞれ1つ）

身近な状況は、どの状況でも「あてはまらない（計）」が高く、“両親のような夫婦関係がうらやましく思っていた”が 68.4%、“赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった”が 63.9%で高くなっている。



問 23 妊娠・出産にかかる支援として、どのようなことを行政に期待しますか。（回答は3つまで）

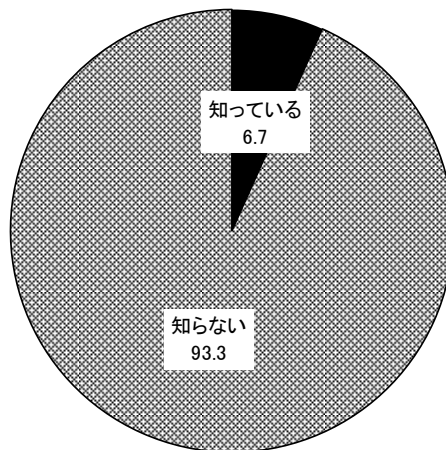
行政に期待する妊娠・出産にかかる支援は、「妊婦健康診査の公費負担の充実」が46.5%で最も高く、次いで「特に期待するものはない」が27.5%、「乳幼児健康診査等のサービスの充実」が27.3%となっている。



問 24 あなたは、「群馬県女性健康支援センター※」を知っていますか。

※身体の変化や妊娠に関することなど、女性の健康に関する悩みを助産師に電話で相談できる機関

「群馬県女性健康支援センター」の認知度は、「知っている」が6.7%、「知らない」が93.3%となっている。



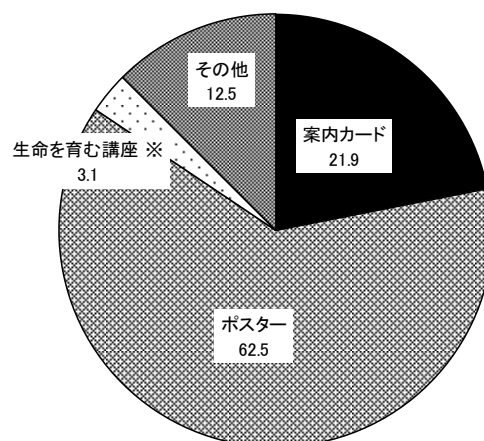
n= 480

%

【問 24 で「知っている」と回答した方に伺います。】

問 25 どのようにして知りましたか。

どのようにして知ったかは、「ポスター」が62.5%で最も高く、次いで「案内カード」が21.9%となっている。



n= 32

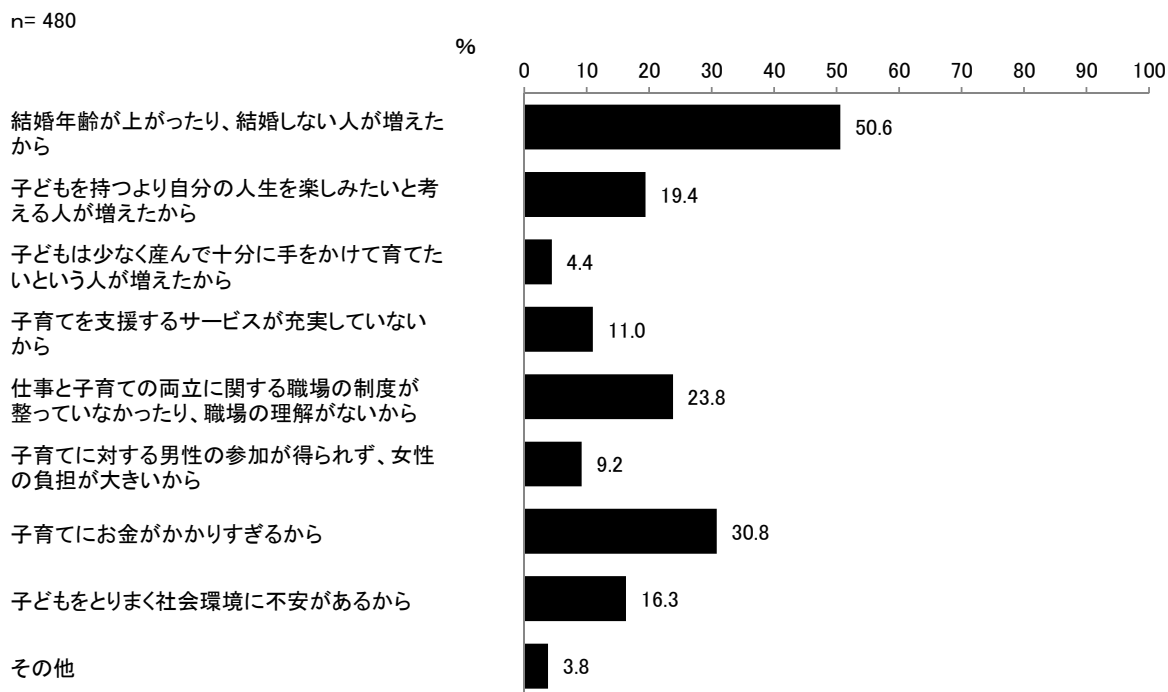
%

※群馬県助産師会が県内の小・中・高等学校、特別支援学校で開催している妊娠・出産に関する講話

## 5 少子化について

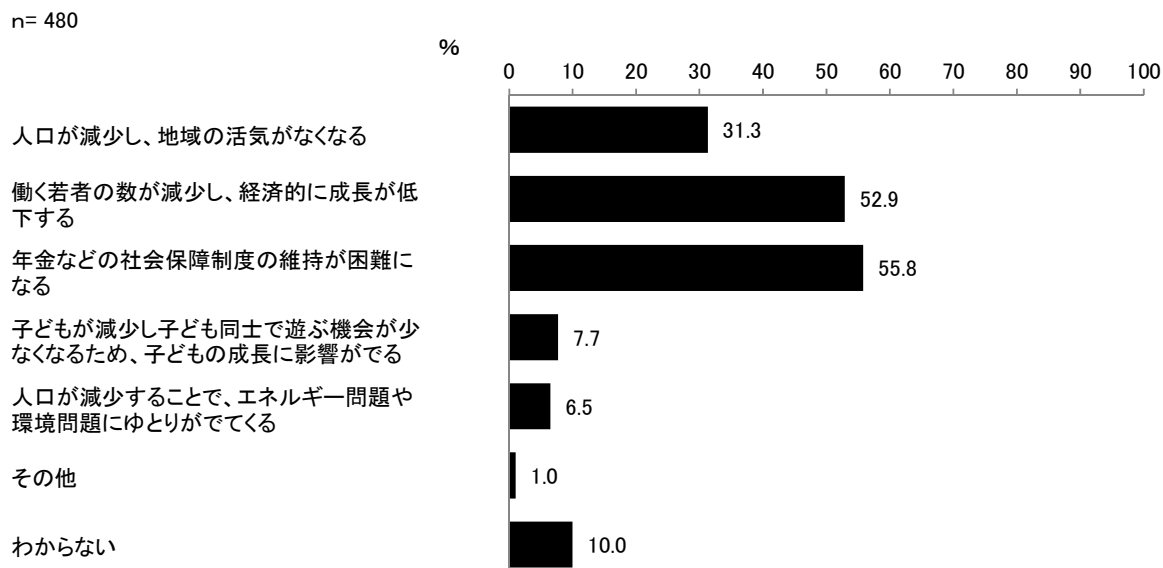
問 26 現在、日本は出生率が低下し、子どもの数が少なくなっていく「少子化」が進んでいます。出生率低下の要因はどのようなことだと思いますか。（回答は2つまで）

出生率低下の要因は、「結婚年齢が上がったり、結婚しない人が増えたから」が50.6%で最も高く、次いで「子育てにお金がかかりすぎるから」が30.8%、「仕事と子育ての両立に関する職場の制度が整っていなかったり、職場の理解がないから」が23.8%となっている。



問 27 少子化が進んでいくと、どのような影響が出てくると思いますか。（回答は2つまで）

少子化の影響は、「年金などの社会保障制度の維持が困難になる」が55.8%で最も高く、次いで「働く若者の数が減少し、経済的に成長が低下する」が52.9%、「人口が減少し、地域の活気がなくなる」が31.3%となっている。

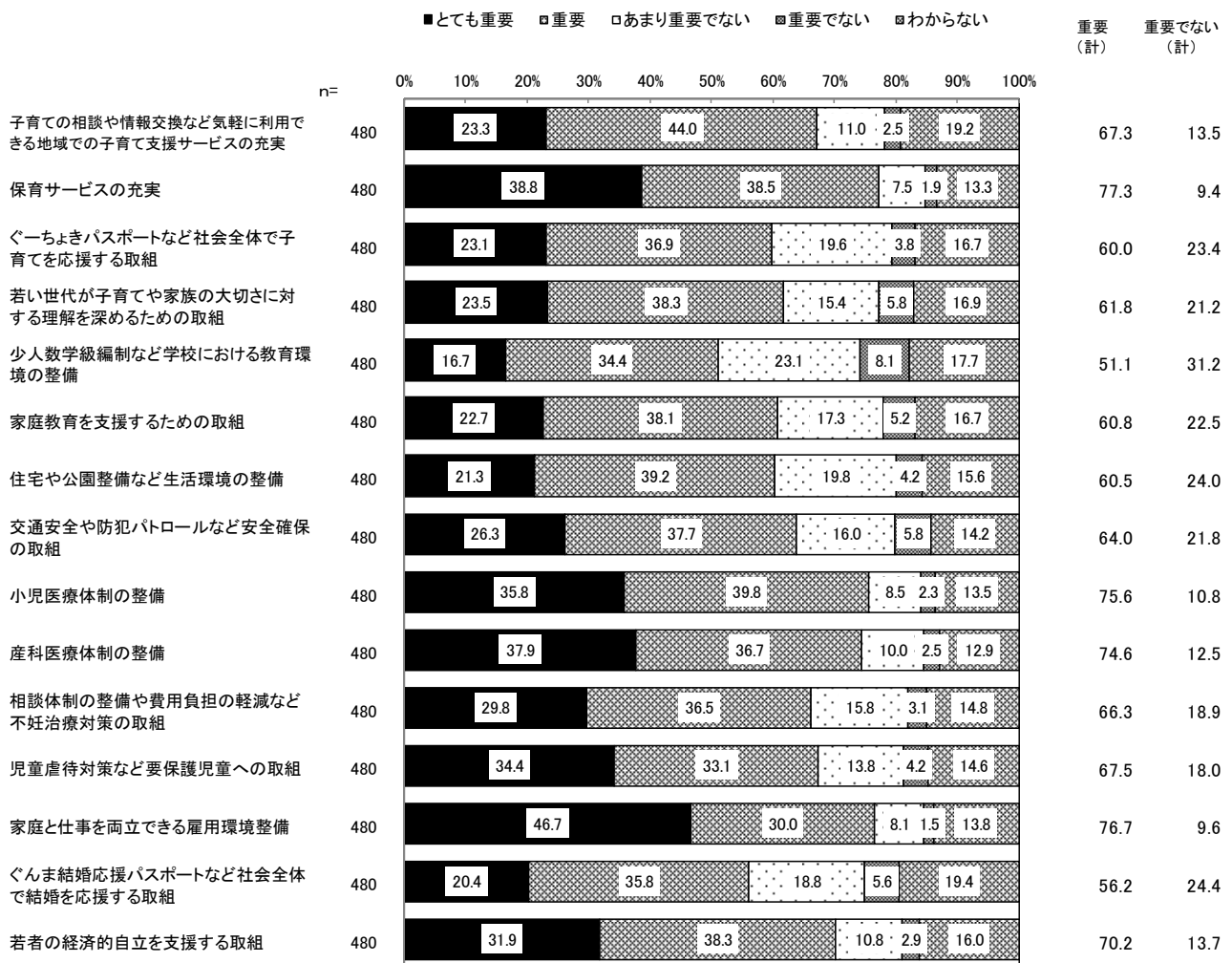




## 6 少子化対策について

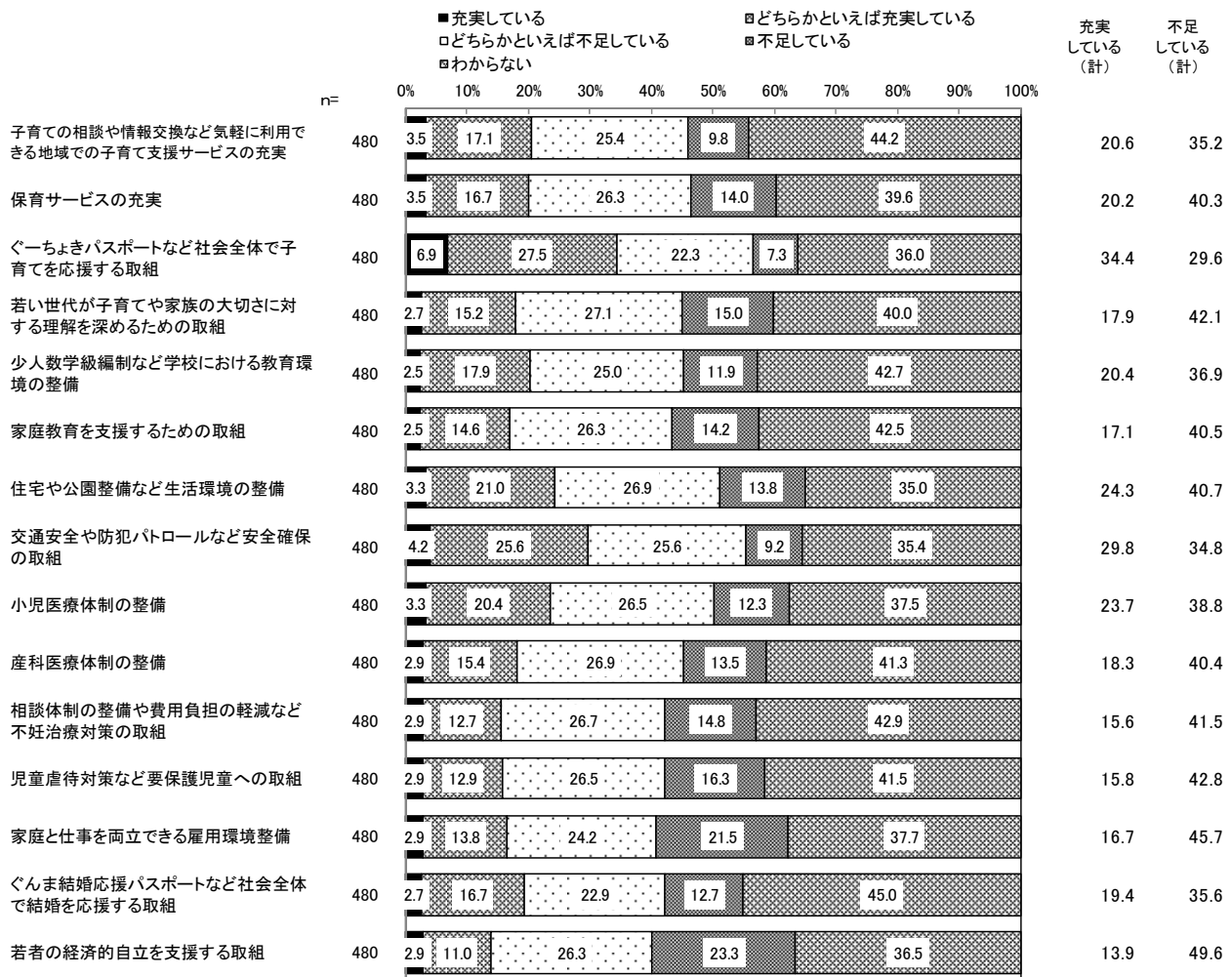
問 28 次の各施策について、総合的にみて少子化対策としての重要度はどの程度だと思いますか。  
(回答はそれぞれ1つ)

少子化対策の重要度については、「重要（計）」は“保育サービスの充実”が77.3%、“家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が76.7%、“小児医療体制の整備”が75.6%で高くなっている。一方、「重要でない（計）」は“少人数学級編制など学校における教育環境の整備”が31.2%、“ぐんま結婚応援パスポートなど社会全体で結婚を応援する取組”が24.4%、“住宅や公園整備など生活環境の整備”が24.0%で高くなっている。



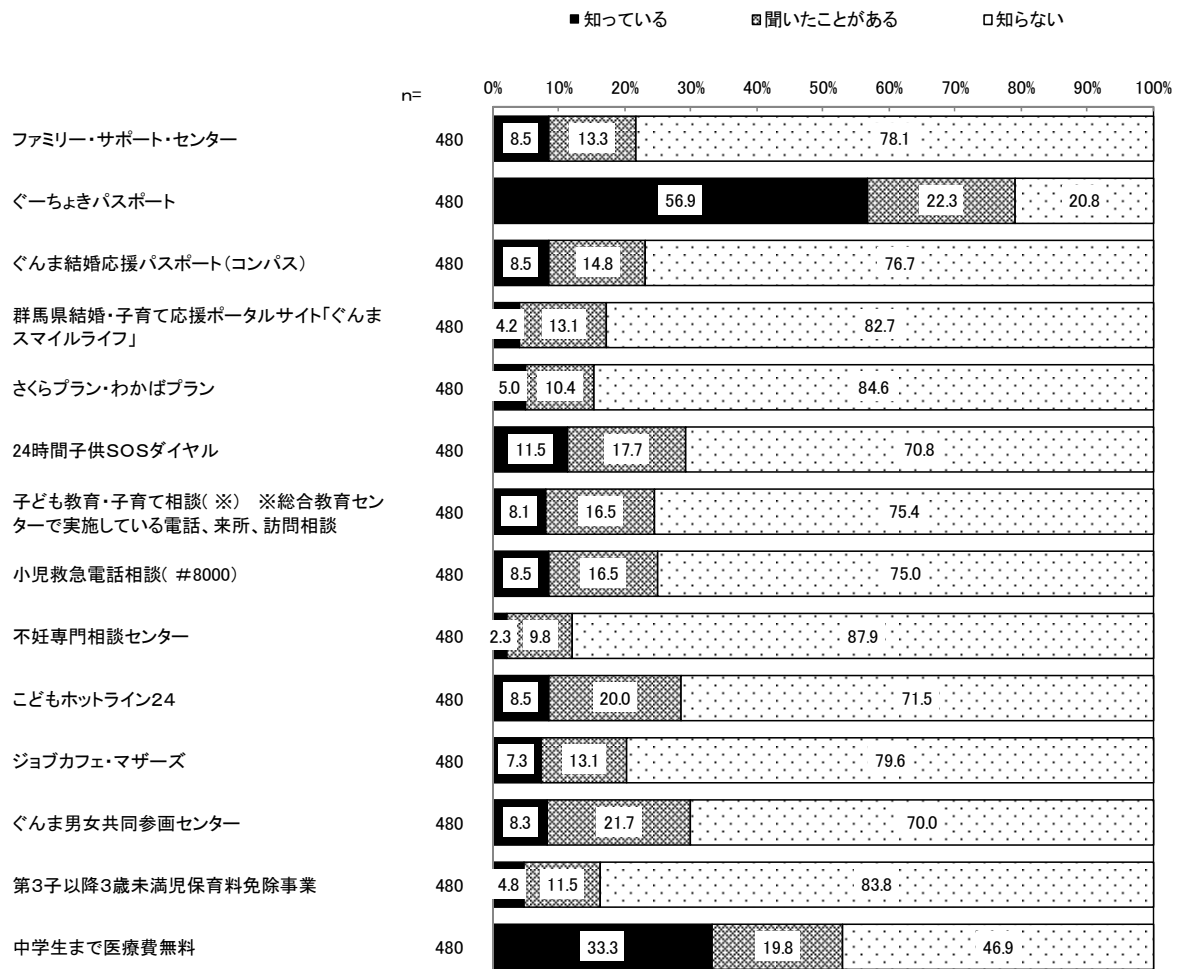
問 29 現状の少子化対策の各施策の取組状況についてどう思いますか。（回答はそれぞれ1つ）

少子化対策の取組状況については、「充実している（計）」は“ぐーちょきパスポートなど社会全体で子育てを応援する取組”が34.4%、“交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組”が29.8%で高くなっている。一方、「不足している（計）」は“若者の経済的自立を支援する取組”が49.6%、“家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が45.7%で高くなっている。



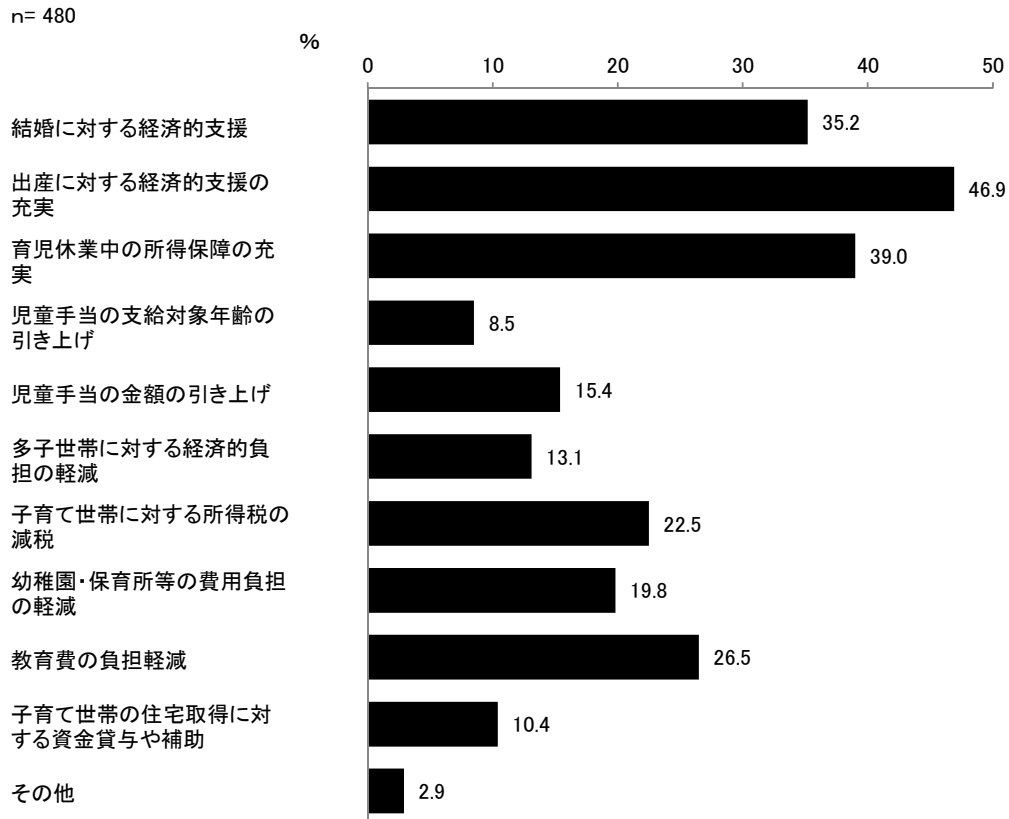
問 30 次の少子化対策関連の制度や事業について、あなたはご存知でしたか。(回答はそれぞれ1つ)

少子化対策関連の制度や事業の認知度については、「知っている」は“ぐーちょきパスポート”が56.9%、“中学生まで医療費無料”が33.3%で高くなっている。一方、「知らない」は“不妊専門相談センター”が87.9%、“さくらプラン・わかばプラン”が84.6%、“第3子以降3歳未満児保育料免除事業”が83.8%となっている。



問 31 あなたは少子化対策としてどのような経済的支援が必要だと思いますか。（回答は3つまで）

少子化対策に必要な経済的支援は、「出産に対する経済的支援の充実」が46.9%で最も高く、次いで「育児休業中の所得保障の充実」が39.0%、「結婚に対する経済的支援」が35.2%となっている。



問 32 結婚、妊娠・出産、子育てや少子化対策について、日頃お考えのことや行政に対する要望等がありましたらご自由にお書きください。（結婚支援、妊娠・出産支援、子育て支援に係る精神的支援など経済的支援以外の取組等）

自由意見については、9項目に分類した。「仕事」についてが12件、「子育て環境」については22件、「出会い・結婚」については21件、「妊娠・出産」については7件、「経済的支援」については36件、「育児」については5件、「情報」については6件、「将来の不安」については6件、「その他」については24件となっている。

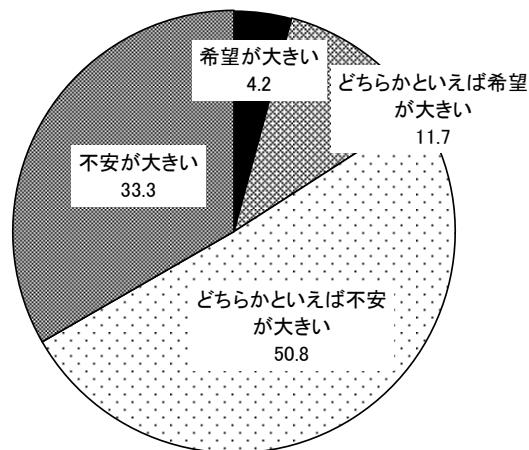
【自由意見の例】

- ・共働きじゃないと生活できませんが、両立が大変で子どもなんて考えられません。
- ・結婚、出産しても復職を喜んでくれるような職場に出会いたい。
- ・保育所を増やしてほしい。保育士の給与をあげてほしい。
- ・不妊治療はとても高額なので補助金を出してほしい。
- ・妊娠出産について情報を知りたい。
- ・経済的余裕がないと、子どもは育てられない。現在、大学まで一般化されているから。
- ・ひとり親家庭への支援をもっと充実してもらいたい。
- ・もっと子どものことについて気軽に相談できるような場所が必要。
- ・もっと色々なところで情報を得られるようにしてほしい。
- ・日本人自体に気持ちのゆとり、余裕がない。生きにくい。
- ・就職氷河期世代の若者の賃金が上がらない限り少子化は止まらない。
- ・少子化は当たり前。人口だけ増やしても意味がない。
- ・出会いの機会をもっと増やしてほしい。
- ・結婚することで得られるメリットを周知してもらいたい。
- ・結婚して子どもを産むだけが人生ではない。
- ・同性愛など少数派の人たちへの取組もしてほしい。
- ・一学級内の児童生徒数が多すぎる。

## 7 子どもの未来について

問 33 将来の社会を支える子ども達の10年後、20年後の未来について、どのように思いますか。

将来の社会を支える子ども達の10年後、20年後の未来は、「どちらかといえば不安が大きい」が50.8%で最も高く、次いで「不安が大きい」が33.3%、「どちらかといえば希望が大きい」が11.7%となっている。



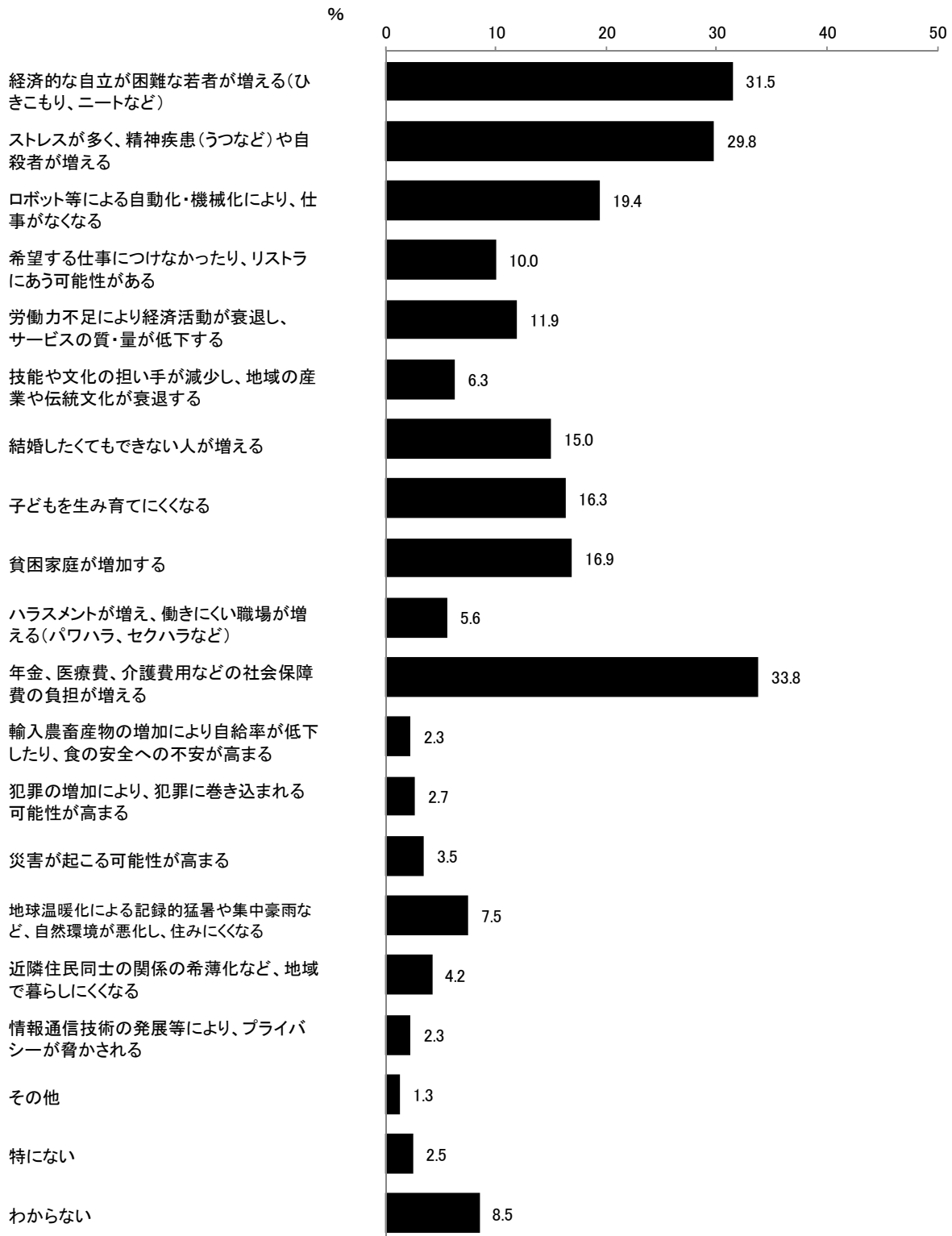
n= 480

%

問 34 将来の社会を支える子ども達の10年後、20年後に不安があるとしたら、どんなことだと思いますか。（回答は3つまで）

将来の社会を支える子ども達の10年後、20年後に対する不安は、「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」が33.8%で最も高く、次いで「経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）」が31.5%、「ストレスが多く、精神疾患（うつなど）や自殺者が増える」が29.8%となっている。

n= 480



### 第3 夫婦全般に関する調査（夫婦調査）

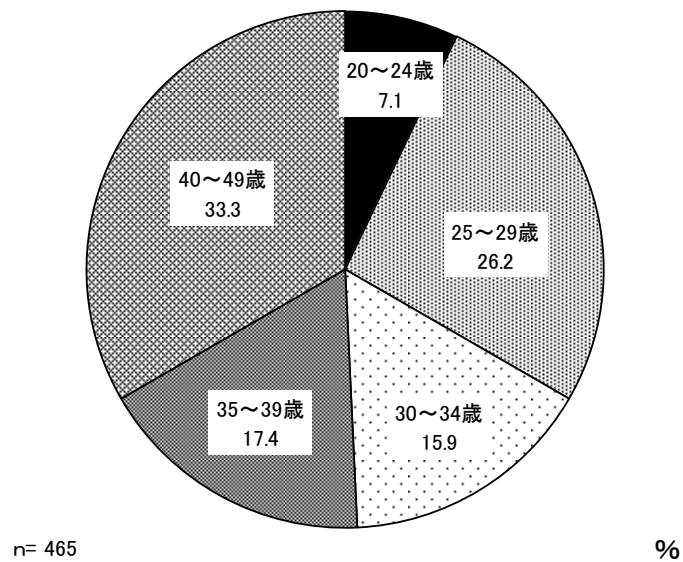
#### 1 あなたご自身について（属性）

（問1）あなたの性別をお答えください。

※（問1）については、全回答が女性であるため、グラフの掲載やコメント記述は割愛する。

（問2）あなたの年齢をお答えください。

年齢は、「40～49歳」が33.3%で最も高く、次いで「25～29歳」が26.2%、「35～39歳」が17.4%となっている。

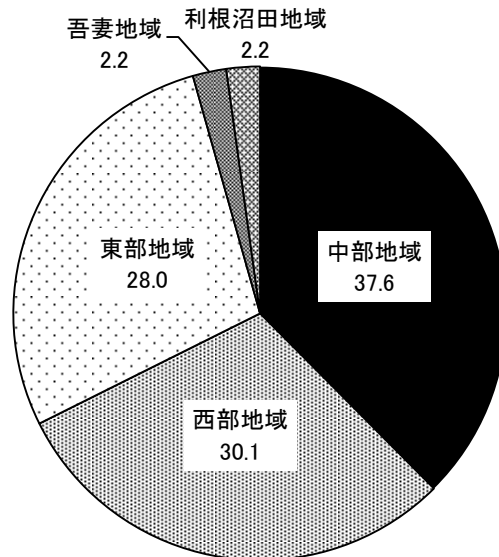




(問3) あなたがお住まいの都道府県をお答えください。

(問4) あなたがお住まいの市町村をお答えください。

お住まいの市町村を5地域に分けた場合、「中部地域」が37.6%で最も高く、次いで「西部地域」が30.1%、「東部地域」が28.0%となっている。



n= 465

%

※ (問3) については、全回答が群馬県となるため、グラフの掲載やコメント記述は割愛する

(問5-1) あなたは現在結婚をしていますか。

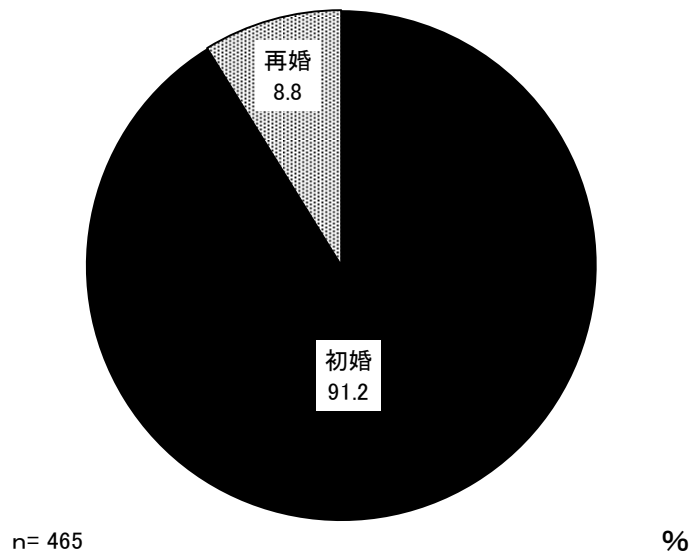
※(問5-1)については、全回答が「結婚している」であるため、グラフの掲載やコメント記述は割愛する。

(問5-2) あなたは婚姻届を提出していますか。

※(問5-2)については、全回答が「婚姻届を提出している」であるため、グラフの掲載やコメント記述は割愛する。

(問5-3) あなたについてあてはまるものをお答えください。

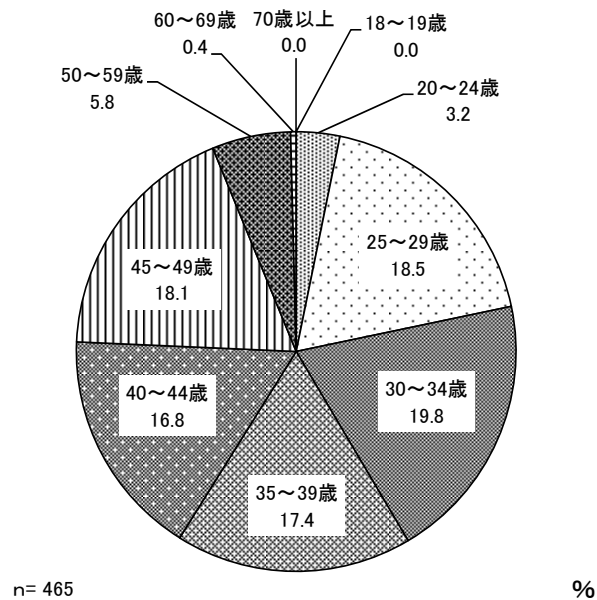
回答者については、「初婚」が91.2%、「再婚」が8.8%となっている。



## 2 あなた方ご夫婦について（属性）

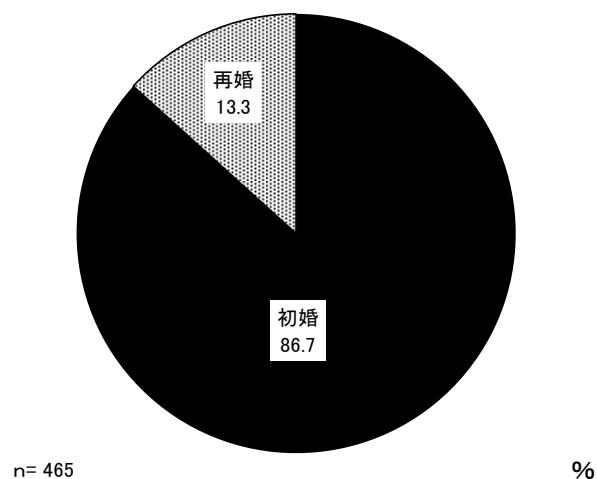
### 問1-1 あなたの夫の年齢をお答えください。

回答者の夫の年齢は、「30～34歳」が19.8%で最も高く、次いで「25～29歳」が18.5%、「45～49歳」が18.1%となっている。



### 問1-2 あなたの夫は、初婚ですか、再婚ですか。

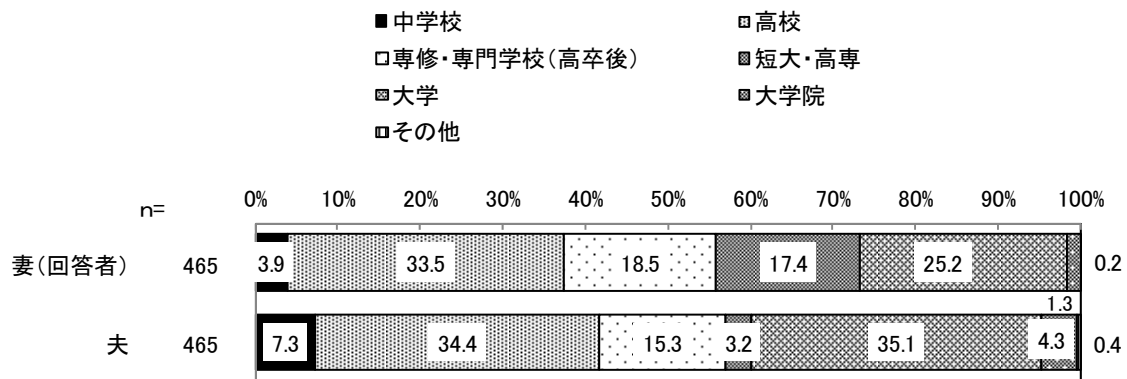
回答者の夫は「初婚」が86.7%、「再婚」が13.3%となっている。



問2-1 あなた方ご夫婦それぞれについて、最後に卒業された（あるいは在学中の）学校をお答えください。

最終学歴は、妻（回答者）については、「高校」が33.5%で最も高く、次いで「大学」が25.2%、「専修・専門学校（高卒後）」が18.5%となっている。

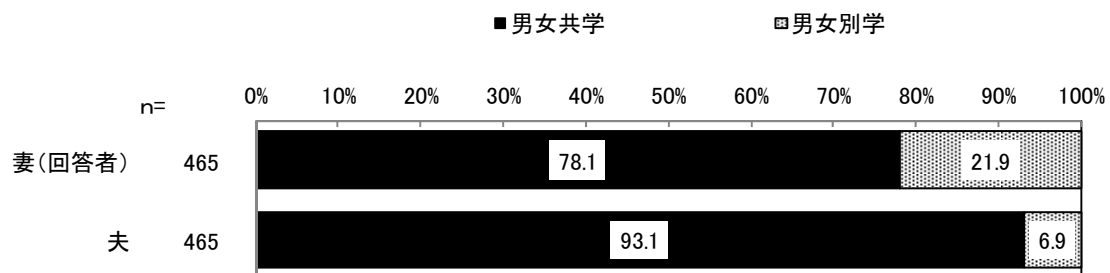
夫については「大学」が35.1%で最も高く、次いで「高校」が34.4%、「専修・専門学校（高卒後）」が15.3%となっている。



問2-2 あなた方ご夫婦それぞれについて、最後に卒業された（あるいは在学中の）学校についてお答えください。

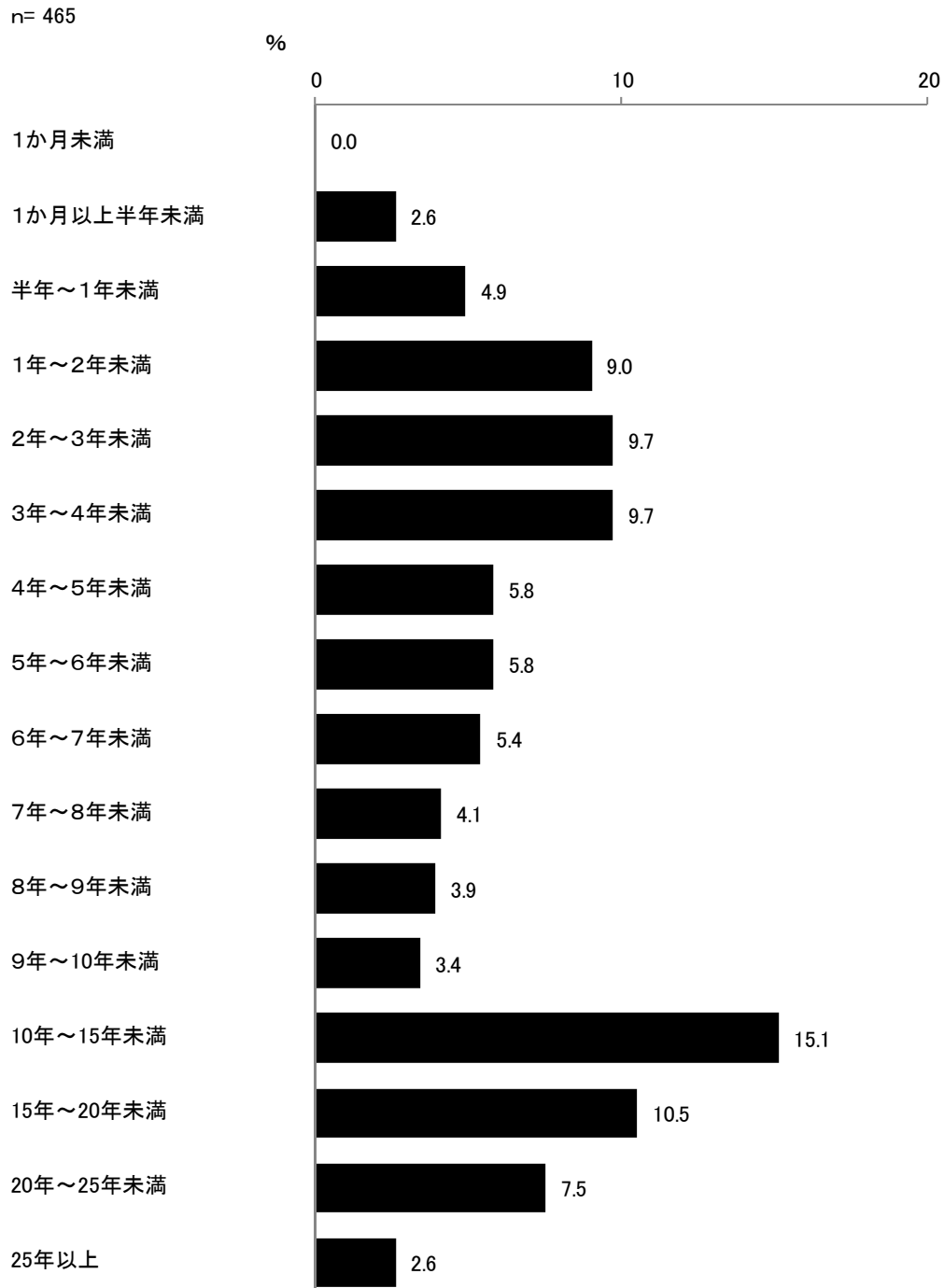
男女共学か別学かは、妻（回答者）については「男女共学」が78.1%、「男女別学」が21.9%となっている。

夫については「男女共学」が93.1%、「男女別学」が6.9%となっている。



問3 あなた方ご夫婦の結婚からの経過期間についてお答えください。

結婚からの経過期間は「10年～15年未満」が15.1%で最も高く、次いで「15年～20年未満」が10.5%、「2年～3年未満」、「3年～4年未満」が9.7%となっている。

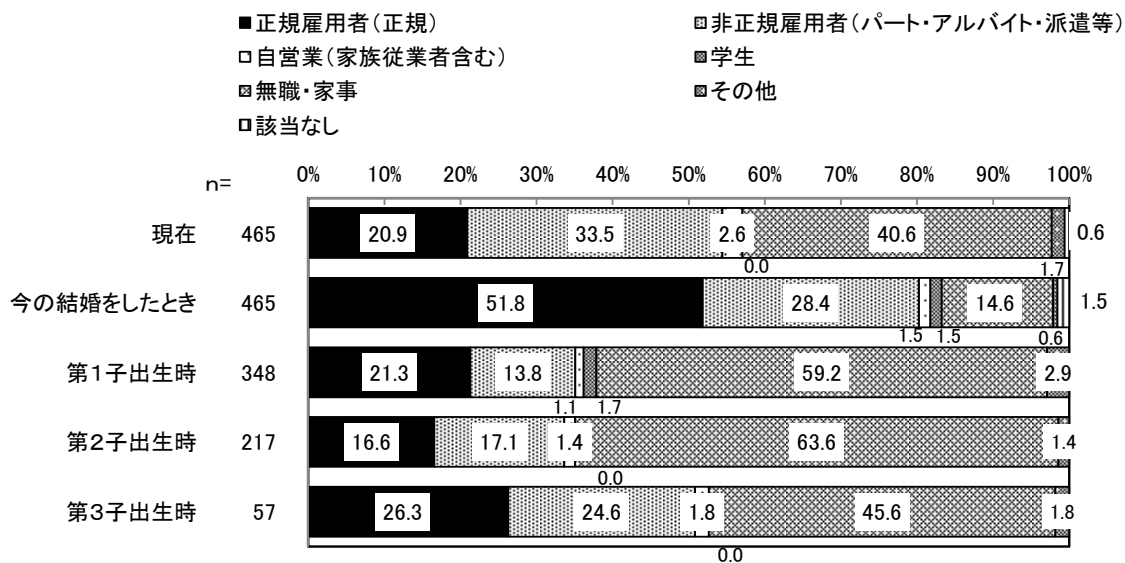


問4 あなた方ご夫婦それぞれの職業をお答えください。（回答はそれぞれ1つ）  
（各ライフイベントの時点ごとにお答えください。）

就労状況をみると、妻（回答者）は、「正規雇用者（正規）」は“今の結婚をしたとき”が51.8%で最も高くなっているが、“第1子出生時”から“第2子出生時”にかけて低くなっており、“現在”も20.9%となっている。「無職・家事」は、“今の結婚をしたとき”が14.6%で最も低いが、“第1子出生時”から“第2子出生時”にかけて高くなっており、“現在”も40.6%となっている。

夫は、「正規雇用者（正規）」がいずれの段階でも多くを占めている。

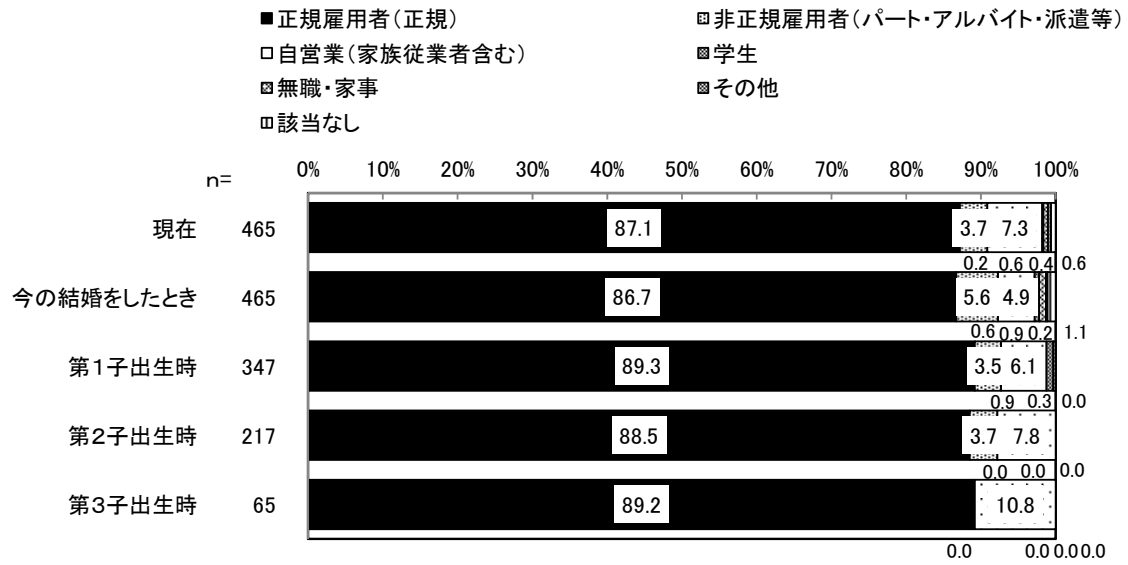
【妻（回答者）】



上段：実数、下段：%

	調査数	正規雇用者(正規)	非正規雇用者(パート・アルバイト・派遣等)	自営業(家族従業者含む)	学生	無職・家事	その他	該当なし
現在	465	97	156	12	-	189	8	3
	100.0	20.9	33.5	2.6	-	40.6	1.7	0.6
今の結婚をしたとき	465	241	132	7	7	68	3	7
	100.0	51.8	28.4	1.5	1.5	14.6	0.6	1.5
第1子出生時	348	74	48	4	6	206	10	-
	100.0	21.3	13.8	1.1	1.7	59.2	2.9	-
第2子出生時	217	36	37	3	-	138	3	-
	100.0	16.6	17.1	1.4	-	63.6	1.4	-
第3子出生時	57	15	14	1	-	26	1	-
	100.0	26.3	24.6	1.8	-	45.6	1.8	-

【夫】



上段：実数、下段：%

	調査数	正規雇用者 (正規)	自営業 (家族従業者含む)	非正規雇用者 (パート・アルバイト・派遣等)	学生	無職・家事	その他	該当なし
現在	465	405	17	34	1	3	2	3
	100.0	87.1	3.7	7.3	0.2	0.6	0.4	0.6
今の結婚をしたとき	465	403	26	23	3	4	1	5
	100.0	86.7	5.6	4.9	0.6	0.9	0.2	1.1
第1子出生時	347	310	12	21	3	1	-	-
	100.0	89.3	3.5	6.1	0.9	0.3	-	-
第2子出生時	217	192	8	17	-	-	-	-
	100.0	88.5	3.7	7.8	-	-	-	-
第3子出生時	65	58	-	7	-	-	-	-
	100.0	89.2	-	10.8	-	-	-	-

### 3 結婚について

問5 あなた方ご夫婦の(1)交際期間、(2)うち同棲期間をお答えください。

交際期間は「1年～2年未満」が23.4%で最も高く、次いで「2年～3年未満」が18.7%、「3年～4年未満」が12.0%となっている。

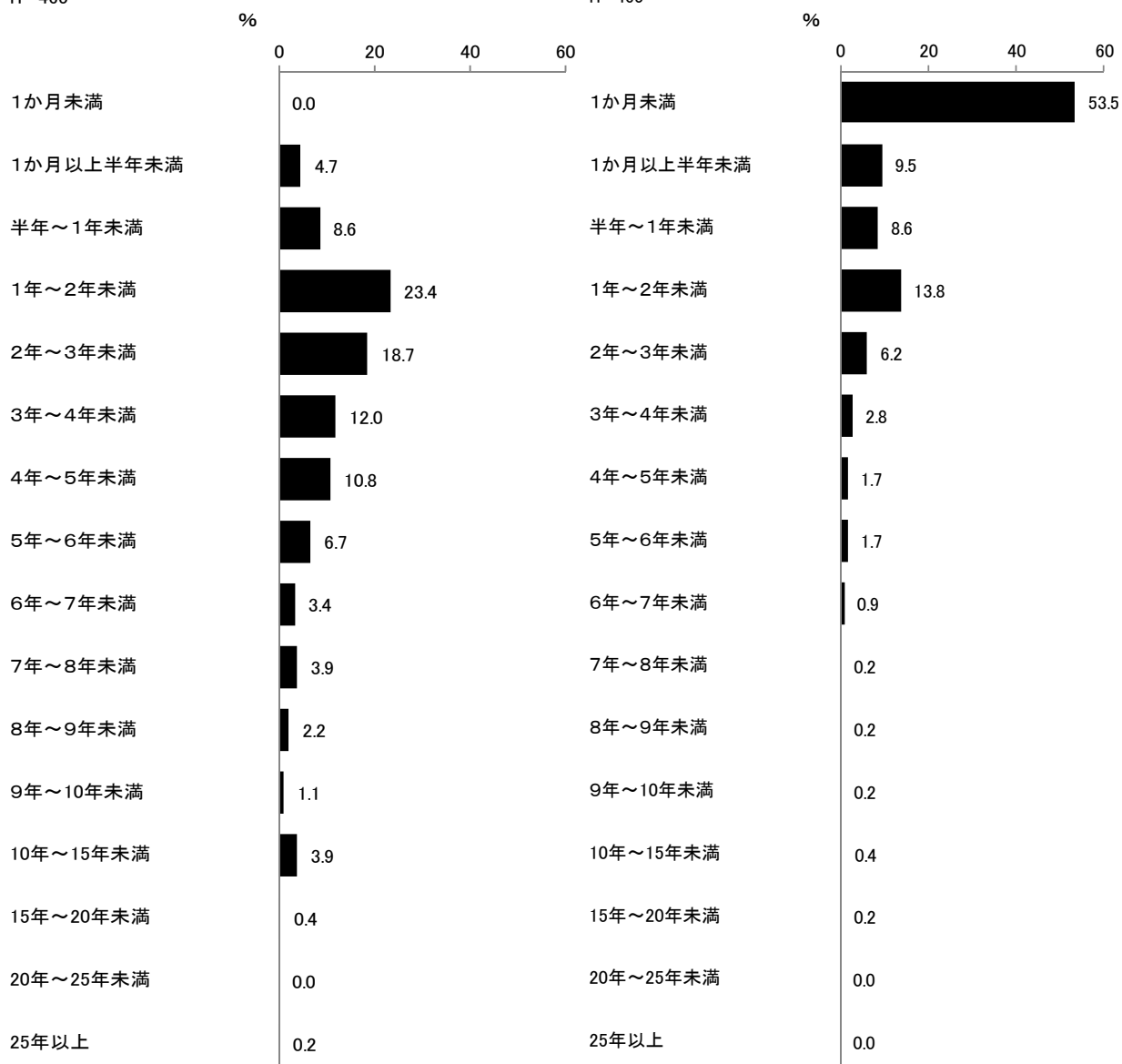
同棲期間は「1か月未満」が53.5%で最も高く、次いで「1年～2年未満」が13.8%、「1か月以上半年未満」が9.5%となっている。

#### 【交際期間】

#### 【同棲期間】

n= 465

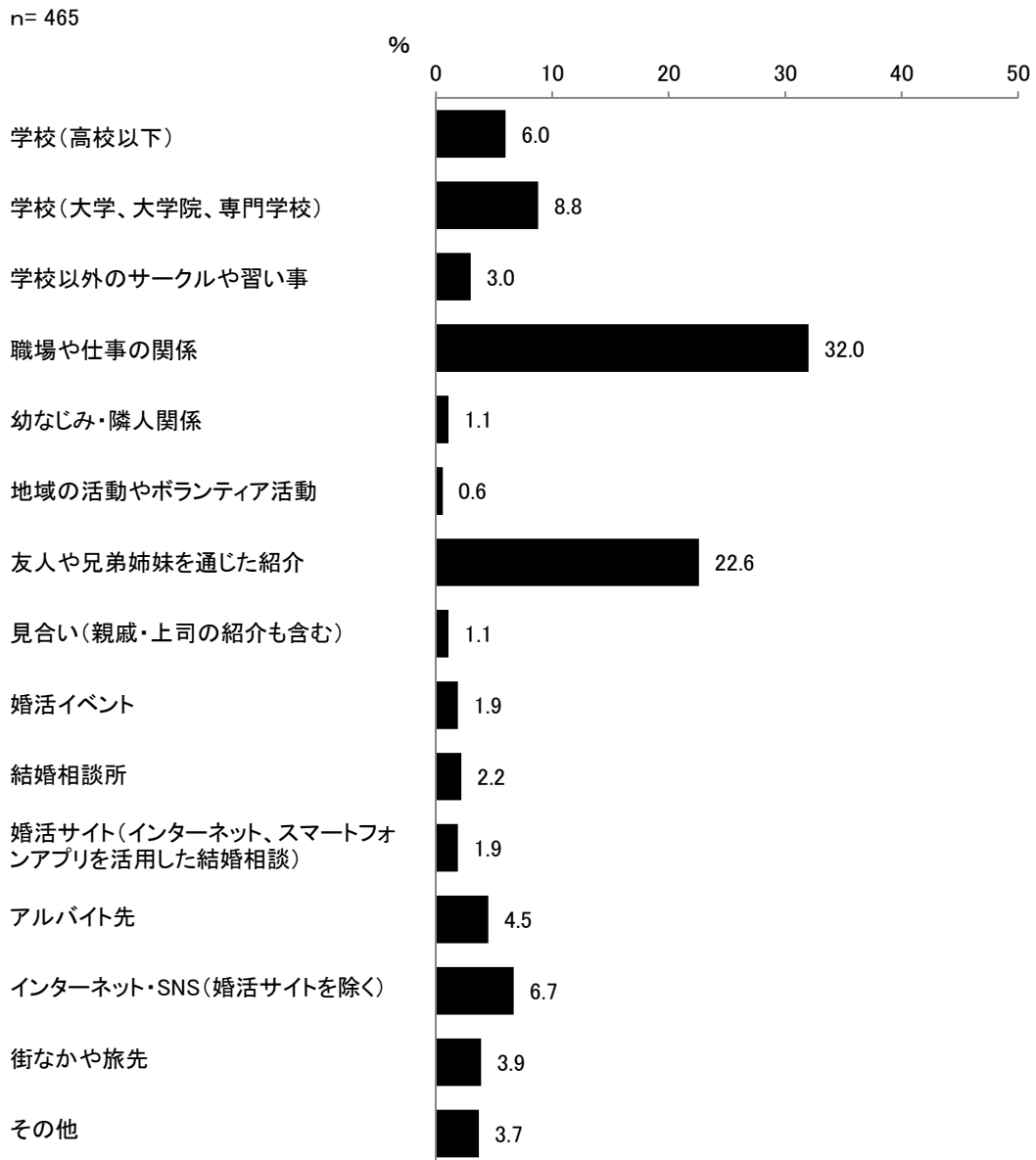
n= 465





問6 あなた方ご夫婦の知り合ったきっかけを教えてください。

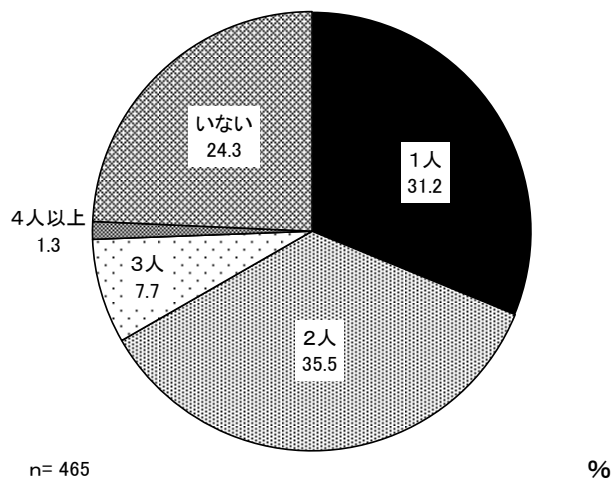
夫婦の知り合ったきっかけは、「職場や仕事の関係」が32.0%で最も高く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じた紹介」が22.6%、「学校（大学、大学院、専門学校）」が8.8%となっている。



#### 4 子どもについて

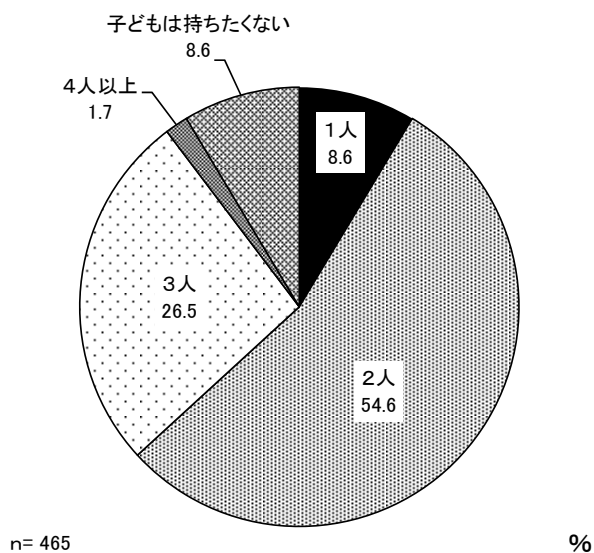
問7 あなた方ご夫婦の間に生まれたお子さんはいらっしゃいますか。  
お子さんがいらっしゃる方は生まれたお子さんの人数を教えてください。  
4人以上を選択した方は具体的な数値をお答えください。

子どもの有無・数は「2人」が35.5%で最も高く、次いで「1人」が31.2%、「いない」が24.3%となっている。



問8 あなた方ご夫婦にとって、ご夫婦の間に生まれる理想的な子どもの数は何人ですか。

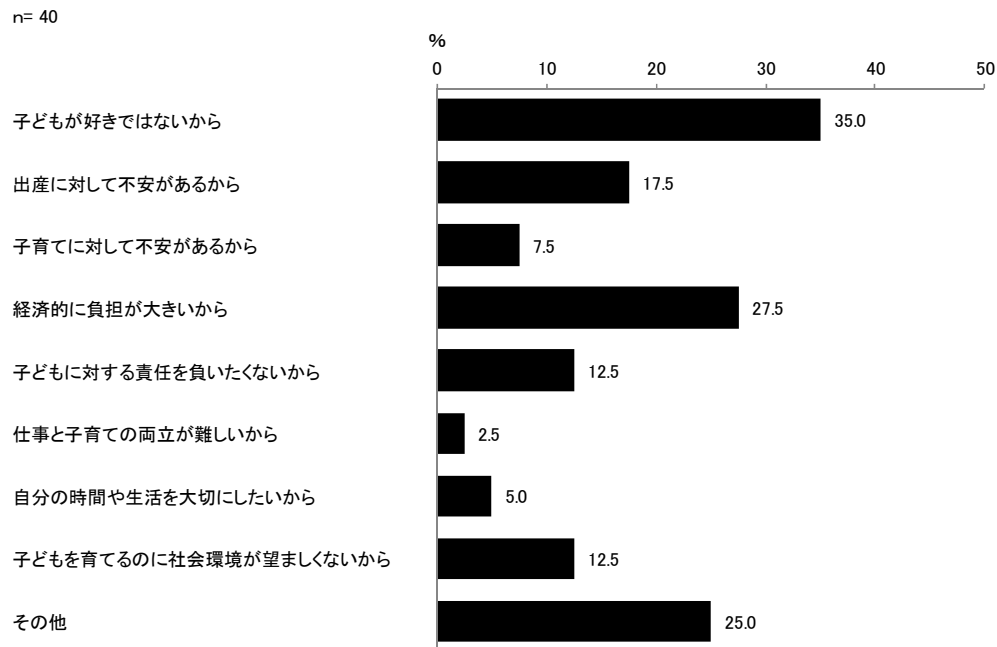
理想の子どもの数は、「2人」が54.6%で最も高く、次いで「3人」が26.5%、「1人」と「子どもは持ちたくない」が8.6%となっている。



**問9 【問8で「子どもは持ちたくない」と回答した方にお聞きします】**

「子どもは持ちたくない」と考える理由は何ですか。（回答は2つまで）

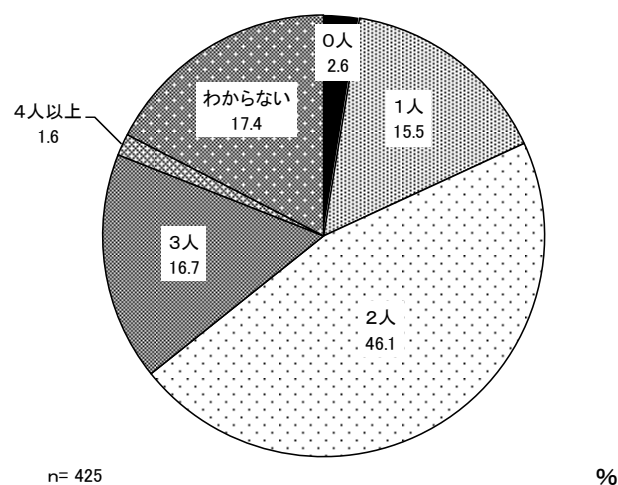
子どもを持ちたくない理由は、「子どもが好きではないから」が35.0%で最も高く、次いで「経済的に負担が大きいから」が27.5%、「その他」が25.0%となっている。



**問10 【問8で「1人」「2人」「3人」「4人以上」を選択した方にお聞きします】**

あなた方ご夫婦の間に生まれる子どもの数について、最終的に何人になる見込みですか。（何人になりましたか。）

子どもの最終的な予定数は、「2人」が46.1%で最も高く、次いで「わからない」が17.4%、「3人」が16.7%となっている。

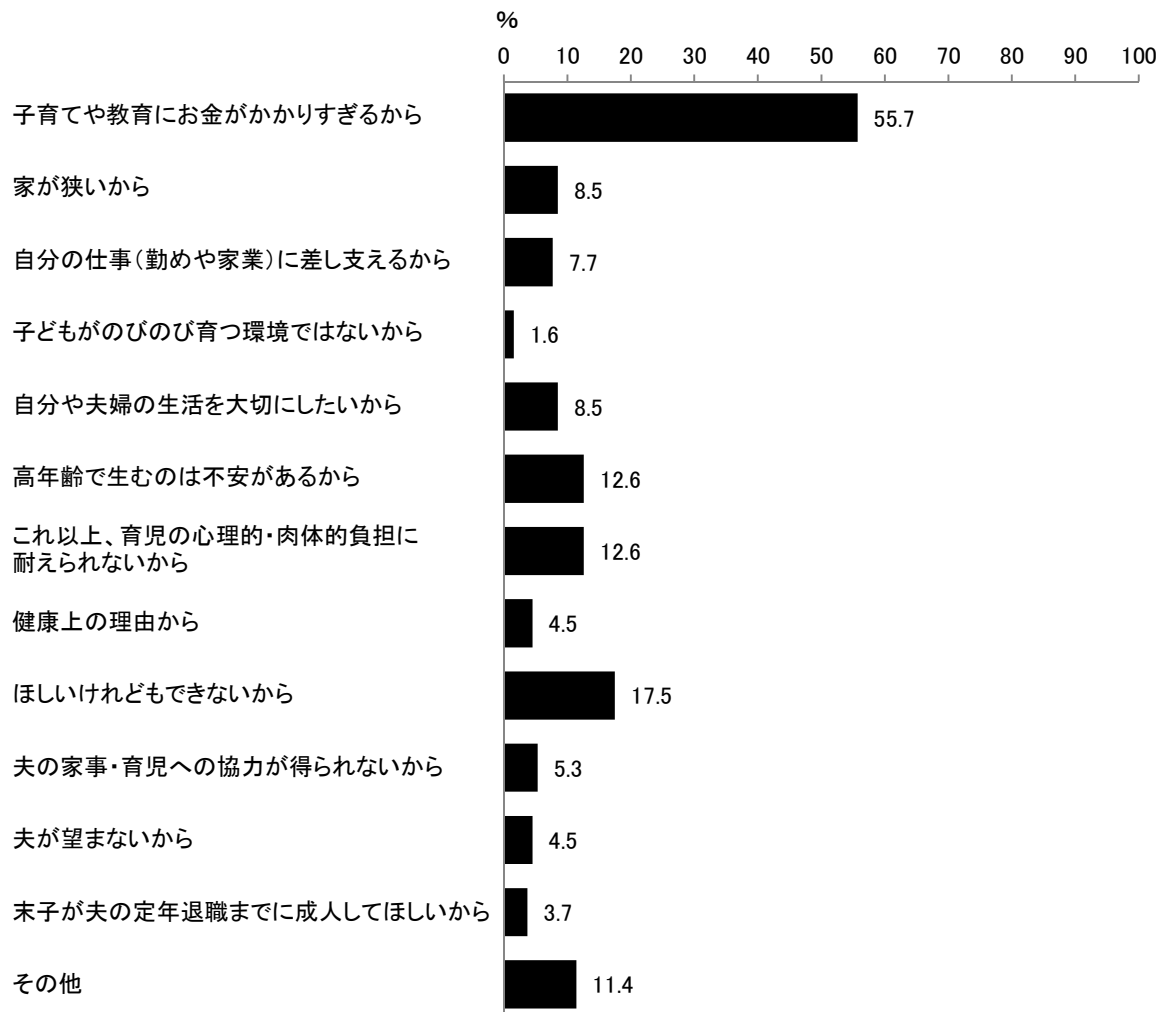


問 11 【「理想的な子どもの数」より「ご夫婦の間に生まれたお子さんの数」が少ない方にお聞きします】

「理想的な子どもの数」より「ご夫婦の間に生まれたお子さんの数」が少ない理由は何ですか。  
(回答は3つまで)

「理想の子ども数」より「現在の子ども数」が少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が55.7%で最も高く、次いで「ほしいけれどもできないから」が17.5%、「高年齢で生むのは不安があるから」と「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」が12.6%となっている。

n= 246



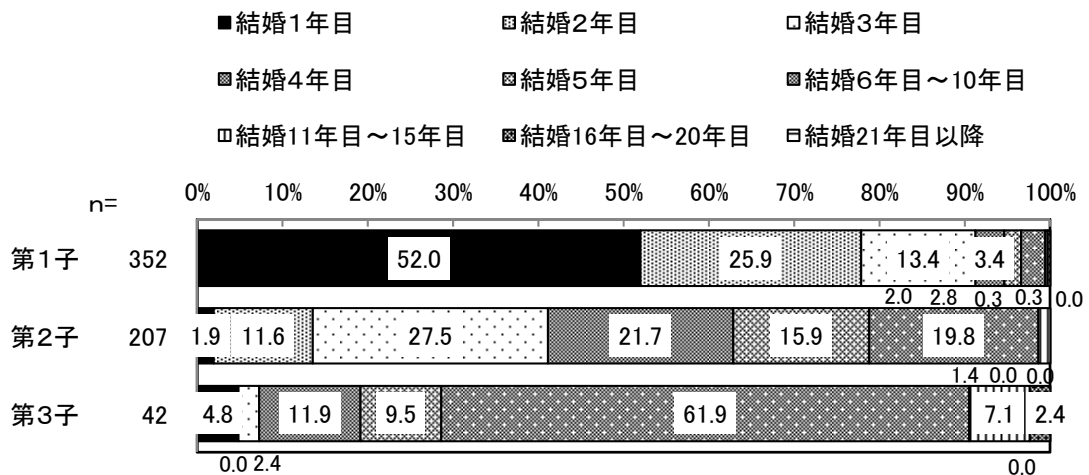
問 12 【ご夫婦の間に生まれたお子さんをお持ちの方のみご回答ください。】

あなた方ご夫婦のお子さんの生まれた時期をお答えください。

子どもの生まれた時期は、第1子は「結婚1年目」が52.0%で最も高く、次いで「結婚2年目」が25.9%、「結婚3年目」が13.4%となっている。

第2子は「結婚3年目」が27.5%で最も高く、次いで「結婚4年目」が21.7%、「結婚6年目～10年目」が19.8%となっている。

第3子は「結婚6年目～10年目」が61.9%で最も高く、次いで「結婚4年目」が11.9%、「結婚5年目」が9.5%となっている。



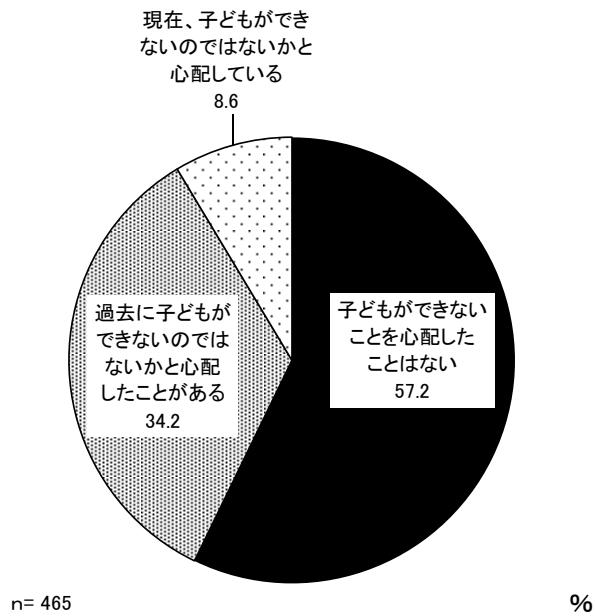
上段：実数、下段：%

	調査数	結婚1年目	結婚2年目	結婚3年目	結婚4年目	結婚5年目	結婚6年目～10年目	結婚11年目～15年目	結婚16年目～20年目	結婚21年目以降
第1子	352	183	91	47	12	7	10	1	1	-
	100.0	52.0	25.9	13.4	3.4	2.0	2.8	0.3	0.3	-
第2子	207	4	24	57	45	33	41	3	-	-
	100.0	1.9	11.6	27.5	21.7	15.9	19.8	1.4	-	-
第3子	42	2	-	1	5	4	26	3	1	-
	100.0	4.8	-	2.4	11.9	9.5	61.9	7.1	2.4	-

## 5 妊娠・出産について

問 13 あなた方ご夫婦は、不妊について不安や悩みがありますか。

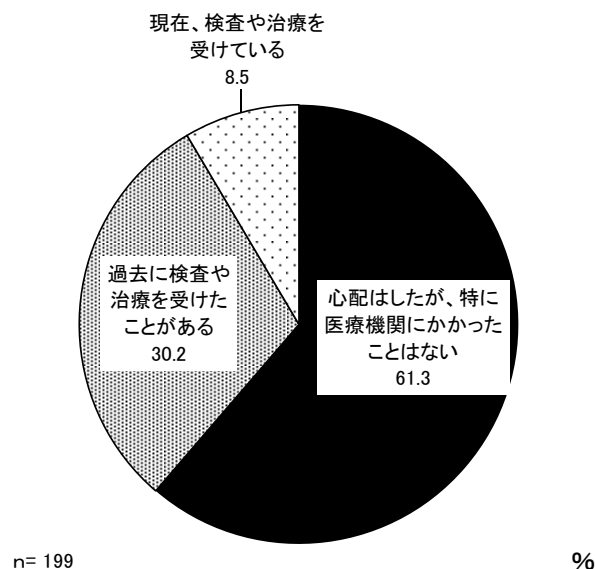
不妊についての不安や悩みは、「子どもができないことを心配したことはない」が 57.2%、「過去に子どもができないのではないかと心配したことがある」が 34.2%、「現在、子どもができないのではないかと心配している」が 8.6%となっている。



【問 13 で「過去に子どもができないのではないかと心配したことがある」、「現在、子どもができないのではないかと心配している」を選択した方のみにお聞きします。】

問 13-1 不妊治療の経験はありますか。

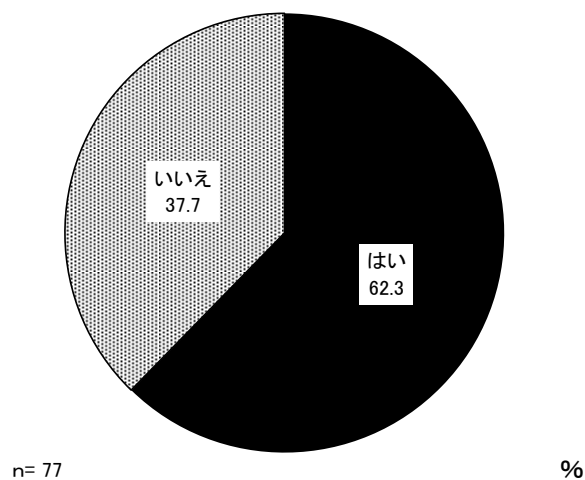
不妊についての不安や悩みがある（あった）場合の治療経験は、「心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない」が 61.3%、「過去に検査や治療を受けたことがある」が 30.2%、「現在、検査や治療を受けている」が 8.5%となっている。



【問 13-1 で「過去に検査や治療を受けたことがある」、「現在、検査や治療を受けている」を選択した方のみにお聞きします。】

問 13-2 治療の結果、お子さんが生まれましたか。

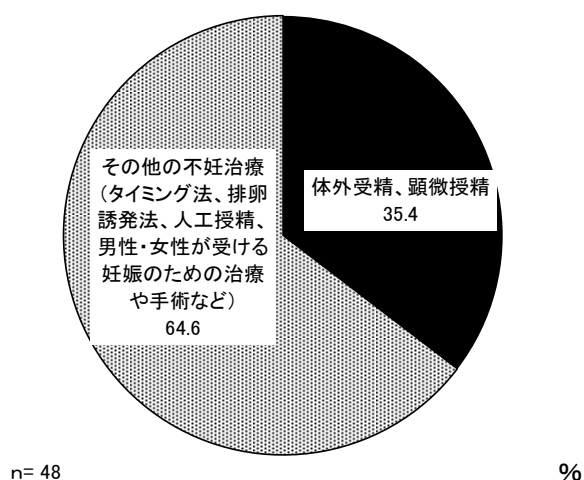
検査や治療を受けた結果、子どもが生まれたかは、「はい」が 62.3%、「いいえ」が 37.7%となっている。



【問 13-2 で「はい」を選択した方のみにお聞きします。】

問 13-3 実施した不妊治療をお答えください。

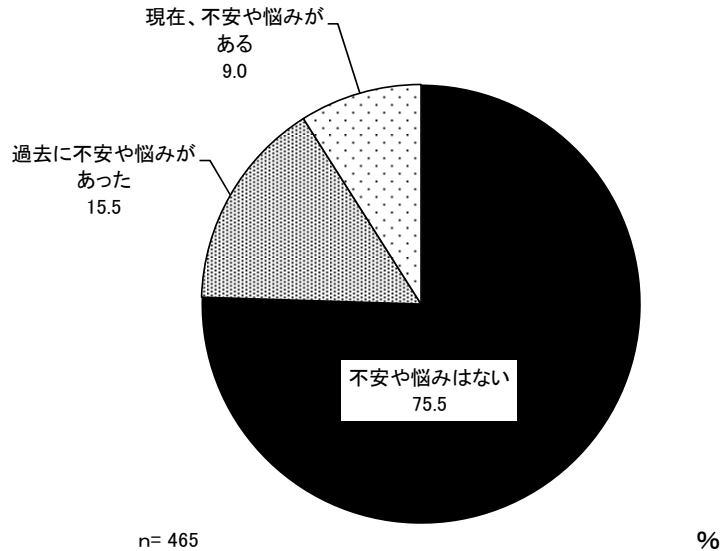
実施した不妊治療は、「その他の不妊治療（タイミング法、排卵誘発法、人工授精、男性・女性が受ける妊娠のための治療や手術など）」が 64.6%、「体外受精、顕微授精」が 35.4%となっている。



問 14 あなた方ご夫婦は、不育について不安や悩みがありますか。

※不育症・・・妊娠はするけれど2回以上の流産・死産もしくは生後1週間以内に死亡する早期新生児死亡によって子どもを持ってない場合のこと

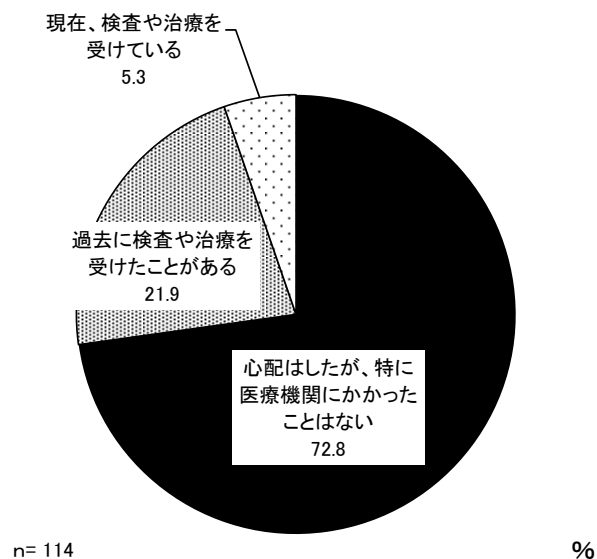
不育についての不安や悩みは、「不安や悩みはない」が75.5%、「過去に不安や悩みがあった」が15.5%、「現在、不安や悩みがある」が9.0%となっている。



【問 14 で「過去に不安や悩みがあった」、「現在、不安や悩みがある」を選択した方のみにお聞きします。】

問 14-1 不育症治療の経験はありますか。

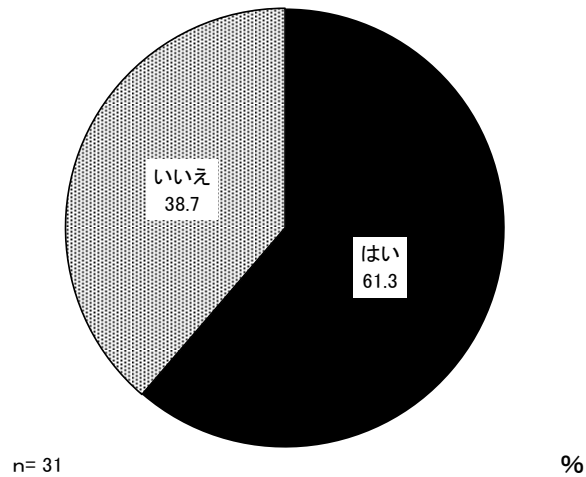
不育について不安や悩みがある（あった）場合の治療経験は、「心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない」が72.8%、「過去に検査や治療を受けたことがある」が21.9%、「現在、検査や治療を受けている」が5.3%となっている。





問 14-2 治療の結果、お子さんは生まれましたか。

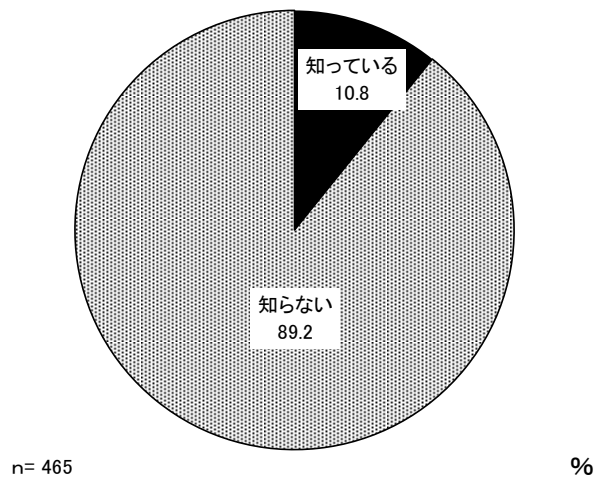
不妊症治療の結果、子どもが生まれたかは、「はい」が 61.3%、「いいえ」が 38.7%となっている。



問 15 あなたは、「群馬県女性健康支援センター※」を知っていますか。

※身体の変化や妊娠に関する事など、女性の健康に関する悩みを助産師に電話で相談できる機関

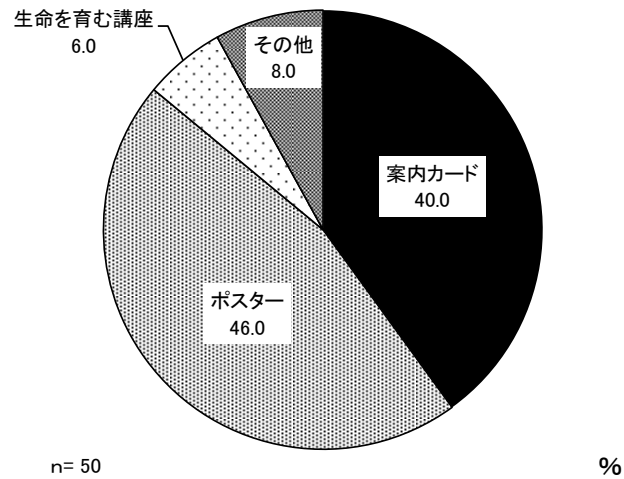
群馬県女性健康支援センターの認知度は、「知らない」が 89.2%、「知っている」が 10.8%となっている。



問 15-1 【問 15 で「知っている」と回答した方に伺います。】

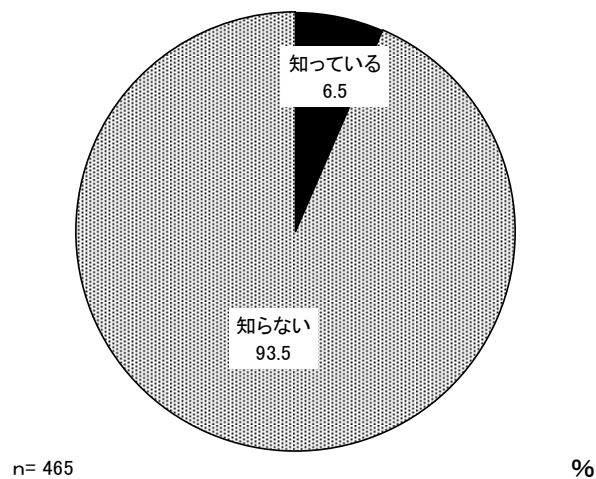
どのようにして知りましたか。

群馬県女性健康支援センターを知っている人の認知手段は、「ポスター」が 46.0%、「案内カード」が 40.0%、「生命を育む講座」が 6.0%となっている。



問 16 不妊・不育症に関する検査・治療方法、治療への不安、家族、仕事の相談などを、女性産婦人科医がお受けする『群馬県不妊専門相談センター』を知っていますか。

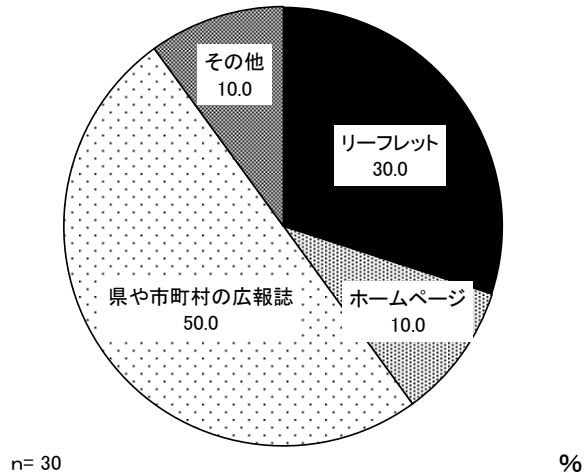
群馬県不妊専門相談センターの認知度は、「知っている」が 6.5%、「知らない」が 93.5%となっている。



問17 【問16で「知っている」と回答した方に伺います。】

どのようにして知りましたか。

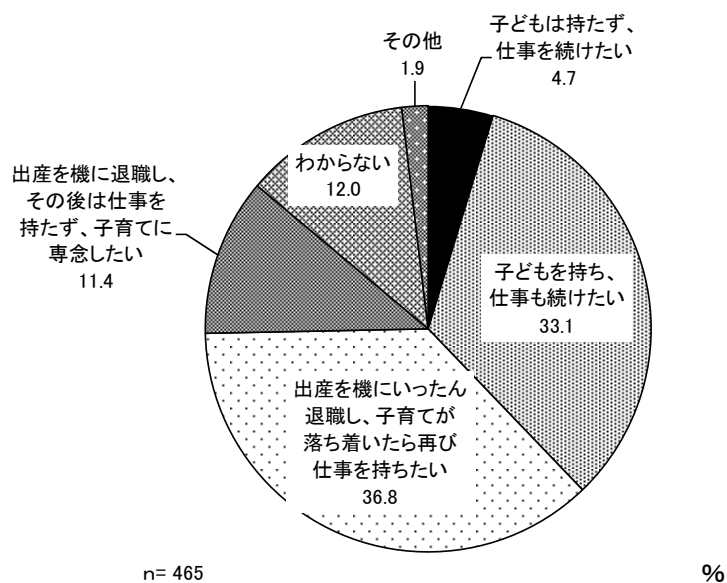
群馬県不妊専門相談センターを知っている人の認知手段は、「県や市町村の広報誌」が50.0%、「リーフレット」が30.0%、「ホームページ」と「その他」が10.0%となっている。



6 結婚、男女関係、家庭、子どもについて

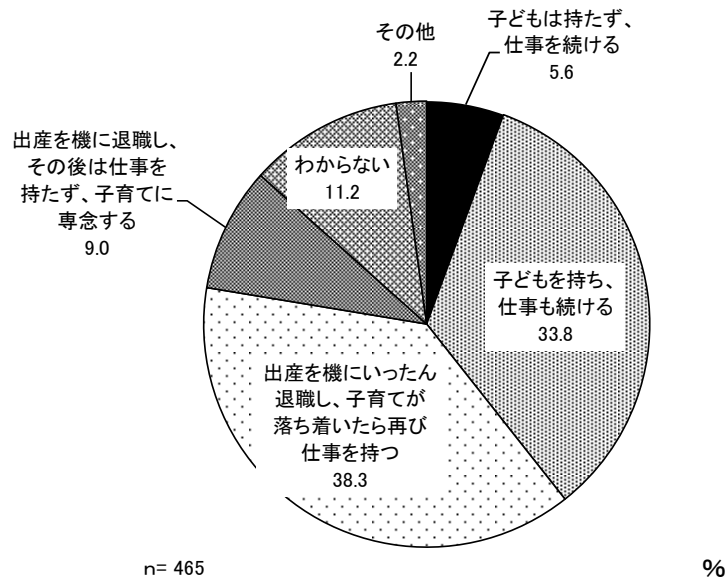
問18 あなたは、自分自身の仕事と子育てについて、どのような希望がありますか（希望がありましたか）。

自分自身の仕事と子育てについての希望は、「出産を機にいったん退職し、子育てが落ち着いたら再び仕事を持ちたい」が36.8%で最も高く、次いで「子どもを持ち、仕事も続けたい」が33.1%、「わからない」が12.0%となっている。



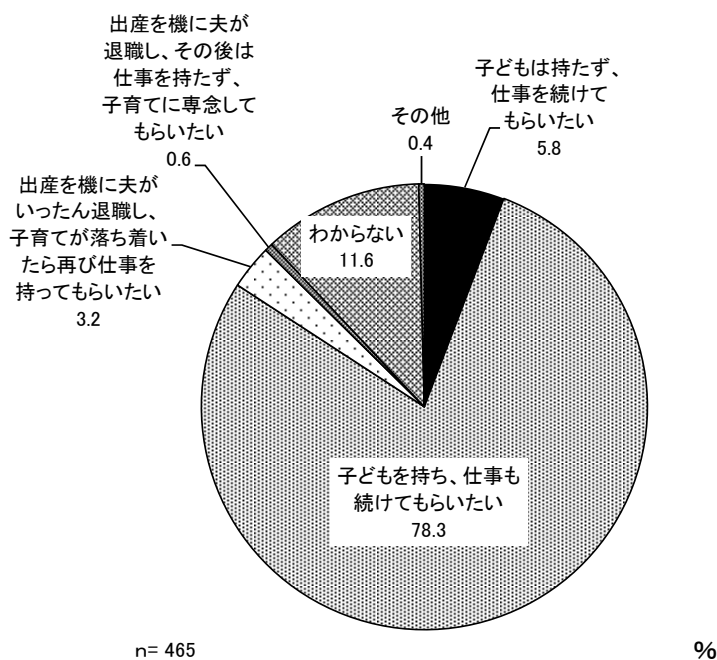
問 19 あなたは、自分自身の仕事と子育てについて、実際にはどのようになりそうですか（どのようになりましたか）。

自分自身の仕事と子育てについての現実には、「出産を機にいったん退職し、子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ」が38.3%で最も高く、次いで「子どもを持ち、仕事も続ける」が33.8%、「わからない」が11.2%となっている。



問 20 夫の仕事と子育てについて、あなたはどのような希望がありますか（ありましたか）。

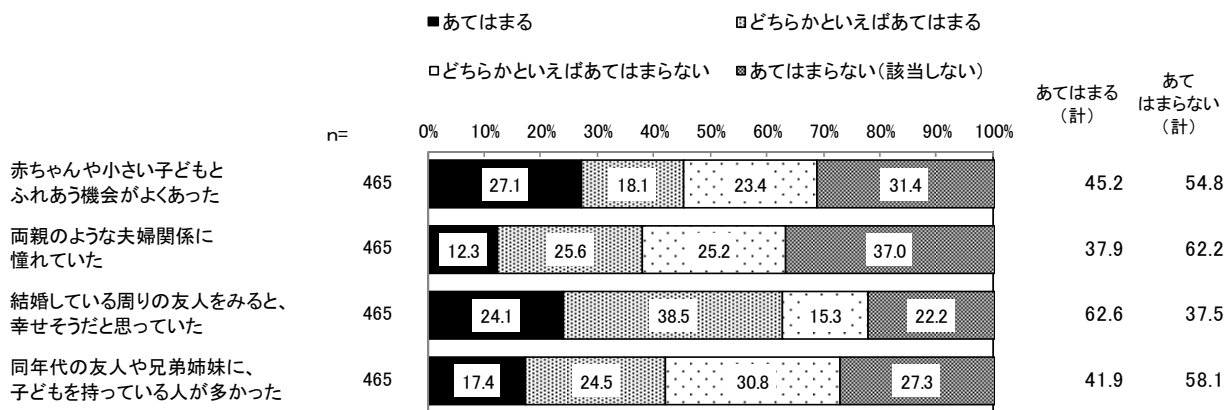
夫の仕事と子育てについての希望は、「子どもを持ち、仕事も続けてもらいたい」が78.3%で最も高く、次いで「わからない」が11.6%、「子どもは持たず、仕事も続けてもらいたい」が5.8%となっている。



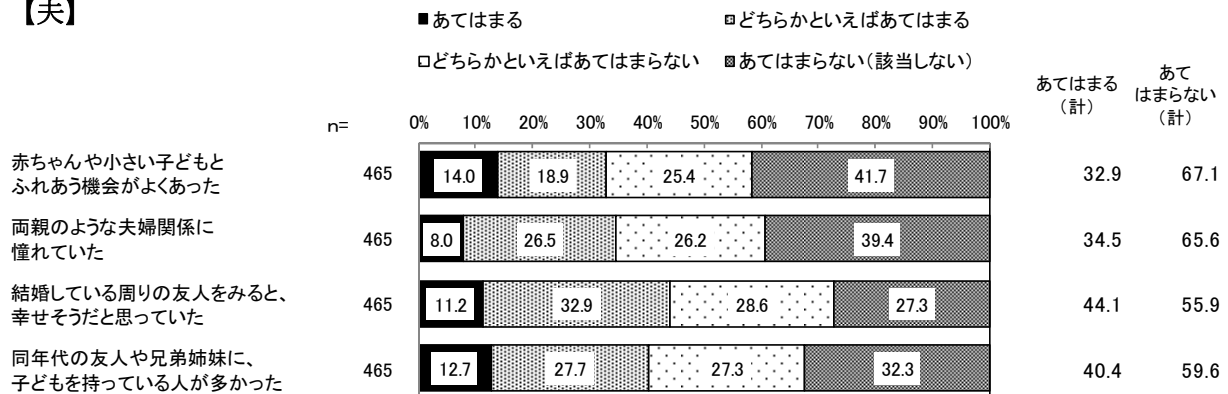
問 21 あなた方ご夫婦の結婚前までの身近な状況について、あてはまるものをお答えください。  
 (質問項目に該当する相手がいない(いなかった)場合は、「あてはまらない(該当しない)」を選択してください。)

ご夫婦の結婚前までの身近な状況は、妻(回答者)は、“結婚している周りの友人をみると、幸せそうだと思っていた”について、「あてはまる(計)」が「あてはまらない(計)」を上回っている。  
 夫は、全ての項目について、「あてはまる(計)」が「あてはまらない(計)」を下回っている。  
 全ての項目について、夫より妻の方が「あてはまる(計)」の割合が高い。

【妻(回答者)】

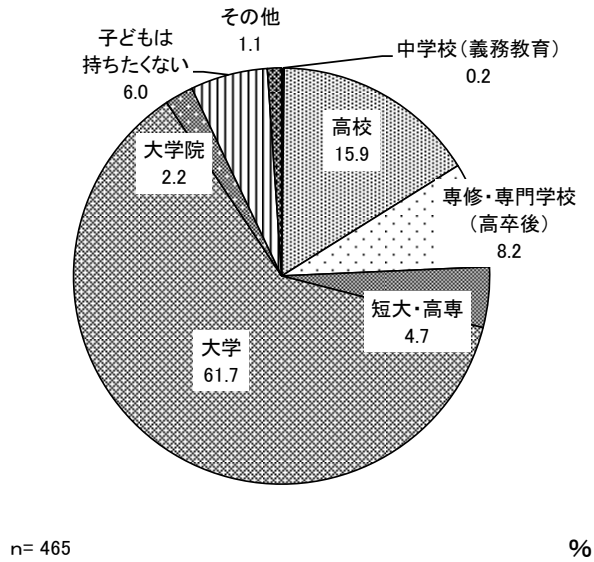


【夫】



問 22 あなた方ご夫婦は、お子さんにどの程度の教育を受けさせたい（受けさせたかった）ですか。

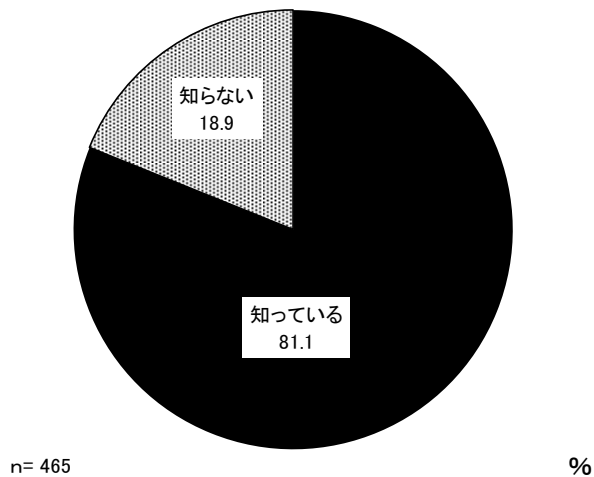
子どもの最終学歴の希望は、「大学」が 61.7%で最も高く、次いで「高校」が 15.9%、「専修・専門学校（高卒後）」が 8.2%となっている。



問 23 里親制度 (※) を知っていますか。

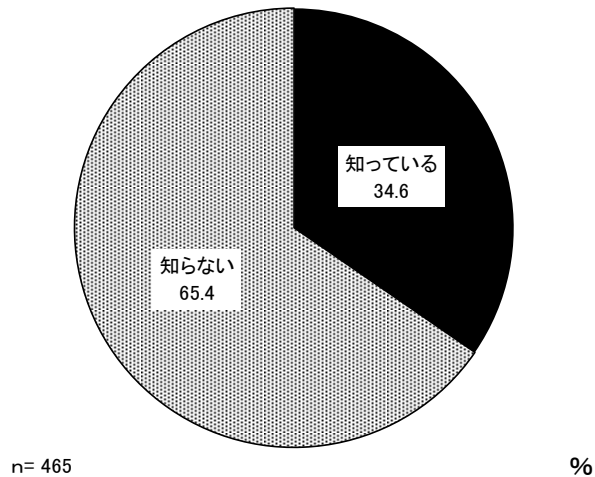
※様々な事情により家庭で生活することができないお子さんに、温かい愛情と正しい理解をもった家庭環境の下での養育を提供する制度

里親制度の認知度は、「知っている」が 81.1%、「知らない」が 18.9%となっている。



問 24 里親制度では、養育期間について、養育する子どもの年齢や人数に応じて、里親手当、養育費（生活費、学校教育費、医療費など）が、里親に対して支給されること知っていますか。

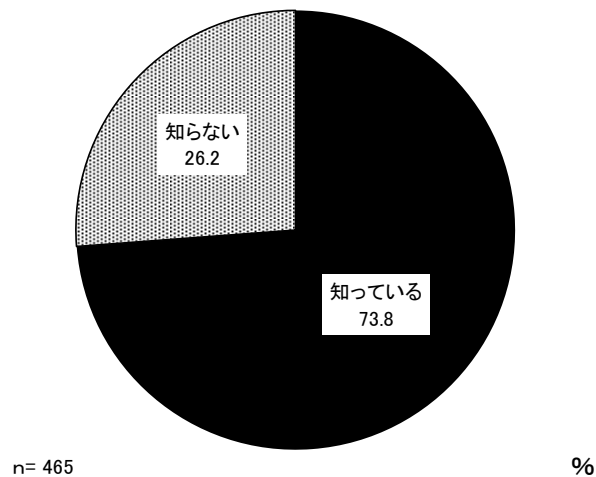
里親制度では養育する子どもの年齢や人数に応じて、里親手当、養育費が支給されることを知っているかについては、「知っている」が34.6%、「知らない」が65.4%となっている。



問 25 特別養子縁組制度（※）を知っていますか。

※子どもの福祉の増進を図るために、養子となるお子さんの実親との法的な親子関係を解消し、実の子として、新たな親子関係を結ぶ制度

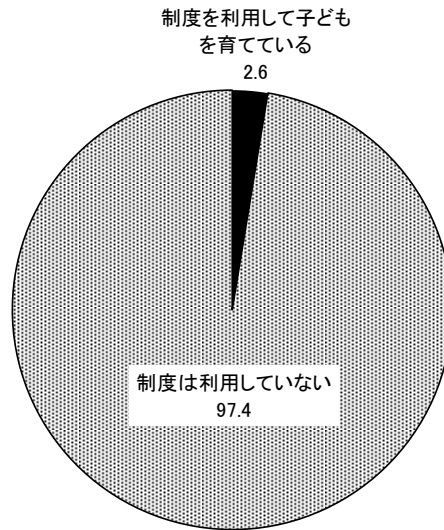
特別養子縁組制度の認知度は、「知っている」が73.8%、「知らない」が26.2%となっている。



【問 25 で「知っている」を選択した方のみにお聞きします。】

問 25-1 特別養子縁組制度を利用したことがありますか。

特別養子縁組制度の利用経験は、「制度は利用していない」が 97.4%、「制度を利用して子どもを育てている」が 2.6%となっている。



n= 343

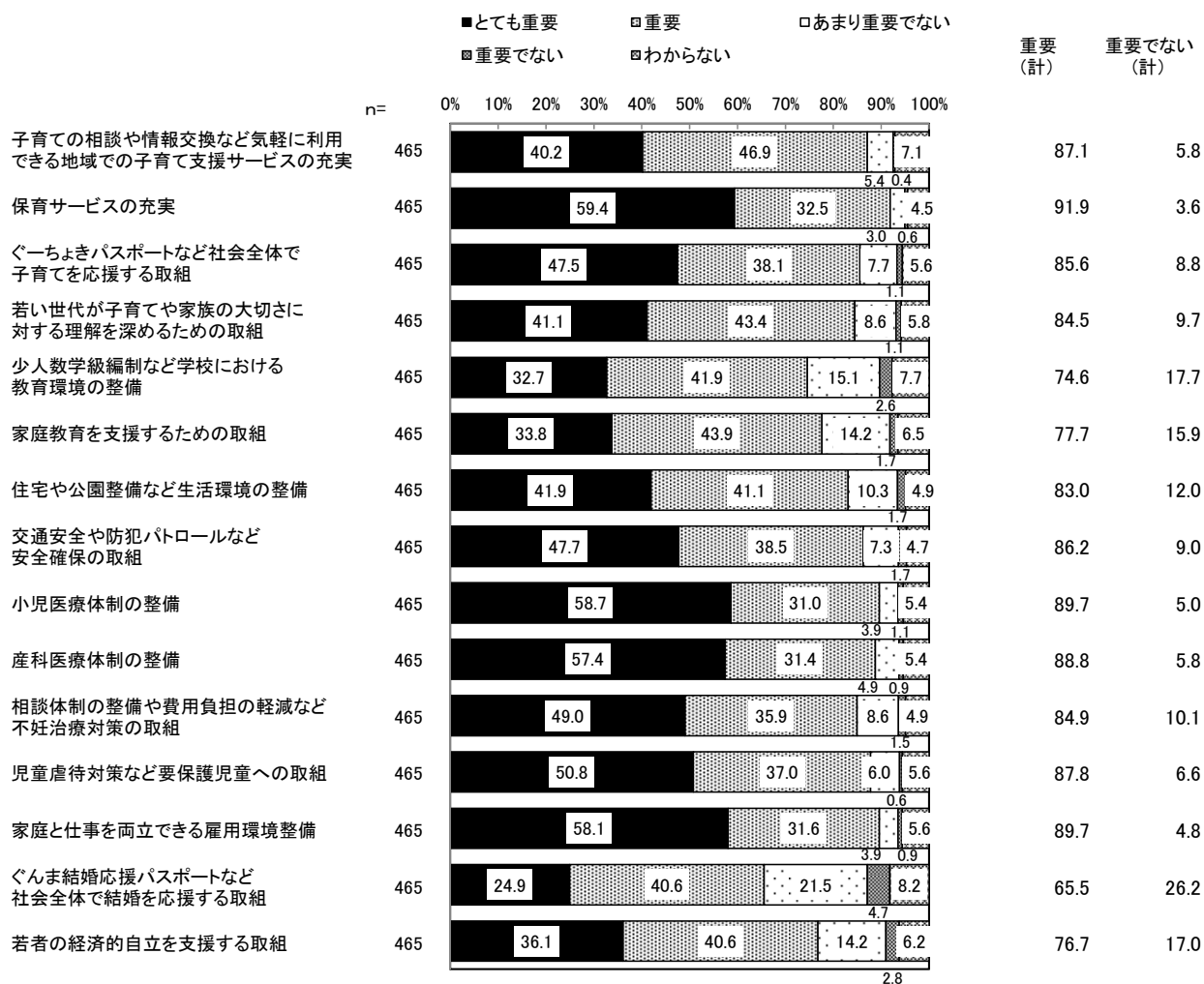
%



## 7 少子化対策について

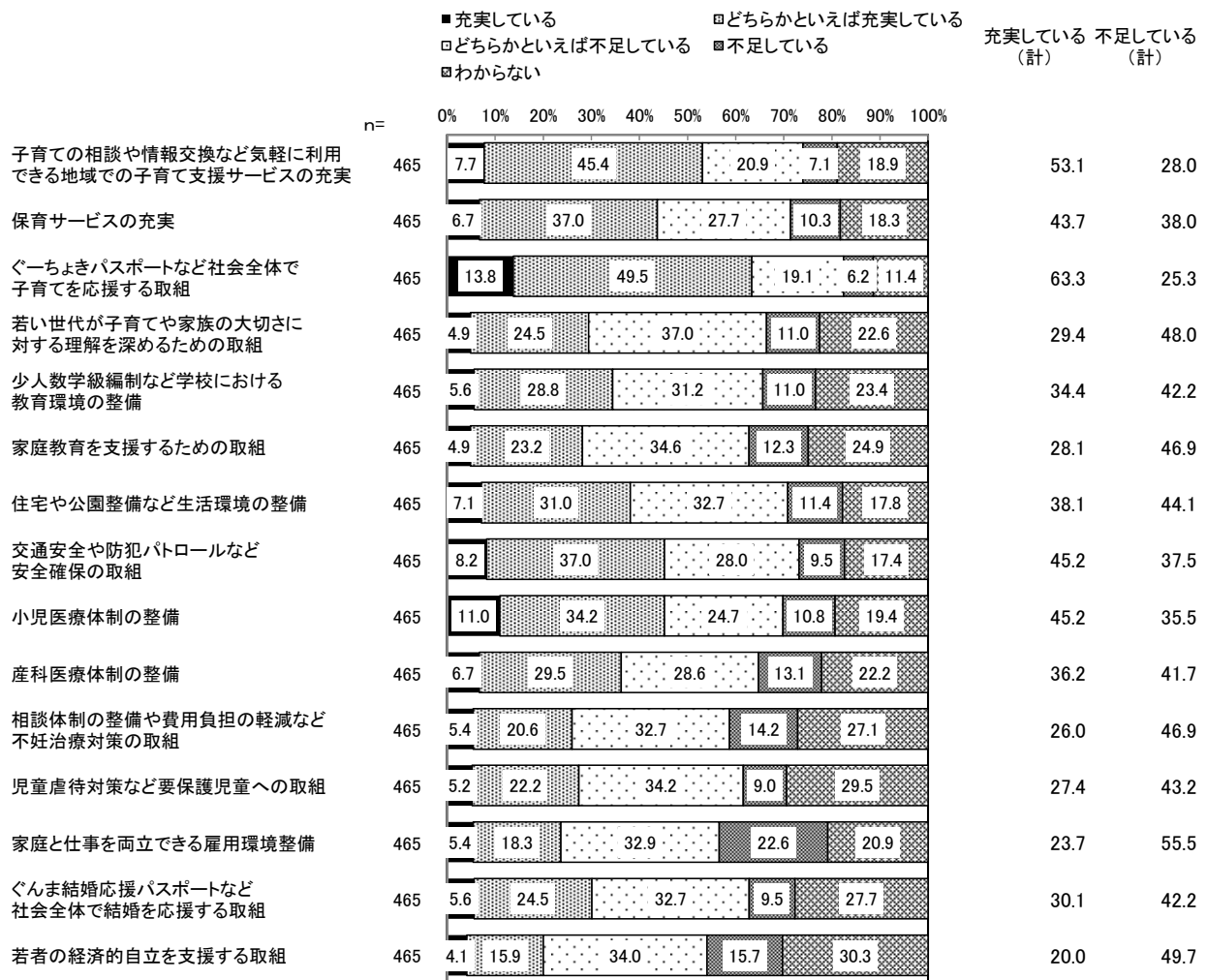
問 26 次の各施策について、総合的にみて少子化対策としての重要度はどの程度だと思いますか。  
(回答はそれぞれ1つ)

少子化対策の重要度については、「重要(計)」は、「保育サービスの充実」が91.9%で最も高く、次いで「小児医療体制の整備」、「家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」が89.7%、「産科医療体制の整備」が88.8%となっている。



問 27 現状の少子化対策の各施策の取組状況についてどう思いますか。（回答はそれぞれ1つ）

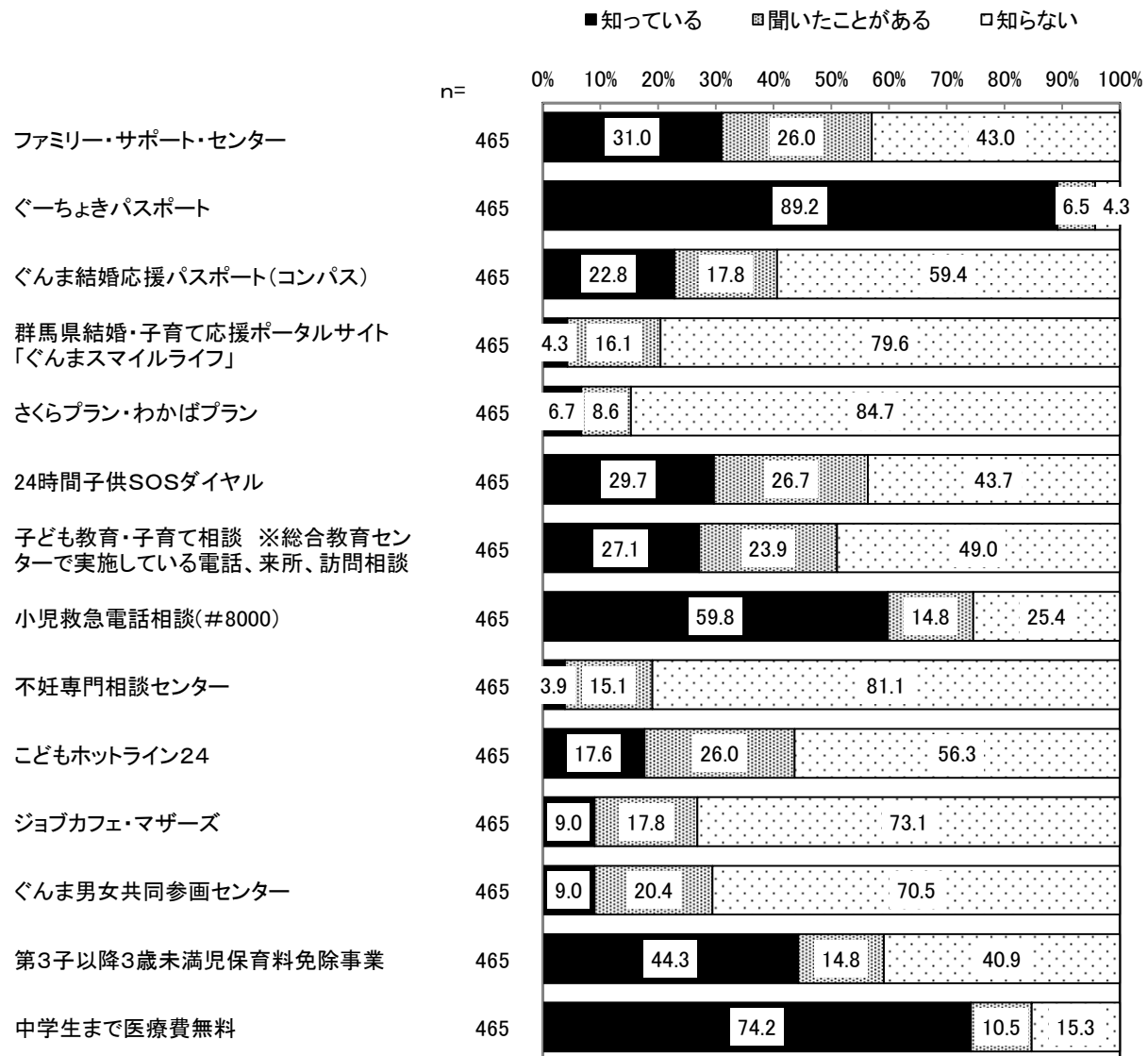
少子化対策の取組状況については、「充実している（計）」は“ぐーちょきパスポートなど社会全体で子育てを応援する取組”が63.3%で最も高く、次いで“子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実”が53.1%、 “交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組”、“小児医療体制の整備”が45.2%となっている。一方、「不足している（計）」は“家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が55.5%で最も高く、次いで“若者の経済的自立を支援する取組”が49.7%、“若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組”が48.0%となっている。



問 28 次の少子化対策関連の制度や事業について、あなたはご存知でしたか。

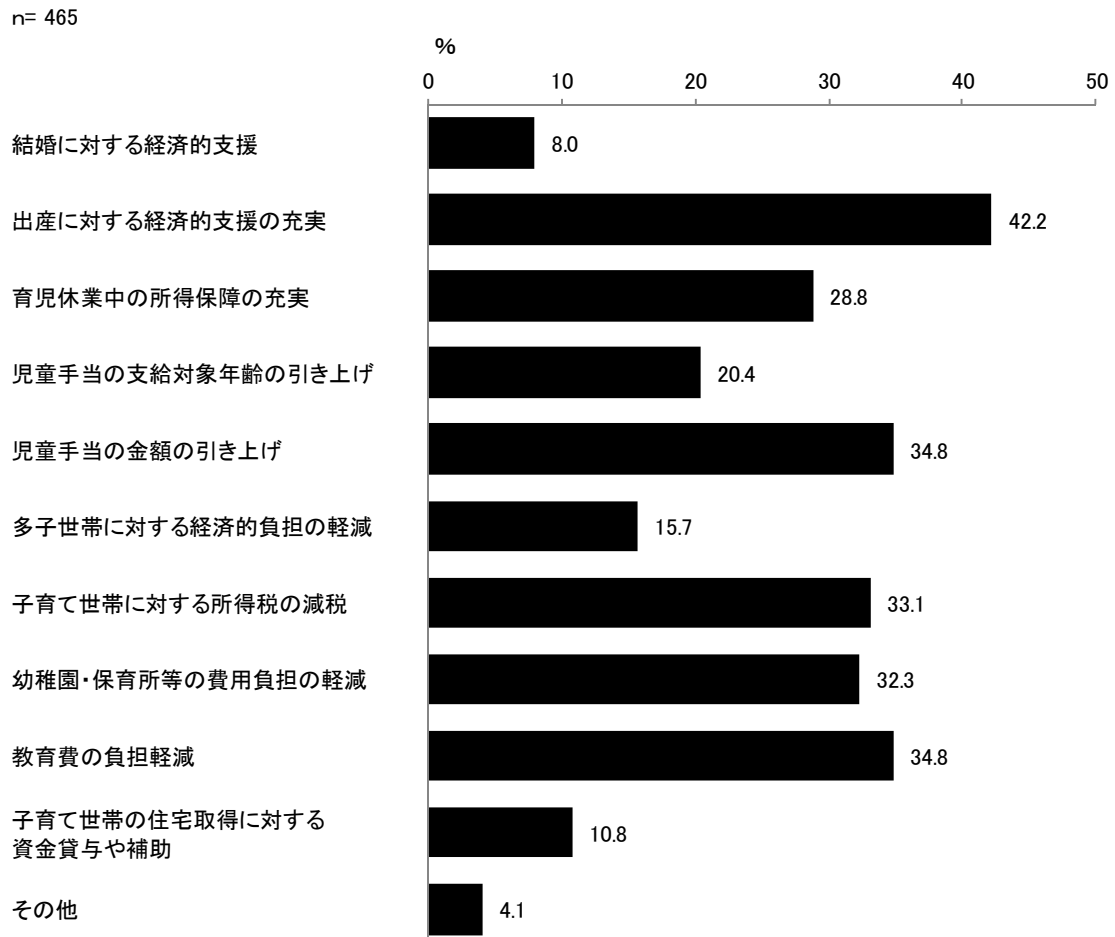
(回答はそれぞれ1つ)

少子化対策関連の制度や事業の認知度については、「知っている」は“ぐーちょきパスポート”が89.2%で最も高く、次いで“中学生まで医療費無料”が74.2%、“小児救急電話相談(#8000)”が59.8%となっている。一方、「知らない」は“さくらプラン・わかばプラン”が84.7%で最も高く、次いで“不妊専門相談センター”が81.1%、“群馬県結婚・子育て応援ポータルサイト「ぐんまスマイルライフ」”が79.6%となっている。



問 29 あなたは少子化対策としてどのような経済的支援が必要だと思いますか。（回答は3つまで）

少子化対策として必要だと思う経済的支援は、「出産に対する経済的支援の充実」が42.2%で最も高く、次いで「児童手当の金額の引き上げ」と「教育費の負担軽減」が34.8%、「子育て世帯に対する所得税の減税」が33.1%となっている。



問 30 子育て支援や少子化対策について、日頃お考えのことや行政に対する要望等がありましたらご自由にお書きください。（結婚支援、妊娠・出産支援、子育て支援に係る精神的支援など経済的支援以外の取組等）

自由意見については、8項目に分類した。「仕事」についてが26件、「子育て環境」については31件、「妊娠・出産」については40件、「経済的支援」については85件、「育児」については17件、「情報」については15件、「将来の不安」については14件、「その他」については47件となっている。

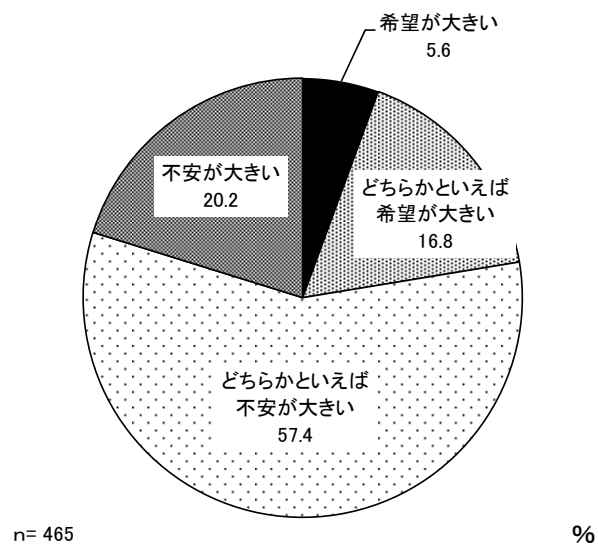
【自由意見の例】

- ・働きながら子育てをしていけるように、様々な就業の形を作ってほしい。
- ・公園も少なく、ちょっとお散歩して行ける公園などがたくさんあればいいのと思います。
- ・ぐーちょきパスポートを使える場所を増やしてほしい。
- ・産婦人科が身近になく、出産に対して漠然とした不安がある。
- ・不妊治療をするのは身体的にも、精神的にも、経済的にも辛くて、続けられなくなる人もいたので不妊に悩む人に経済的支援、精神的支援をしてほしいです。
- ・マタニティブルーや産後うつなど、精神的なケアをしてほしい。
- ・義務教育の後の方が金銭的負担が多い。大学の授業料、学習塾は驚くほど高いため、子どもが多いほどしんどい。
- ・周りに母子家庭の方が多く、皆苦勞しているので母子家庭への経済的支援を厚くしてほしいです。
- ・ワンオペ育児というものがなくなる工夫があれば良いと思う。
- ・初めて（子育て）支援センターを利用した時、職員の方が育児の不安などを聞いてくれて心の不安が取れた気がしました。少しでも育児の話を気軽に話せる場所があるといいと思います。
- ・不妊相談など、相談できる場所はあるんだろうけど、実際にどうすればいいのか分からない。気軽さがほしい。
- ・老後にかかるお金など、いくらあっても足りないような風潮の流布を削減したほうが良いと思う。
- ・とにかく今の時代は生きにくいと思います。100年時代って言われたって不安しかない。
- ・男女が出会う機会が減っていると感じる。
- ・何か支援などをすれば結婚生活にも魅力を感じて、男女え助け合っていくことが必要だと気づけるはず。
- ・学年など早いうちから出産や子育てに関する知識を教えていった方がよい。

## 8 子どもの未来について

問 31 10年後、20年後のあなたのお子さんたち（又はあなたの周囲のお子さんたち）の住む未来についてどのように思いますか。

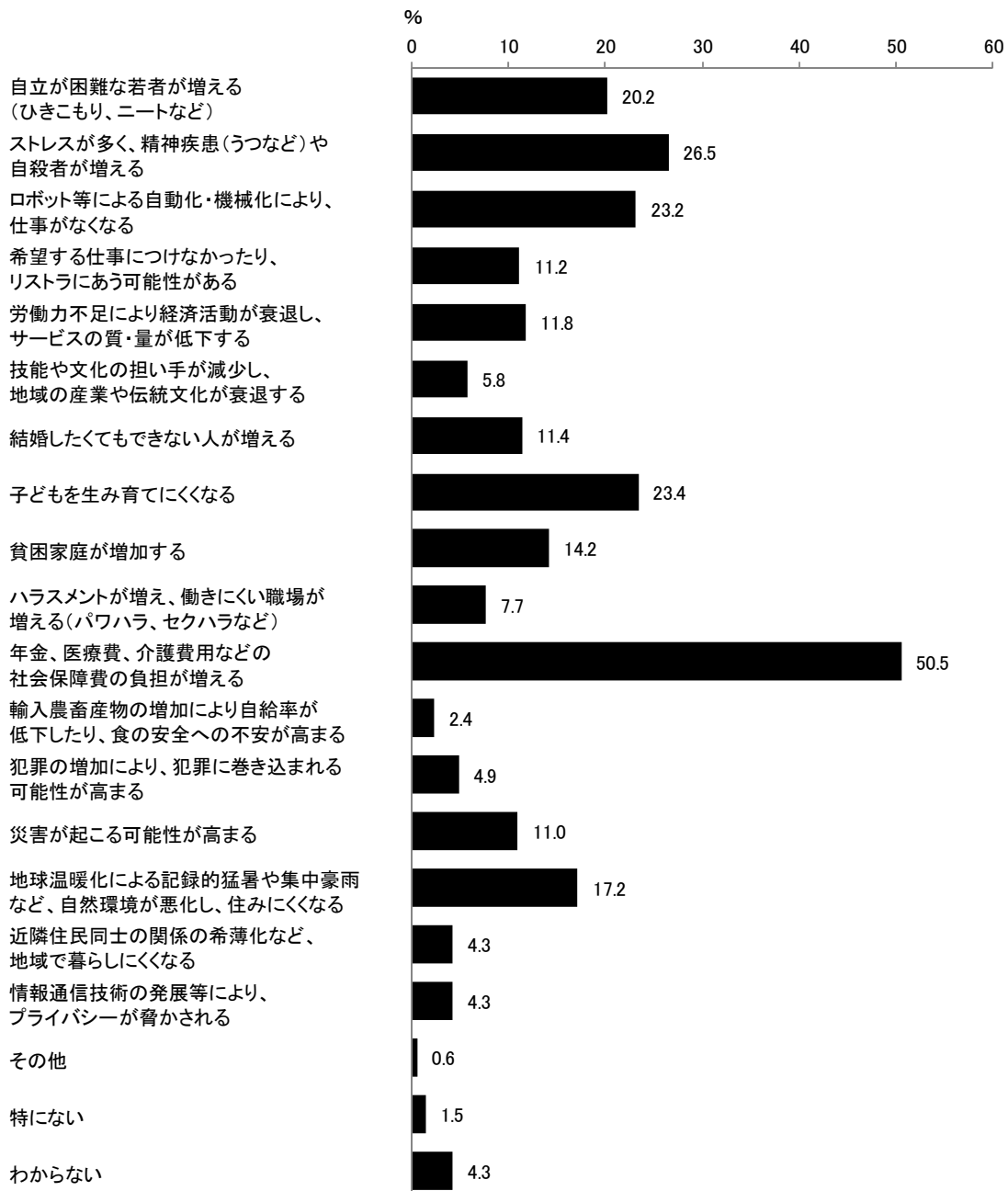
10年後、20年後の子どもたちの住む未来は、「どちらかといえば不安が大きい」が57.4%で最も高く、次いで「不安が大きい」が20.2%、「どちらかといえば希望が大きい」が16.8%となっている。



問 32 10年後、20年後のあなたのお子さんたち（又はあなたの周囲のお子さんたち）の住む未来に不安があるとすれば、どんなことだと思いますか。（回答は3つまで）

10年後、20年後の子どもたちの住む未来の不安は、「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」が50.5%で最も高く、次いで「ストレスが多く、精神疾患（うつなど）や自殺者が増える」が26.5%、「子どもを生み育てにくくなる」が23.4%となっている。

n= 465

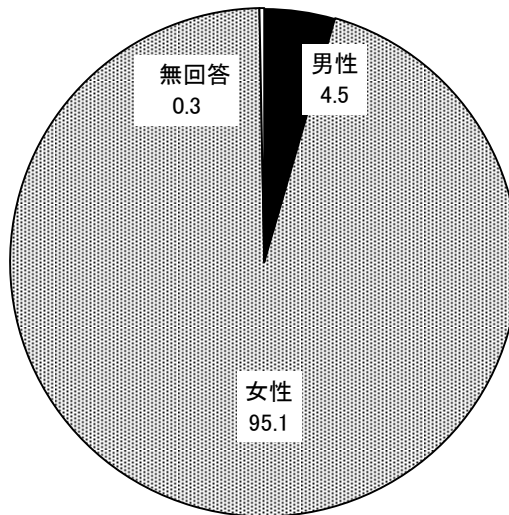


#### 第4 地域での子育てに関する調査（保護者調査）

##### 1. あなた自身について（属性）

問1 あなたの性別をお答えください。

性別は、「男性」が4.5%、「女性」が95.1%となっている。

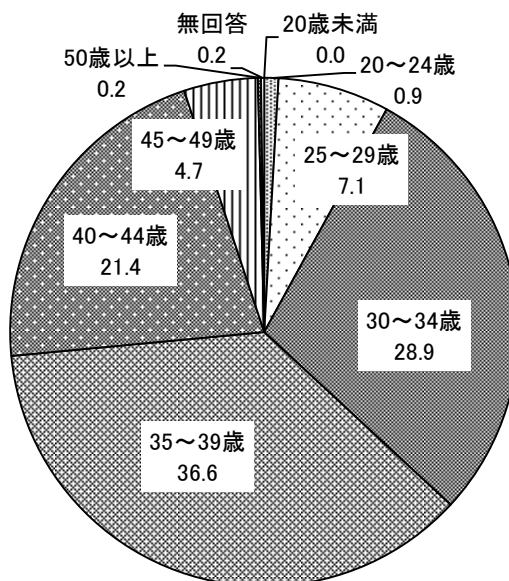


n= 1277

%

問2 あなたの年齢をお答えください。

年齢は、「35～39歳」が36.6%で最も高く、次いで「30～34歳」は28.9%、「40～44歳」が21.4%となっている。



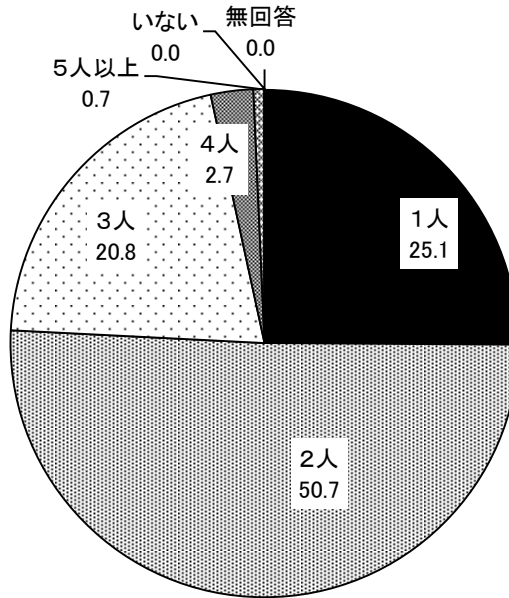
n= 1277

%



問3 あなたはお子さんを何人お持ちですか。

子どもの人数は、「2人」が50.7%で最も高く、次いで「1人」が25.1%、「3人」が20.8%となっている。

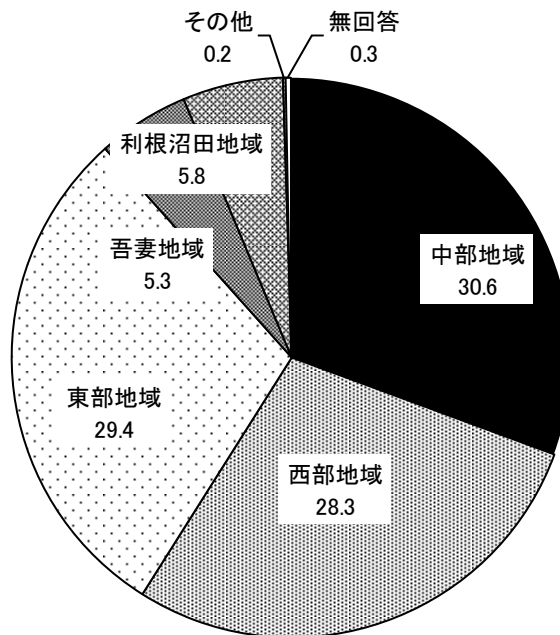


n= 1277

%

問4 あなたがお住まいの市町村をお答えください。

お住まいの市町村を5地域に分けた場合、「中部地域」が30.6%で最も高く、次いで「東部地域」が29.4%、「西部地域」が28.3%となっている。

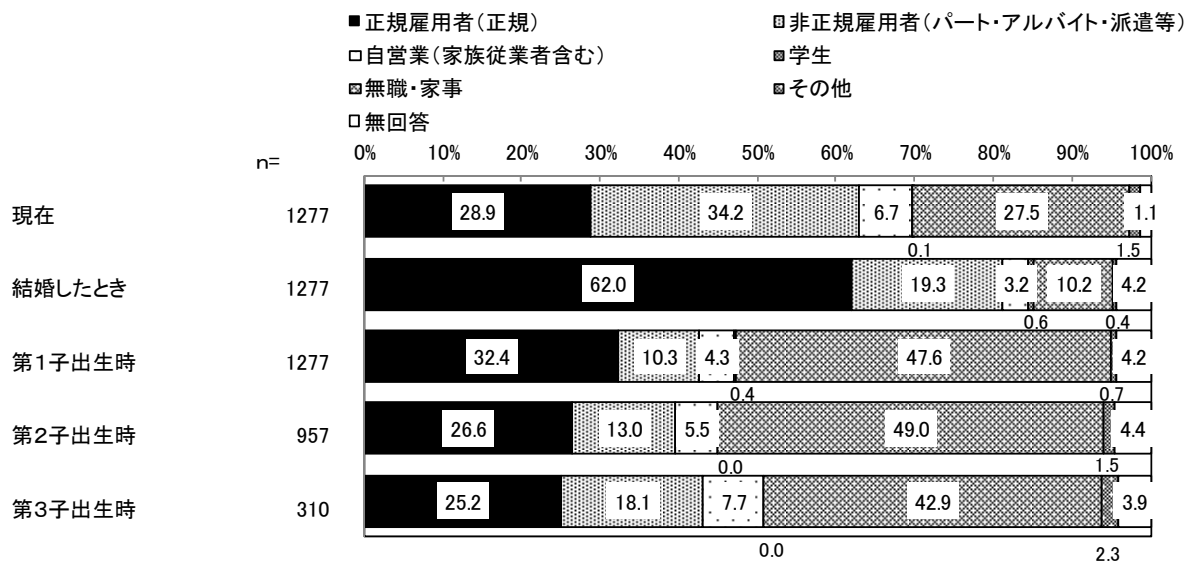


n= 1277

%

問5 あなたの職業をお答えください。

回答者の職業は、「正規雇用者（正規）」は“結婚したとき”が62.0%で最も高くなっているが、“第1子出生時”から“第3子出生時”にかけて低くなっており、“現在”は28.9%となっている。「非正規雇用者（パート・アルバイト・派遣等）」は“現在”が34.2%となっているが、“結婚したとき”は19.3%となっている。「無職・家事」は“結婚したとき”が10.2%と低くなっているが、“第1子出生時”から“第3子出生時”は4割以上となっており、“現在”は27.5%となっている。



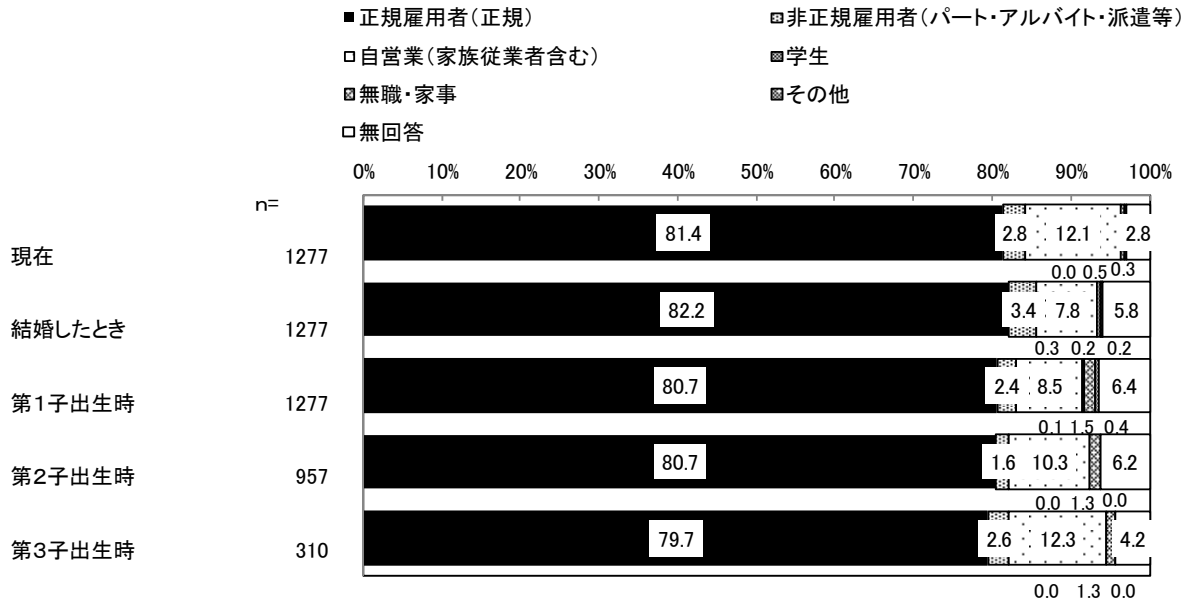
上段：実数、下段：%

	調査数	正規雇用者（正規）	非正規雇用者（パート・アルバイト・派遣等）	自営業（家族従業者含む）	学生	無職・家事	その他	無回答
現在	1,277	369	437	86	1	351	19	14
	100.0	28.9	34.2	6.7	0.1	27.5	1.5	1.1
結婚したとき	1,277	792	247	41	8	130	5	54
	100.0	62.0	19.3	3.2	0.6	10.2	0.4	4.2
第1子出生時	1,277	414	132	55	5	608	9	54
	100.0	32.4	10.3	4.3	0.4	47.6	0.7	4.2
第2子出生時	957	255	124	53	-	469	14	42
	100.0	26.6	13.0	5.5	-	49.0	1.5	4.4
第3子出生時	310	78	56	24	-	133	7	12
	100.0	25.2	18.1	7.7	-	42.9	2.3	3.9

【パートナー（夫や妻など）がいる方にうかがいます】

問6 パートナー（夫や妻など）の職業をお答えください。

回答者のパートナーの職業は、「正規雇用者（正規）」がいずれの段階でもおおむね8割以上で高くなっている。



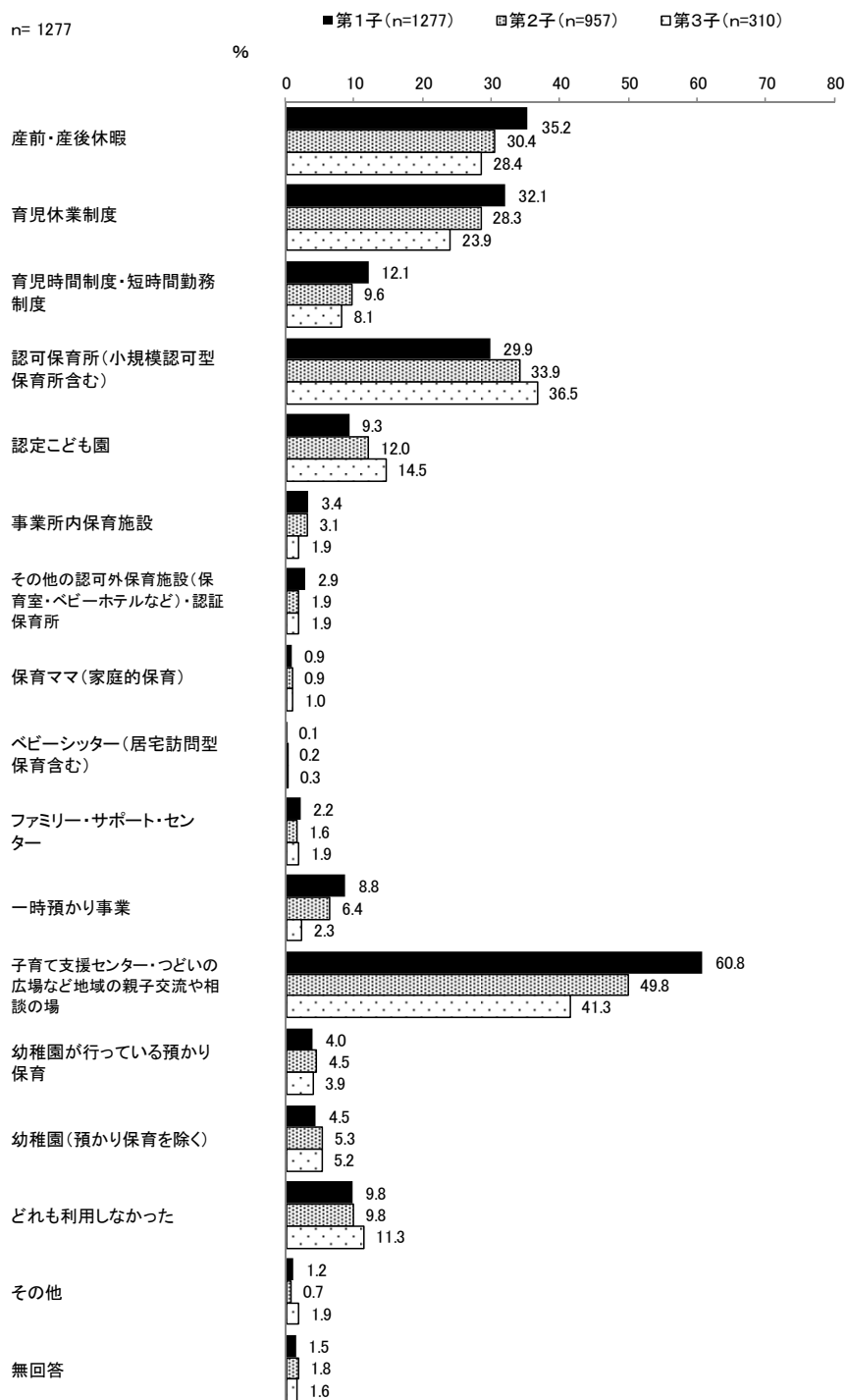
上段：実数、下段：%

	調査数	正規雇用者（正規）	非正規雇用者（パート・アルバイト・派遣等）	自営業（家族従業者含む）	学生	無職・家事	その他	無回答
現在	1,277	1,039	36	155	-	7	4	36
	100.0	81.4	2.8	12.1	-	0.5	0.3	2.8
結婚したとき	1,277	1,050	44	100	4	3	2	74
	100.0	82.2	3.4	7.8	0.3	0.2	0.2	5.8
第1子出生時	1,277	1,031	31	108	1	19	5	82
	100.0	80.7	2.4	8.5	0.1	1.5	0.4	6.4
第2子出生時	957	772	15	99	-	12	-	59
	100.0	80.7	1.6	10.3	-	1.3	-	6.2
第3子出生時	310	247	8	38	-	4	-	13
	100.0	79.7	2.6	12.3	-	1.3	-	4.2

## 2. 子育てについて

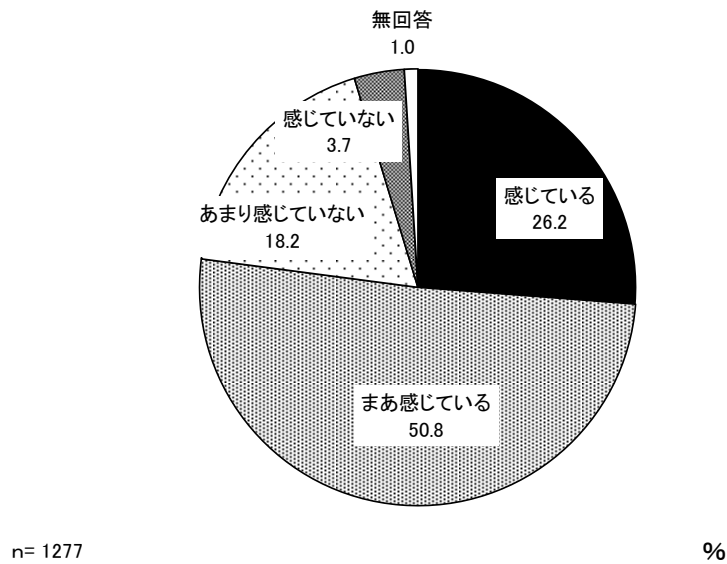
問7 あなたのお子さんが3歳になるまでの間に利用した制度・施設について教えてください。  
(回答はいくつでも)

お子さんが3歳になるまでの間に利用した制度・施設は、いずれのお子さんも「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」が高くなっている。第1子では、次いで「産前・産後休暇」が35.2%、「育児休業制度」が32.1%となっている。第2子、第3子では、次いで「認可保育所（小規模認可型保育所含む）」が33.9%、36.5%、「産前・産後休暇」が30.4%、28.4%となっている。



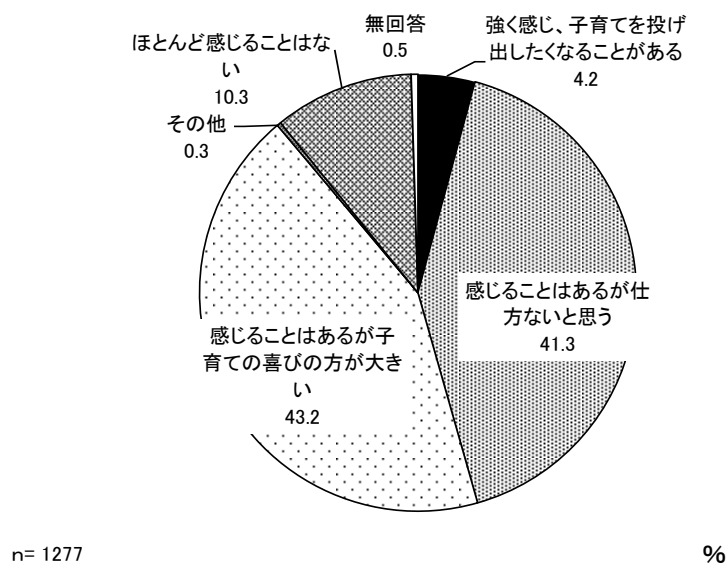
問8 現在、あなたがお子さんを育てている環境について、子どもを産み育てやすいと感じていますか。

現在、あなたがお子さんを育てている環境が子どもを産み育てやすいと感じているかは、「まあ感じている」が50.8%で最も高く、次いで「感じている」が26.2%、「あまり感じていない」が18.2%となっている。



問9 あなたは子育てに関して不安感や負担感を感じることはありますか。

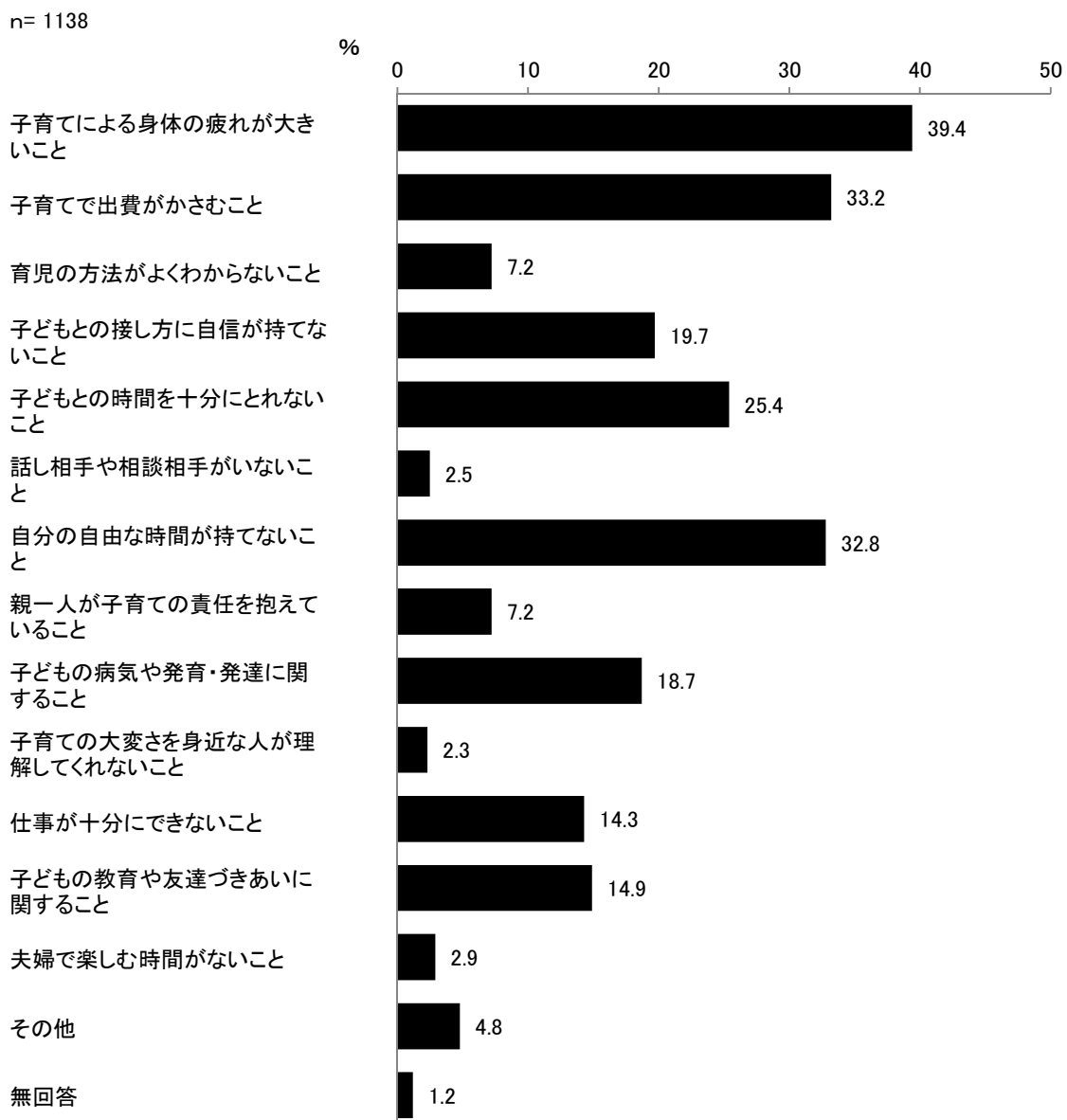
子育てに関して不安感や負担感を感じることは、「感じることはあるが子育ての喜びの方が大きい」が43.2%で最も高く、次いで「感じることはあるが仕方ないと思う」が41.3%、「ほとんど感じることはない」が10.3%となっている。



【問9で「強く感じ、子育てを投げ出したくなることもある」、「感じることはあるが仕方ないと思う」、「感じることはあるが子育ての喜びの方が大きい」、「その他」を選択した方のみにお聞きします。】

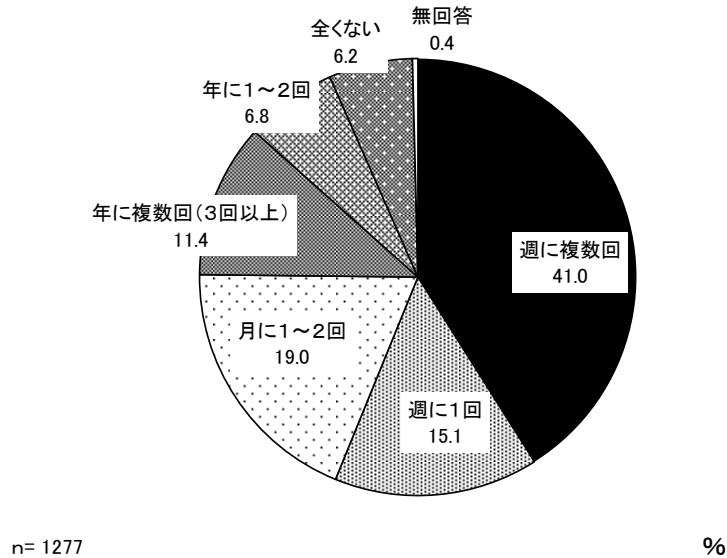
問9-1 あなたが子育てをする上で、負担に感じることや悩んでいることはどのようなことですか。  
(回答は3つまで)

子育てをする上で、負担に感じることや悩んでいることは、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が39.4%で最も高く、次いで「子育てで出費がかさむこと」が33.2%、「自分の自由な時間が持てないこと」が32.8%となっている。



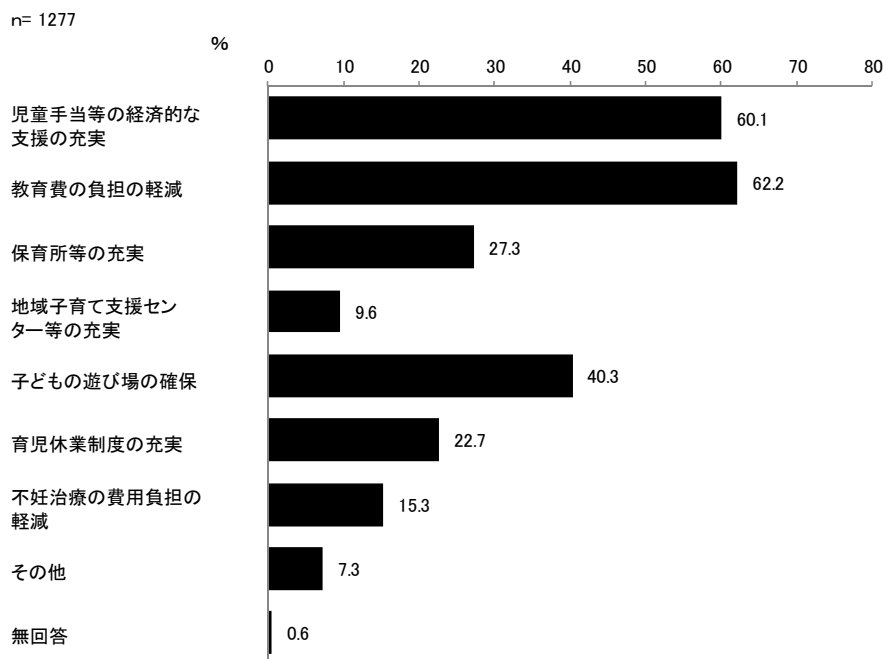
問10 子の祖父母等からの子育ての手助けはどの程度ありますか。

子の祖父母からの子育ての手助けの程度は、「週に複数回」が41.0%で最も高く、次いで「月に1～2回」が19.0%、「週に1回」が15.1%となっている。



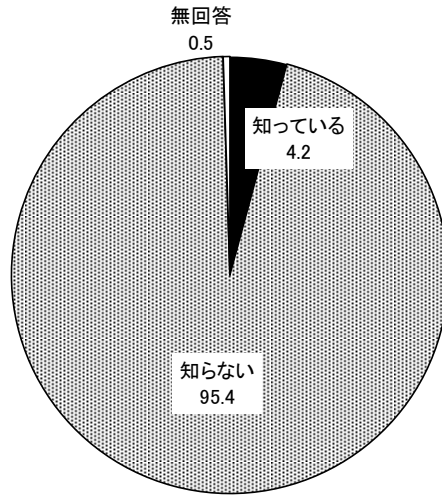
問11 出産や子育て環境の整備を推進するために、あなたがもっと力を入れる必要があると思うものはどれですか。(回答は3つまで)

出産や子育て環境の整備を推進するために力を入れる必要があると思うものは、「教育費の負担の軽減」が62.2%で最も高く、次いで「児童手当等の経済的な支援の充実」が60.1%、「子どもの遊び場の確保」が40.3%となっている。



問 12 あなたは、「群馬県女性健康支援センター」を知っていますか。

「群馬県女性健康支援センター」の認知度は、「知っている」が4.2%、「知らない」が95.4%となっている。

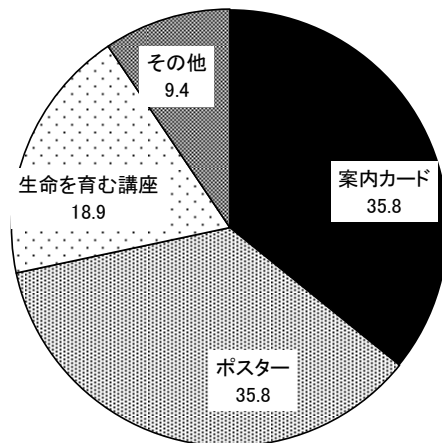


n= 1277

%

問 12-1 どのようにして知りましたか。

「群馬県女性健康支援センター」の認知したものは、「案内カード」、「ポスター」が35.8%で高くなっている。



n= 53

%

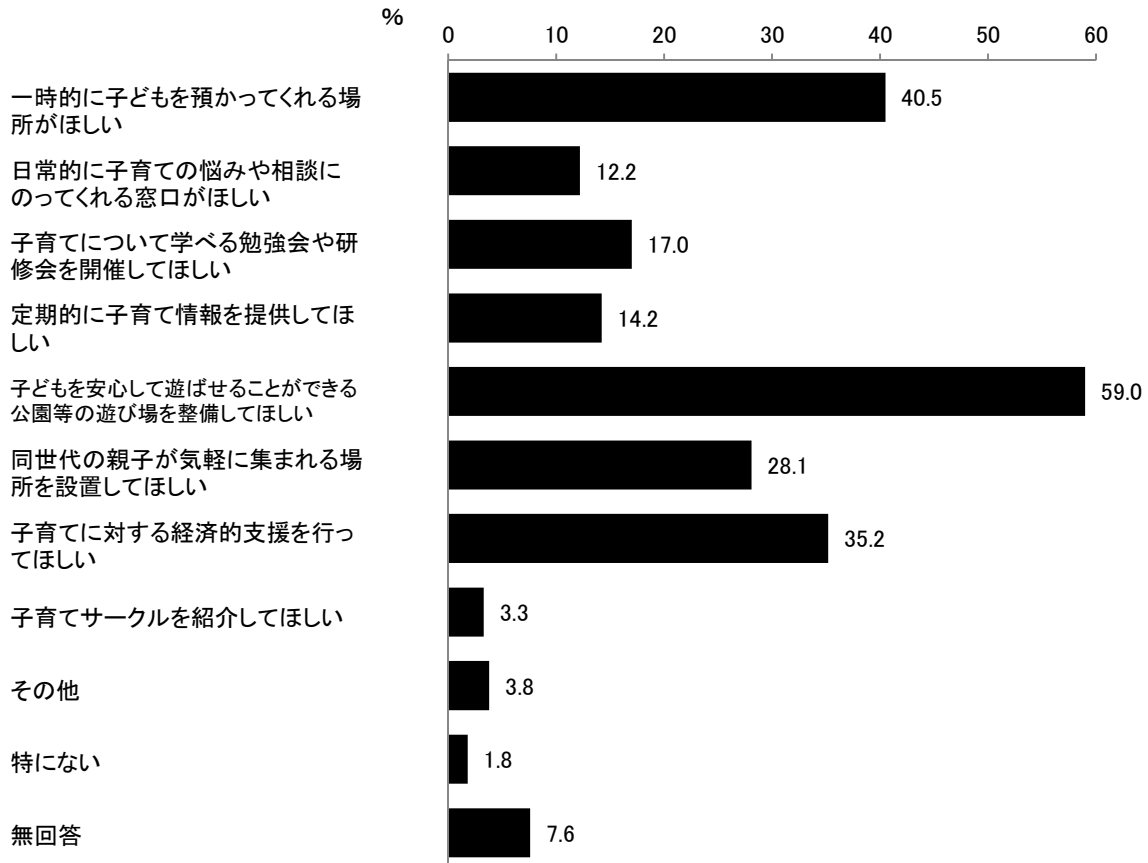


【未就園児の保護者の方のみにかがいます】

問 13 家庭で子育てをする上で、どのような子育て支援を充実させてほしいですか。  
(回答は3つまで)

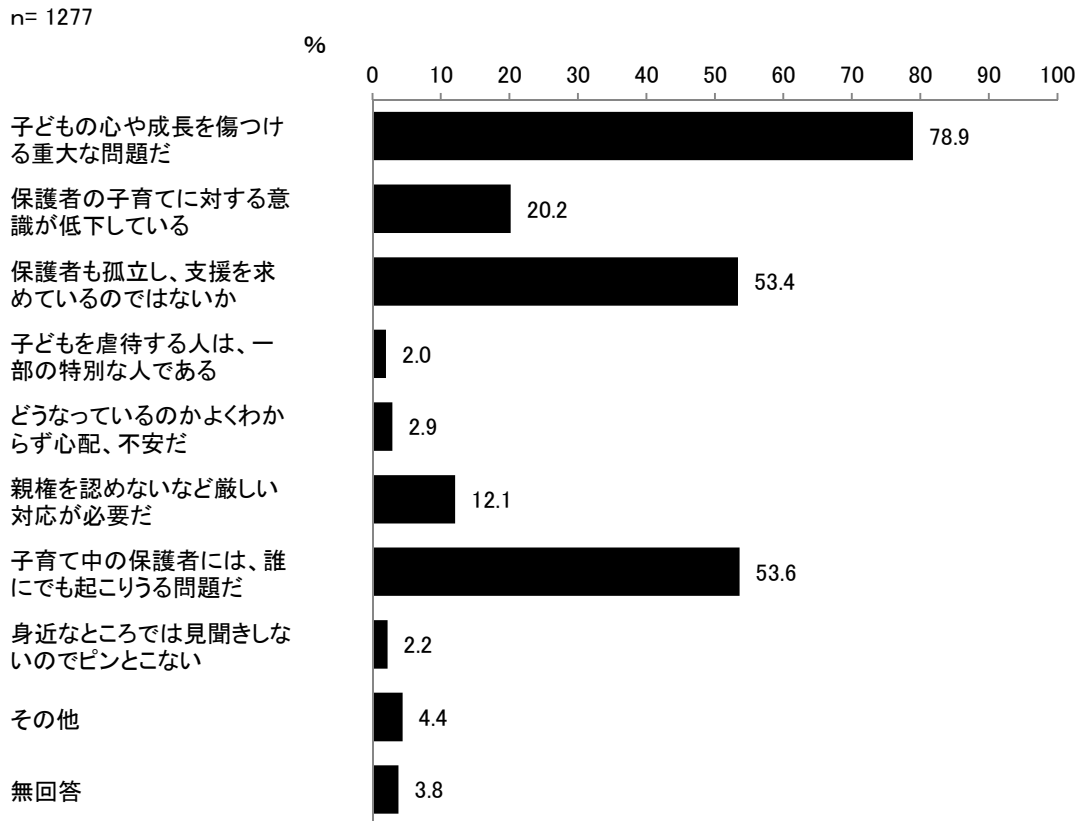
未就園児の保護者を対象とした、家庭で子育てをする上で、子育て支援を充実させてほしいことは、「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい」が 59.0%で最も高く、次いで「一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい」が 40.5%、「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」が 35.2%となっている。

n= 395



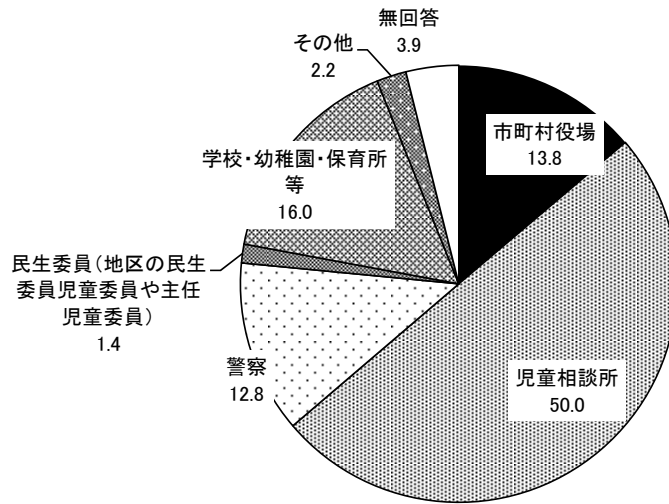
問 14 近年、問題になっている保護者による児童虐待について、あなたはどのように思いますか。  
(回答は3つまで)

保護者による児童虐待は、「子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ」が78.9%で最も高く、次いで「子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ」が53.6%、「保護者も孤立し、支援を求めているのではないか」が53.4%となっている。



問 15 児童虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合、どの機関に相談しますか。

児童虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合の相談機関は、「児童相談所」が50.0%で最も高く、次いで「学校・幼稚園・保育所等」が16.0%、「市町村役場」が13.8%となっている。

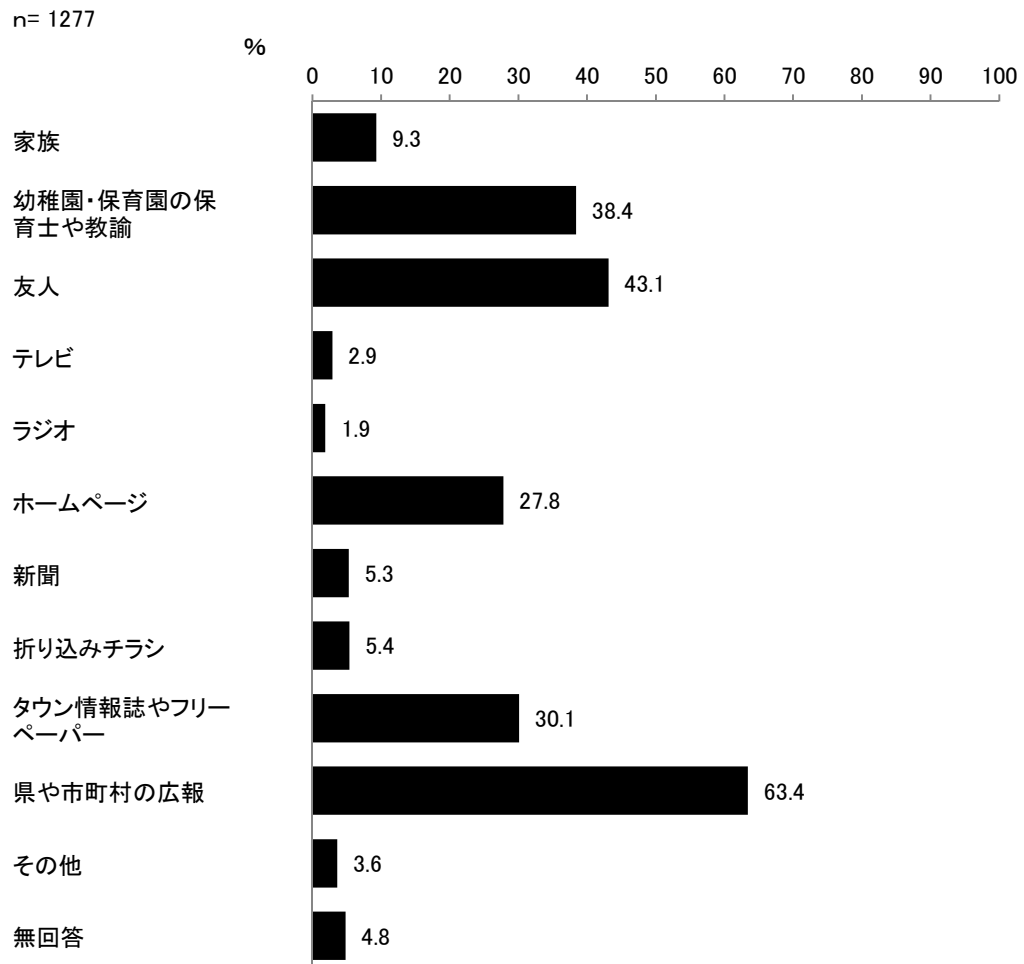


n= 1277

%

問 16 行政が行っている子育て支援サービスなどの情報をどのように入手していますか。  
(回答はいくつでも)

行政が行っている子育て支援サービスなどの情報入手源は、「県や市町村の広報」が63.4%で最も高く、次いで「友人」が43.1%、「幼稚園・保育園の保育士や教諭」が38.4%となっている。

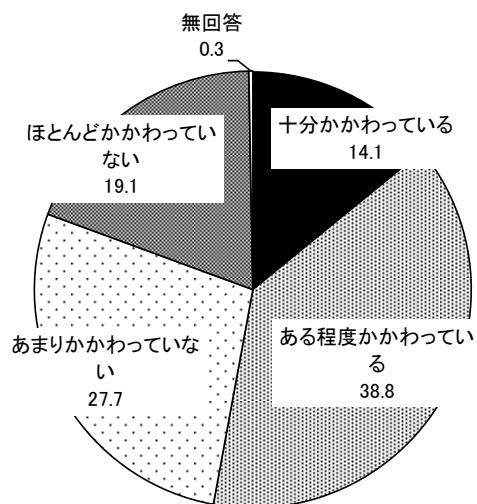


### 3. 地域との関わりについて

問17 子育てをしている中で、現在、あなたの住んでいる地域（※）とのかかわりはどれくらいありますか。

※地域：近隣住民、子ども会、自治会など

子育てをしている中で、現在の住んでいる地域とのかかわりは、「ある程度かかわっている」が38.8%で最も高く、次いで「あまりかかわっていない」が27.7%、「ほとんどかかわっていない」が19.1%となっている。

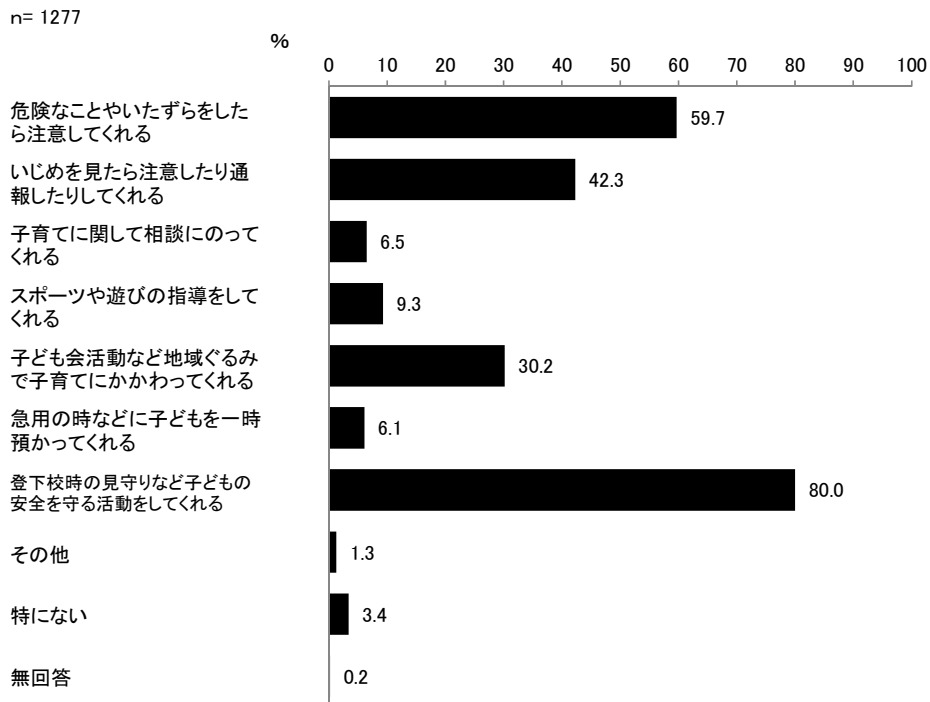


n= 1277

%

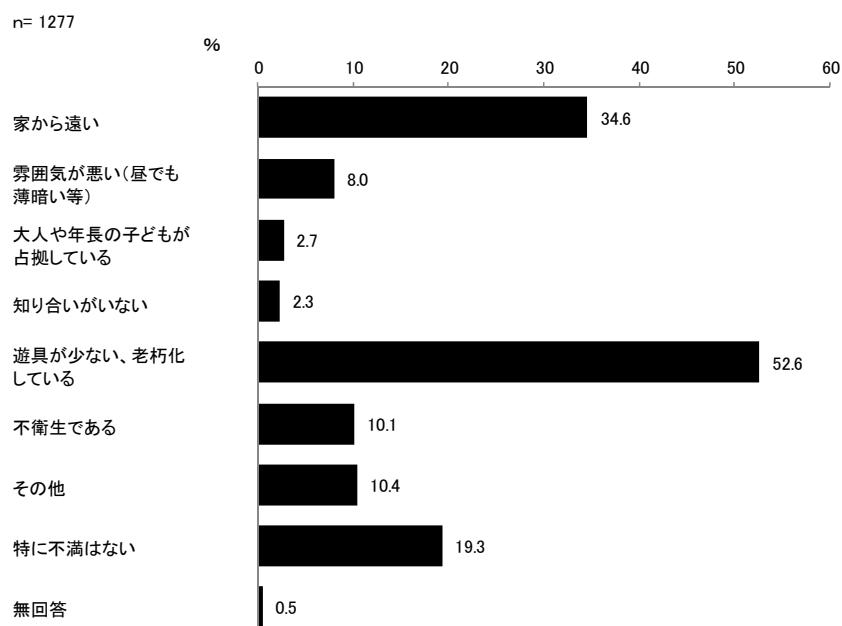
問 18 あなたは子育てをする上で、近所や地域の人にどのようなことを期待しますか。  
(回答は3つまで)

子育てをする上で近所や地域の人に期待することは、「登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる」が 80.0%で最も高く、次いで「危険なことやいたずらをしたら注意してくれる」が 59.7%、「いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる」が 42.3%となっている。



問 19 近所の公園について不満はありますか。(回答は2つまで)

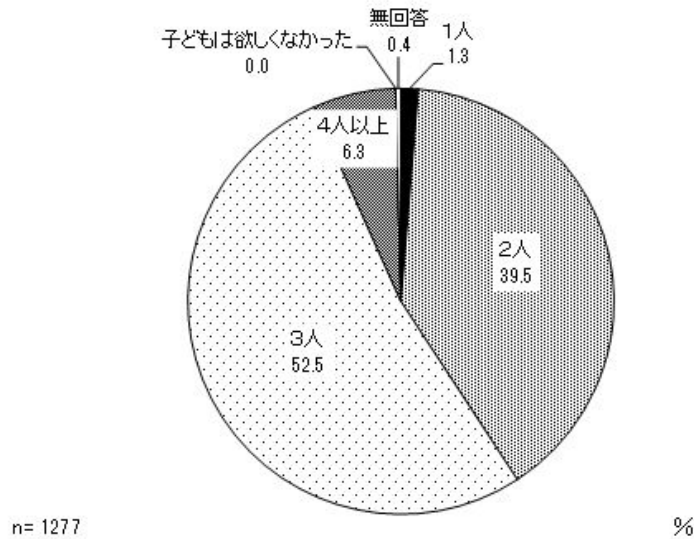
近所の公園についての不満は、「遊具が少ない、老朽化している」が 52.6%で最も高く、次いで「家から遠い」が 34.6%、「特に不満はない」が 19.3%となっている。



#### 4. 子どもについて

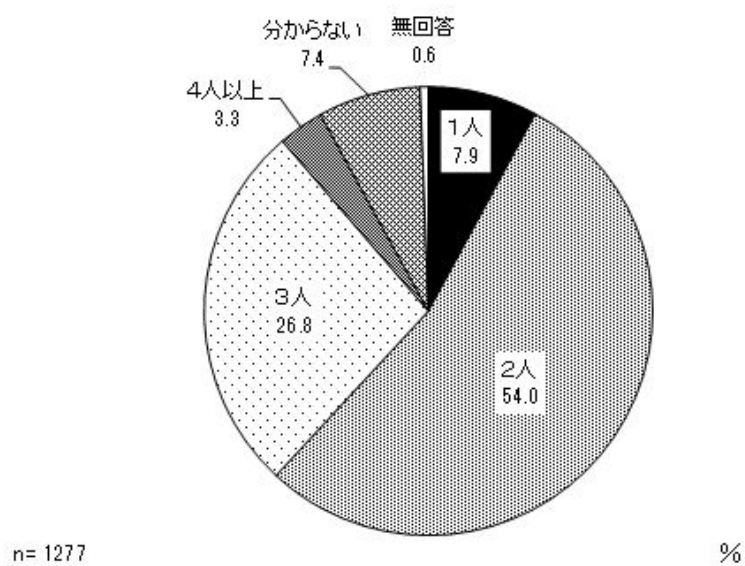
問20 あなたにとって、理想の子どもの数は何人ですか（理想の子どもの数）。

理想の子どもの数は、「3人」が52.5%で最も高く、次いで「2人」が39.5%、「4人以上」が6.3%となっている。



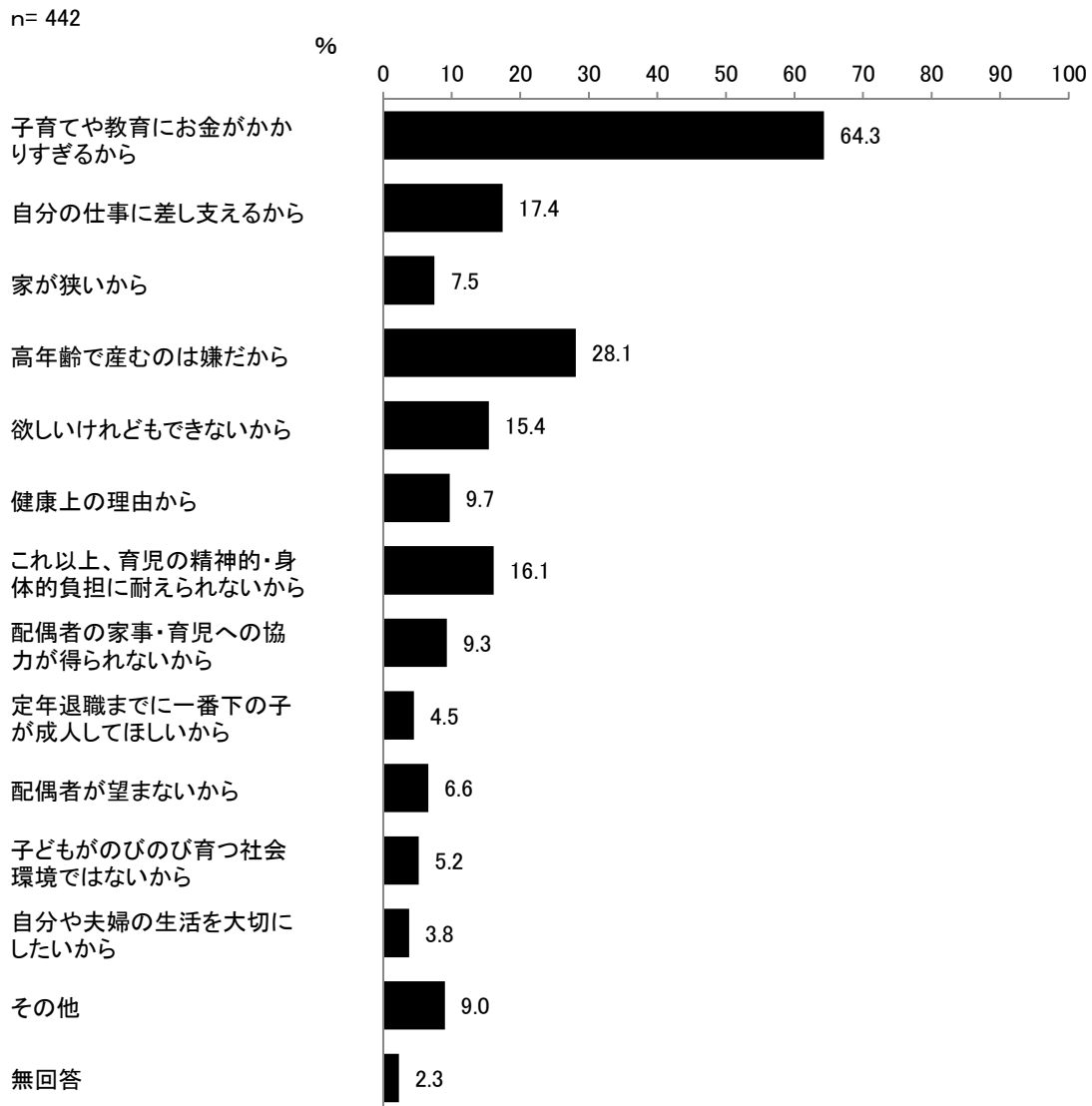
問21 あなたの子どもの数について、最終的に何人を予定していますか（予定の子どもの数）。

子どもの最終的な予定数は、「2人」が54.0%で最も高く、次いで「3人」が26.8%、「1人」が7.9%となっている。



【問20で「理想の子ども数」より問21「予定の子ども数」が少ない人のお聞きします。】  
 問22 「理想の子ども数」より「予定の子ども数」が少ない理由は何ですか。（回答は3つまで）

「理想の子ども数」より「予定の子ども数」が少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が64.3%で最も高く、次いで「高年齢で産むのは嫌だから」が28.1%、「自分の仕事に差し支えるから」が17.4%となっている。

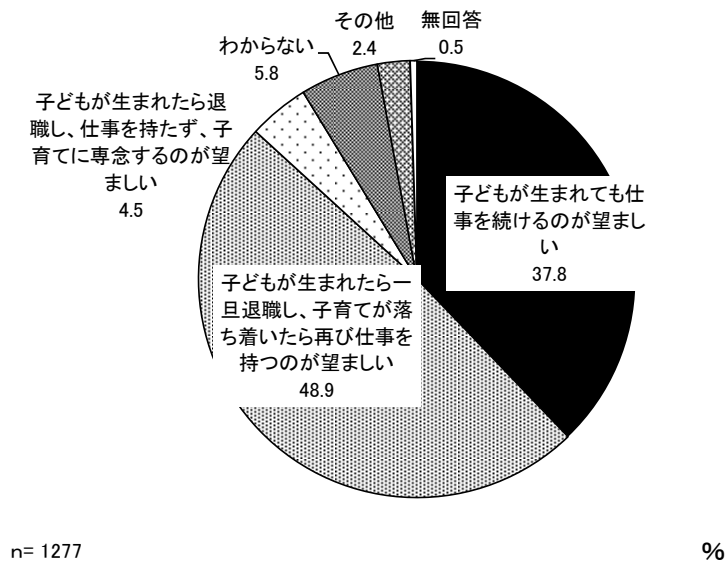




## 5. 子育てと仕事について

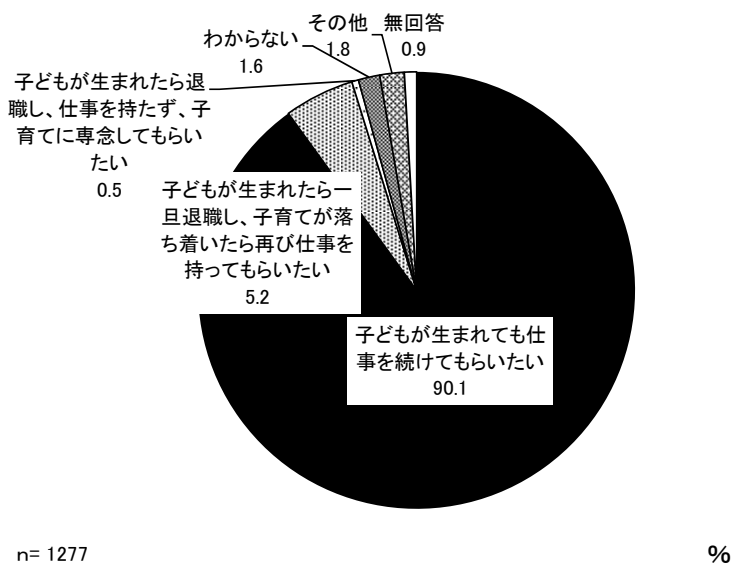
問23 あなたは、自分自身の仕事と子育てについて、どのように考えますか。

自分自身の仕事と子育てについての考えは、「子どもが生まれてから一旦退職し、子育てが落ち着いたら再び仕事を持つのが望ましい」が48.9%で最も高く、次いで「子どもが生まれても仕事を続けるのが望ましい」が37.8%となっている。



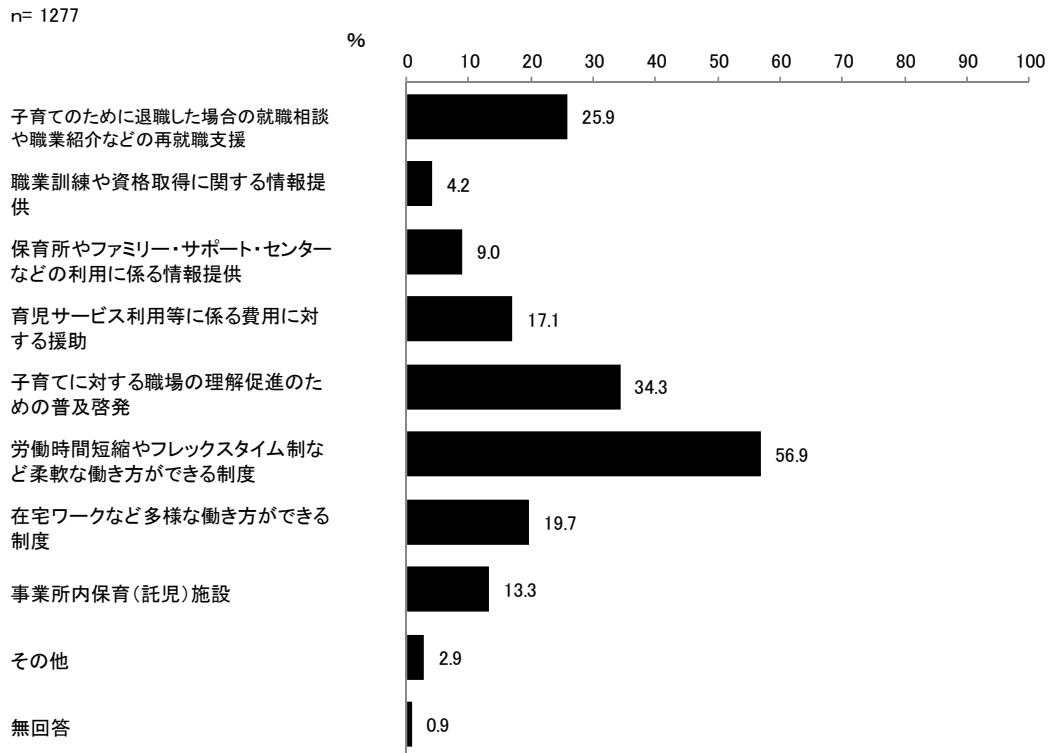
問24 あなたは、パートナー（夫や妻など）の仕事と子育てについて、どのような希望がありますか。

パートナー（夫や妻など）の仕事と子育てについての希望は、「子どもが生まれても仕事を続けてもらいたい」が90.1%で最も高く、次いで「子どもが生まれてから一旦退職し、子育てが落ち着いたら再び仕事を持ってもらいたい」が5.2%となっている。



問 25 あなたは、仕事と子育ての両立に関して、どのような支援が必要だと思いますか。  
(回答は2つまで)

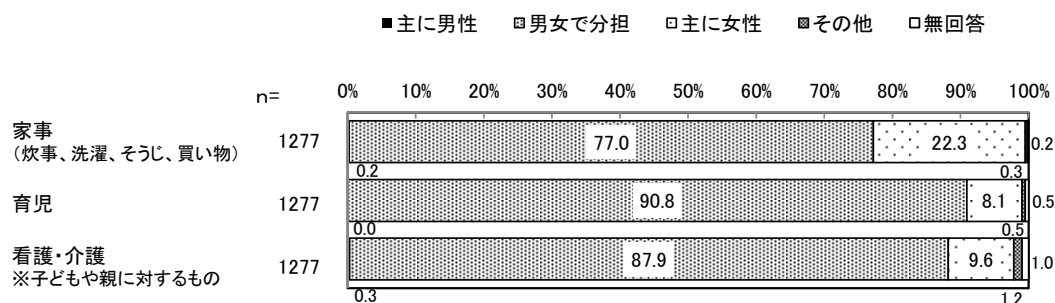
仕事と子育ての両立に関して必要だと思う支援は、「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」が56.9%で最も高く、次いで「子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発」が34.3%、「子育てのために退職した場合の就職相談や職業紹介などの再就職支援」が25.9%となっている。



問 26 あなたは家庭内での家事、育児や看護・介護の分担について (1) 理想としてどのように考えますか。また、(2) 現実はどうですか。(回答はそれぞれ1つだけ)

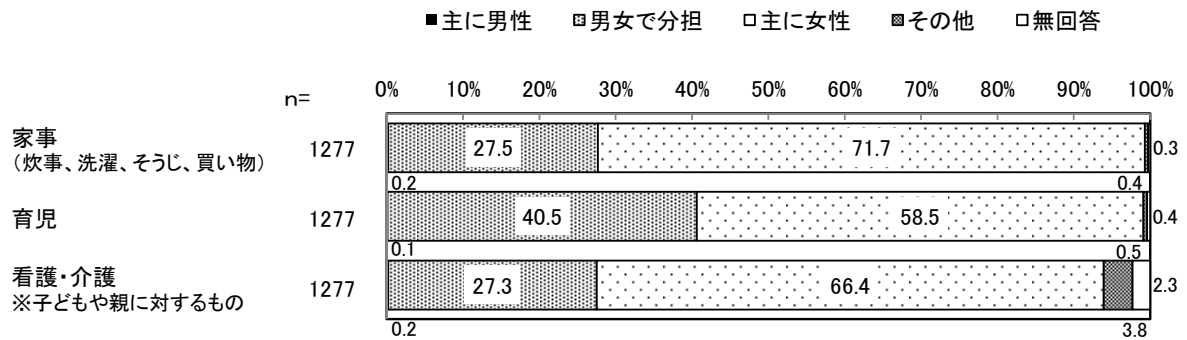
(1) 理想

理想は、「男女で分担」がいずれも最も高くなっているが、育児が90.8%、看護・介護が87.9%に対し、家事(炊事、洗濯、そうじ、買い物)は77.0%でやや低くなっており、「主に女性」は家事(炊事、洗濯、そうじ、買い物)が22.3%で高くなっている。



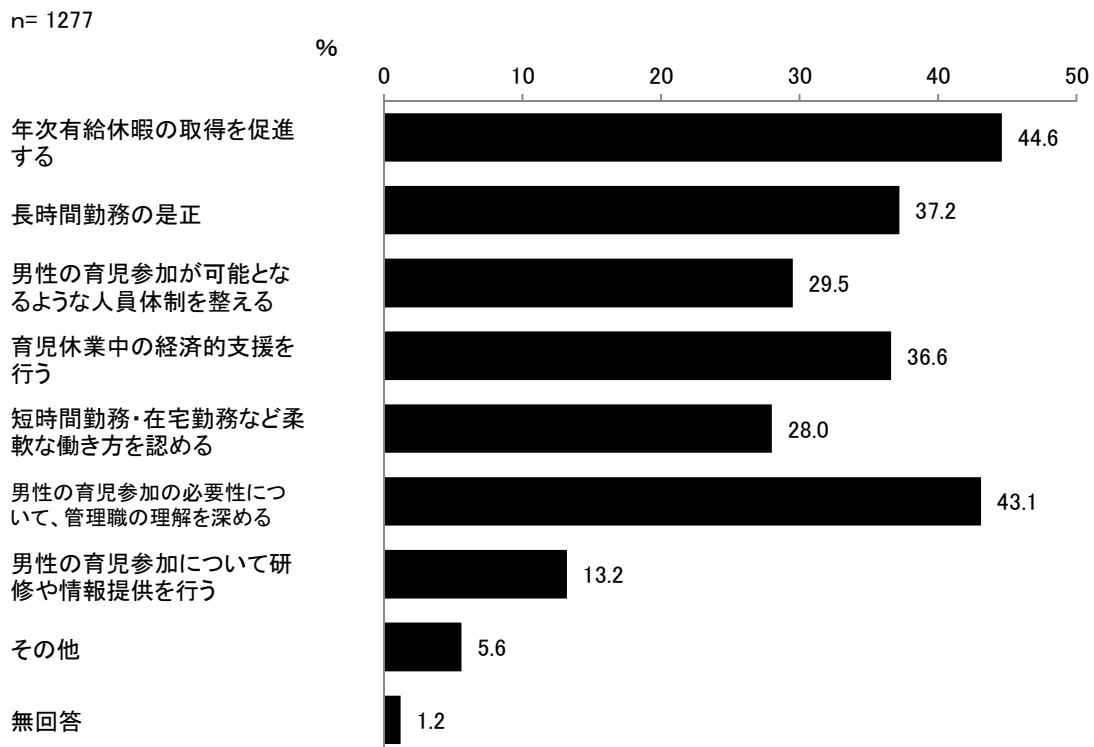
## (2) 現実

現実には、「主に女性」がいずれも最も高くなっているが、家事（炊事、洗濯、そうじ、買い物）が71.7%、看護・介護が66.4%に対し、育児は58.5%でやや低くなっており、「男女で分担」は育児が40.5%で高くなっている。



問 27 男性の育児参加を促進するためにあなたが必要だと思うことは何ですか。（回答は3つまで）

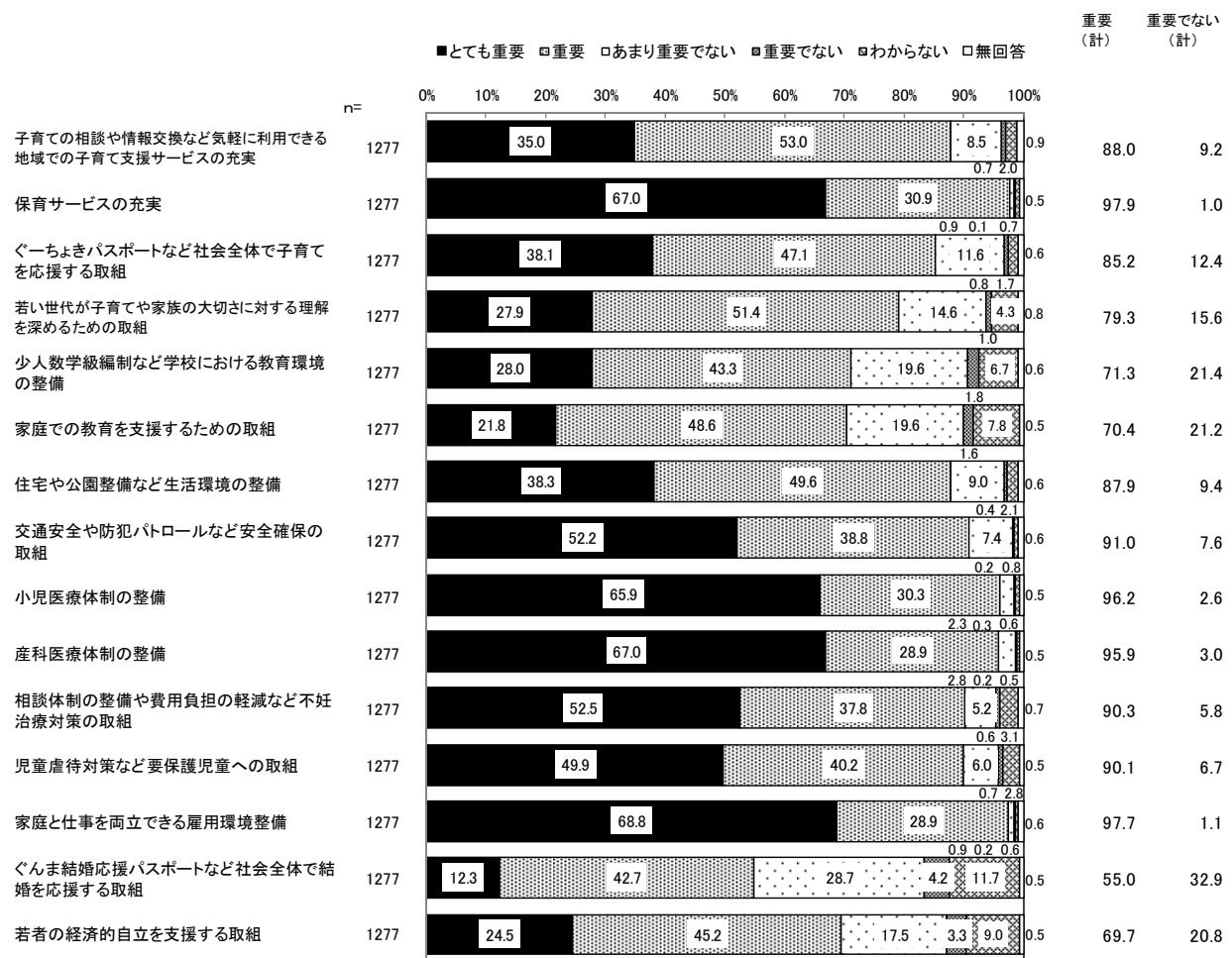
男性の育児参加を促進するためにあなたが必要だと思うことは、「年次有給休暇の取得を促進する」が44.6%で最も高く、次いで「男性の育児参加の必要性について、管理職の理解を深める」が43.1%、「長時間勤務の是正」が37.2%となっている。



## 6. 少子化対策について

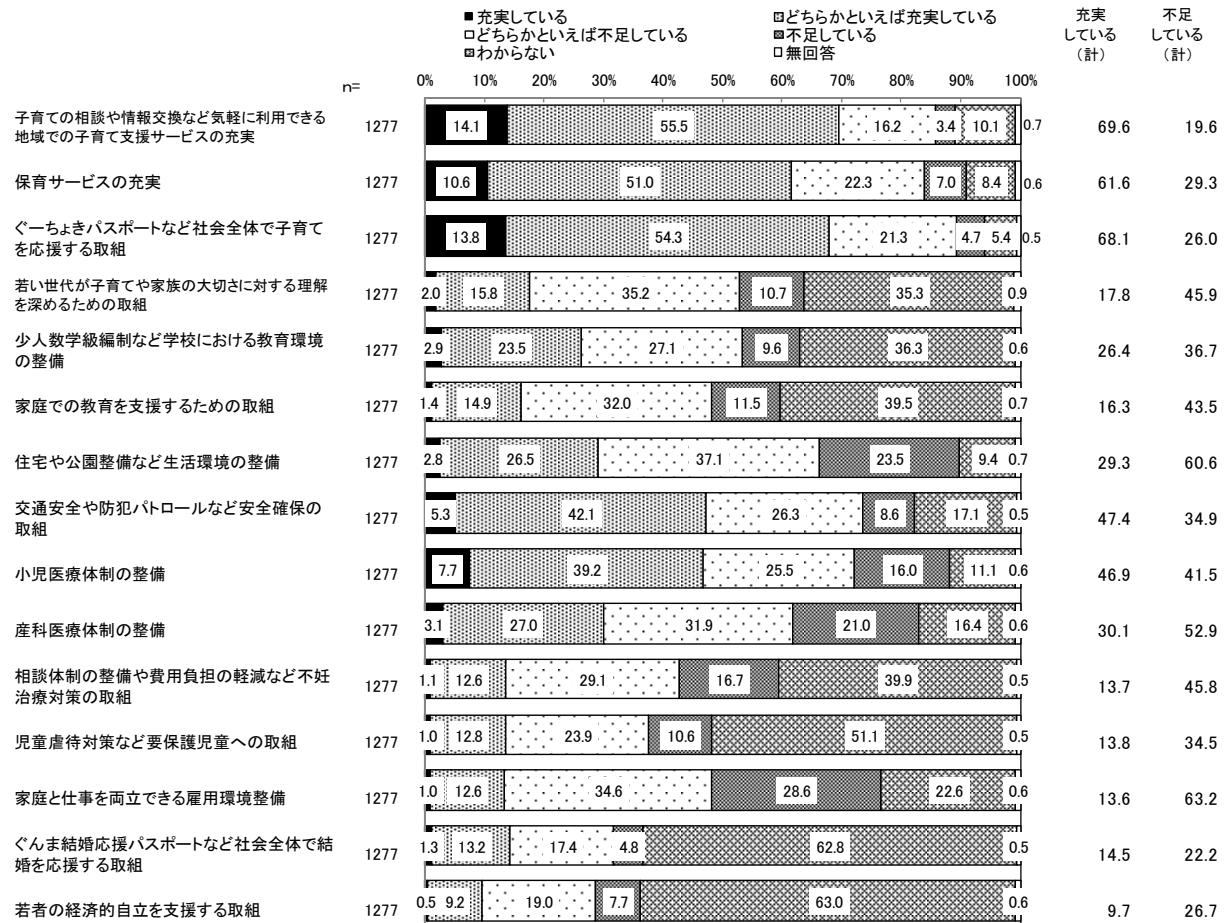
問 28 次の各施策について、総合的にみて少子化対策としての重要度はどの程度だと思いますか。  
(回答はそれぞれ1つだけ)

少子化対策の重要度については、「重要（計）」は“保育サービスの充実”が 97.9%で最も高く、次いで“家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が 97.7%、“小児医療体制の整備”が 96.2%となっている。一方、「重要でない（計）」は“ぐんま結婚応援パスポートなど社会全体で結婚を応援する取組”が 32.9%で最も高く、次いで“少人数学級編制など学校における教育環境の整備”が 21.4%、“家庭での教育を支援するための取組”が 21.2%となっている。



問 29 現状の少子化対策の各施策の取組状況についてどう思いますか。（回答はそれぞれ1つだけ）

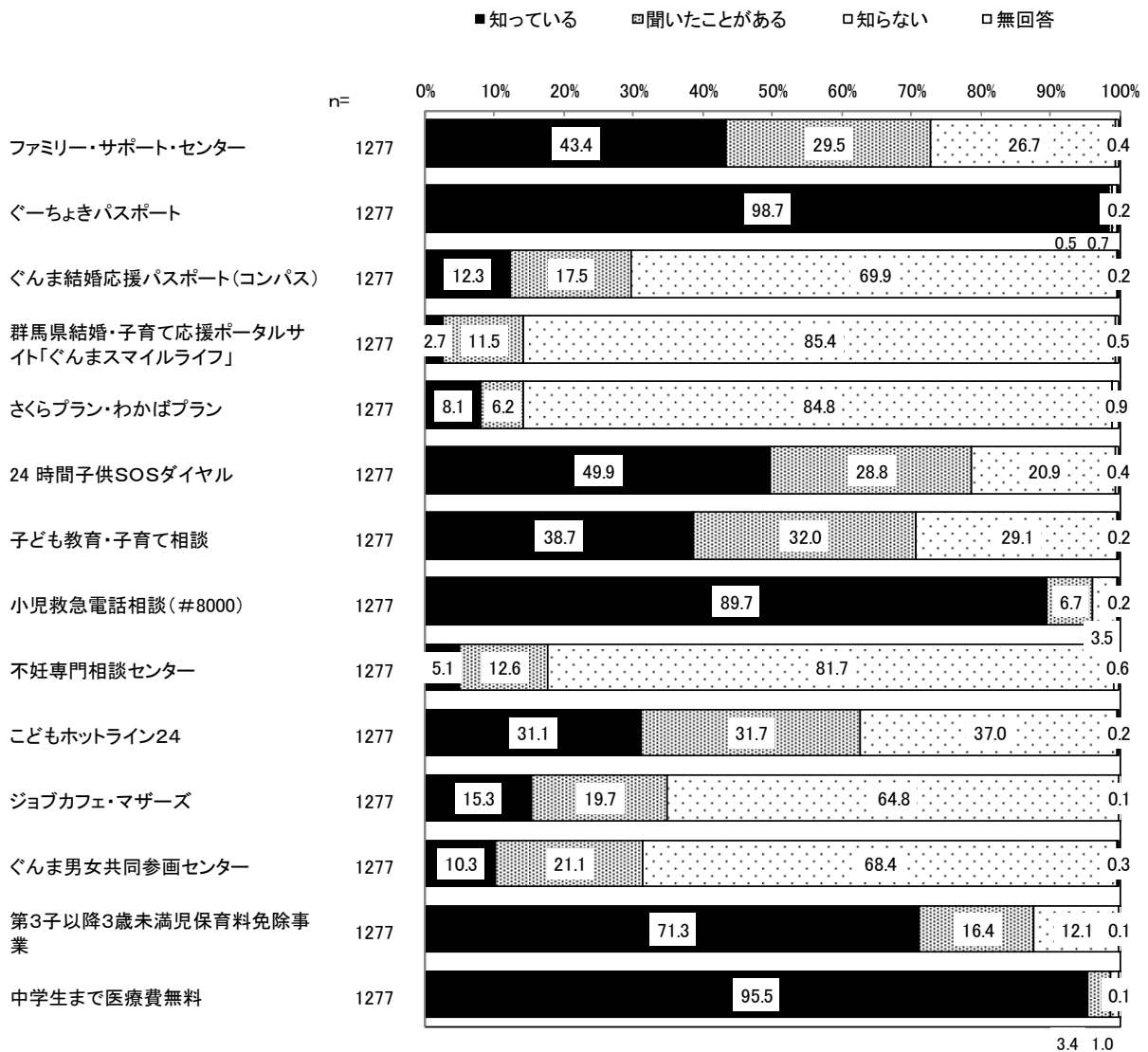
少子化対策の取組状況については、「充実している（計）」は“子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実”が69.6%で最も高く、次いで“ぐーちよきパスポートなど社会全体で子育てを応援する取組”が68.1%、“保育サービスの充実”が61.6%となっている。一方、「不足している（計）」は“家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が63.2%で最も高く、次いで“住宅や公園整備など生活環境の整備”が60.6%、“産科医療体制の整備”が52.9%となっている。



問 30 次の少子化対策関連の制度や事業について、あなたはご存知でしたか。

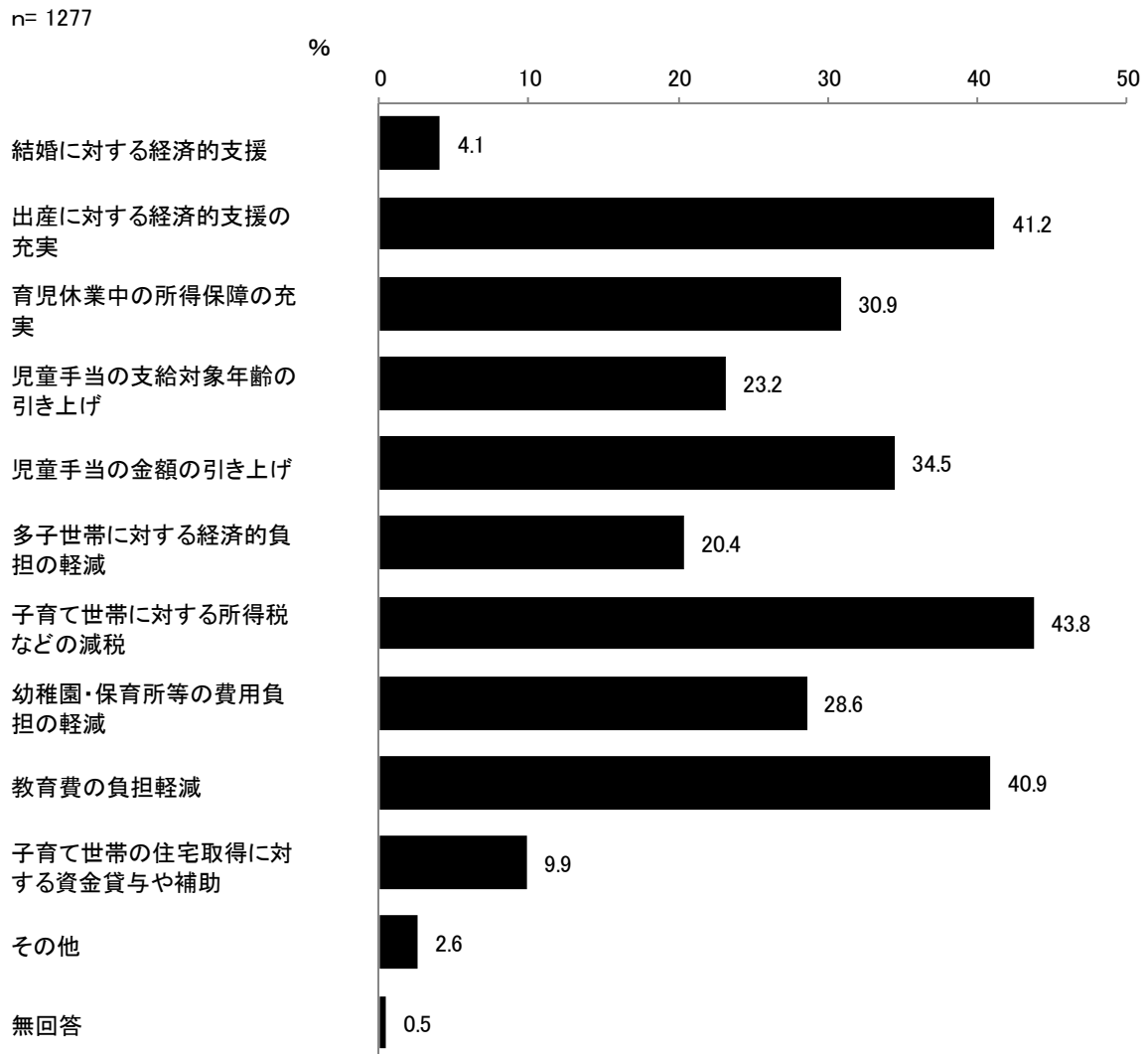
(回答はそれぞれ1つだけ)

少子化対策関連の制度や事業の認知度については、「知っている」は“ぐーちょきパスポート”が98.7%で最も高く、次いで“中学生まで医療費無料”が95.5%、“小児救急電話相談（#8000）”が89.7%となっている。一方、「知らない」は“群馬県結婚・子育て応援ポータルサイト「ぐんまスマイルライフ」”が85.4%で最も高く、次いで“さくらプラン・わかばプラン”が84.8%、“不妊専門相談センター”が81.7%となっている。



問 31 あなたは少子化対策としてどのような経済的支援が必要だと思いますか。（回答は3つまで）

少子化対策として必要だと思う経済的支援は、「子育て世帯に対する所得税などの減税」が43.8%で最も高く、次いで「出産に対する経済的支援の充実」が41.2%、「教育費の負担軽減」が40.9%となっている。



問 32 子育て支援や少子化対策について、日頃お考えのことや行政に対する要望等がありましたらご自由にお書きください。（結婚支援、妊娠・出産支援、子育て支援に係る精神的支援など経済的支援以外の取組等）

自由意見については、8項目に分類した。「各種手当・経済支援に関することについて」についてが106件、「保育園・幼稚園・学童・一時預りに関することについて」については74件、「公園・施設に関することについて」については43件、「就業に関することについて」については42件、「病院・産婦人科に関することについて」については25件、「行政に対する期待・要望について」については141件、「子育て・教育費に関することについて」については71件、「その他」については44件となっている。

#### 【自由意見の例】

- ・児童手当の金額増加や、給食費無料化等、もっと金銭的援助が増えれば、あと2人は産みたい。
- ・不妊治療や出産に関わる費用が高く、ある程度経済的に余裕がないと、子どもが欲しいと望んでも、現実的に難しい。
- ・児童手当、減税など経済的支援が子どもの数に比例して手厚くなってくるととても助かります。
  
- ・学童保育は料金が高いし、時間も短く不満。
- ・地域関係なく、預けたい所に預けられる様にして欲しいです。
- ・仕事が決まり、保育園へ入れず、大変苦勞しました。4月までの間、一時的に預かってくれる場所がもっとあるとよいと思います。
- ・一時保育をもっと使いやすくしてほしい。（予約がとりやすくしてほしい）
- ・保育園へ入園するまでの3年間、子育て支援センターや児童センターなどのイベントに、すごく助けられました。身近に子育て支援センターが充実してよかった。
- ・勤務時間が不規則なので、土、日、祝日等でも、子どもを預けられる場所があると良い。
- ・病児保育等の施設が各施設に1つあると良い。
  
- ・近所に子どもが外で思いきり遊ぶ場所がどんどん減っている。
- ・公園の遊具の古い場所が多い。室内遊びの場所が少ない。
- ・車がないと移手段がない。バスなど公共交通手段がほしい。
- ・街路灯や歩道の整備など車社会の群馬だからこそ充実してほしい。
  
- ・管理職世代の方々の“子育ては女性がやるもの”という根強い意識に変化がなければ世の中は変わっていかないと思う。
- ・子どもが小学校入学前までは短時間勤務等の柔軟な働き方をどんな仕事でも認めてほしい。制度や権利があっても、実際に利用できないような職場環境では全く意味がない。
- ・男性に対して子育てや家事に時間をあてられるように職場の方から働きかけられる制度が必要。
- ・どうやって子育てしながら働くか、模索中です。ロールモデルとなる人を紹介してほしいです。
- ・働き方改革などで少しずつ職場での長時間労働等に対する取り組みがなされているが、現状は働きにくくなっていて、結果、子育てしにくい環境に変わらない。（仕事量は減らず、出退勤時間ばかり規制されている）
- ・出産で、退職してしまった人は働くな、と言われていたような気がしてなりません。

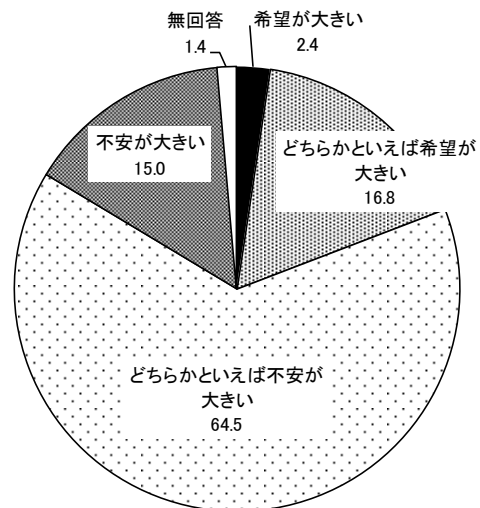


- ・市内に産婦人科が無い事にとっても疑問を感じます。妊婦さんにとってわざわざ市外へ行く事は体力的な負担が大きすぎます。
  - ・市内に、小児科医院の数が少ないと思う。病気の時に、病院選びの選択肢が少なく、非常に不便。
  - ・病院へ行くべきか相談できる場所・電話があるととても助かる。（#8000ではなく、平日の昼間に受診すべきか相談できるところがあると助かる）
- 
- ・子どもが欲しくても、教育費の負担が大きく、2人目、3人目の子どもを生むことができない。
  - ・小、中学校は義務教育であるのに、お金がかかりすぎる。
- 
- ・先日、子どもの成長について保健センターの方から電話を頂いた。少しの時間でも子育てについて何か不安に思っていることなど話すことで、心が楽になった。
  - ・10代から結婚に向けて前向きになれるような何か取り組みができるとうい。
  - ・「生命を育む講座」の中学生版、高校生版などを開催して、子どものうちから命の大切さについての教育を。
  - ・子どもや若者に、人とのコミュニケーション能力をつけるような教育をするべきだと思います。
  - ・結婚や子育てに対する悪いイメージが先行しているように思います。意外となんとかなるというのを具体的な情報として目にしないと、行動する気にならないのでしょうか。
  - ・世代間のギャップが大きく感じる。自分たちの世代さえよければいい（下の世代にツケを回す）事をやめ、今すぐ全世代で共有して問題にとりくむべき（限定された世代の問題ではない）
  - ・児童虐待等でケガをしたり死んでしまう事件を見るととても心が痛くなります。子どもには幸せになって欲しい。
  - ・結婚していなければ、子どもをもうけにくい今の状況を変えていくべきだと思う。
  - ・社会全体の空気として自分のことではいっぱいな生活、余裕が持てない風潮にある。
  - ・日々のちょっとした過ごしやすさや、ストレスの軽減があれば、経済支援等がなくても、もう1人産もうという気持ちの余裕が生まれると思います。

## 7. 子どもの未来について

問 33 10年後、20年後のあなたのお子さんたち（又はあなたの周囲のお子さんたち）の住む未来についてどのように思いますか。

10年後、20年後のあなたのお子さんたち（又はあなたの周囲のお子さんたち）の住む未来は、「どちらかといえば不安が大きい」が64.5%で最も高く、次いで「どちらかといえば希望が大きい」が16.8%、「不安が大きい」が15.0%となっている。



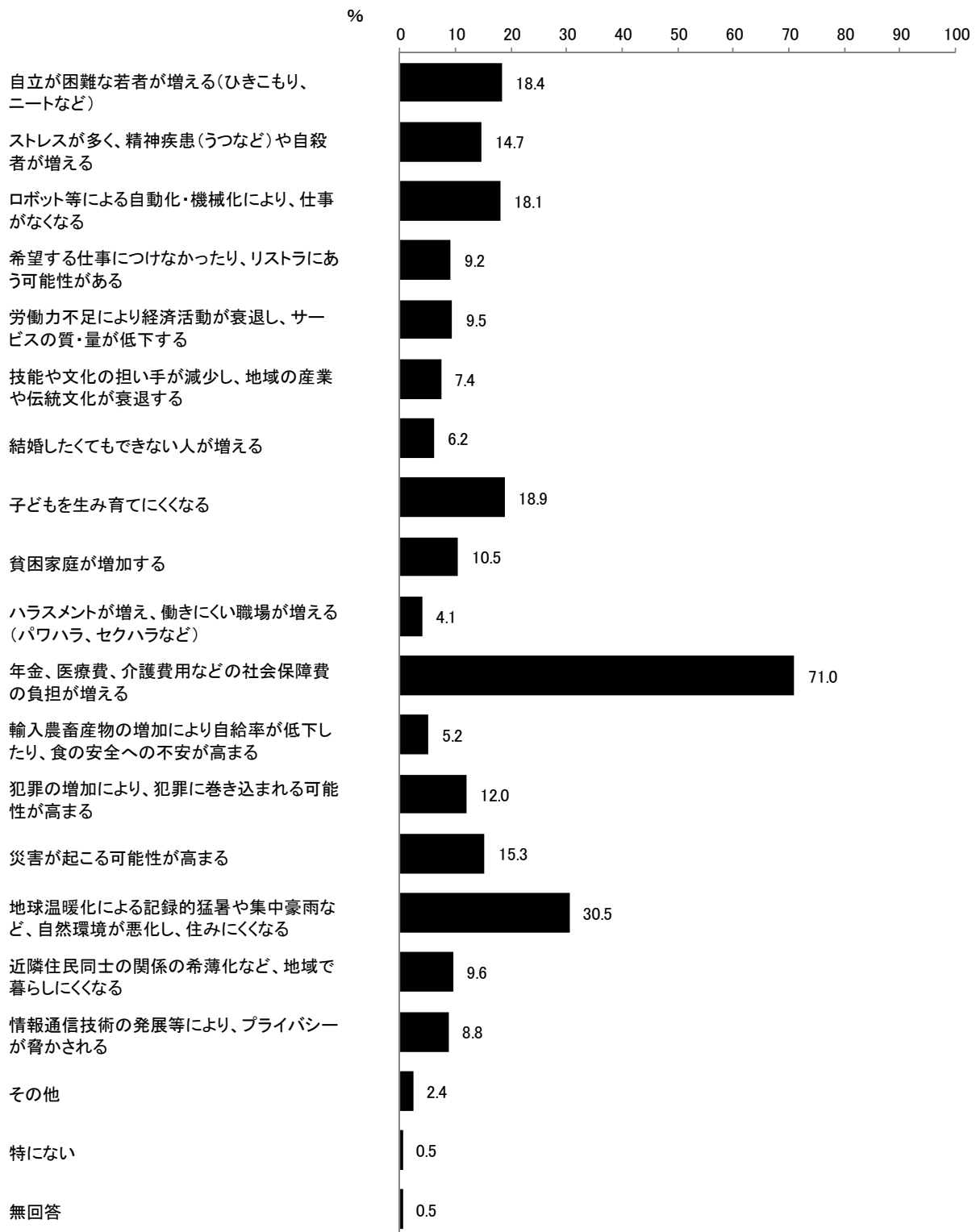
n= 1277

%

問 34 10年後、20年後のあなたのお子さんたち（又はあなたの周囲のお子さんたち）の住む未来に不安があるとすれば、どんなことだと思いますか。（回答は3つまで）

10年後、20年後のあなたのお子さんたち（又はあなたの周囲のお子さんたち）の住む未来の不安は、「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」が71.0%で最も高く、次いで「地球温暖化による記録的猛暑や集中豪雨など、自然環境が悪化し、住みにくくなる」が30.5%、「子どもを生み育てにくくなる」が18.9%となっている。

n= 1277

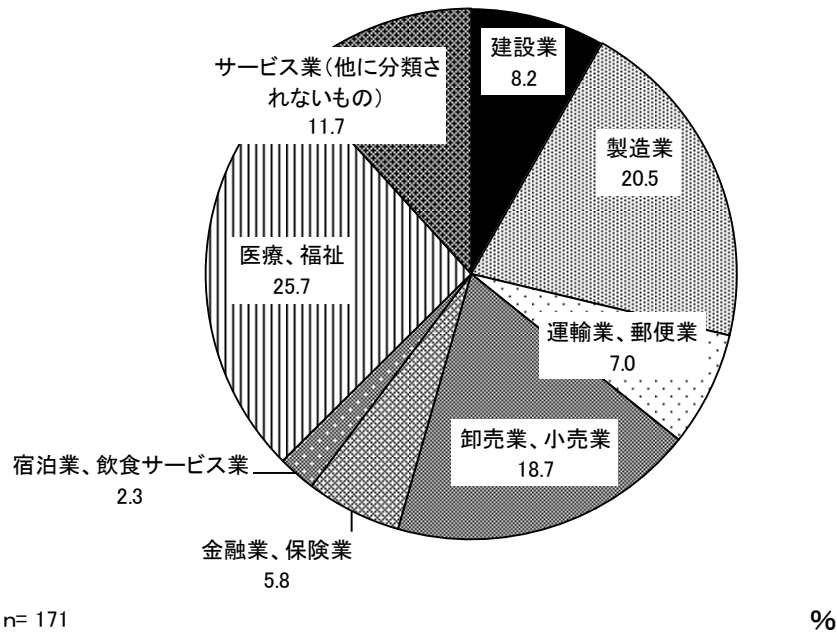


## 第5 仕事と生活の調和に関する調査（企業調査）

### 1. 貴事業所について（属性）

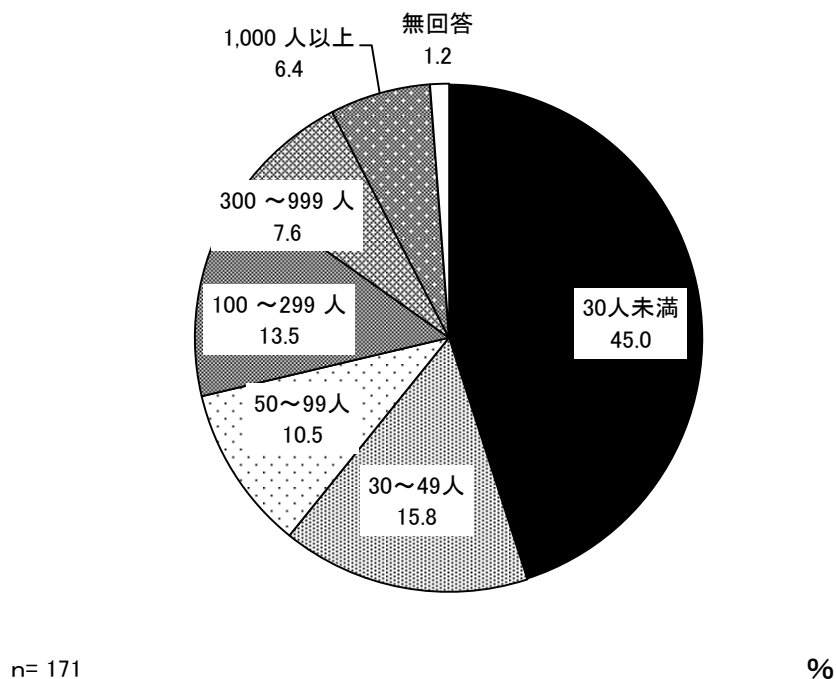
問1 貴社の業種についてお答えください。

業種構成は、「医療、福祉」が25.7%で最も高く、次いで、「製造業」が20.5%、「卸売業、小売業」が18.7%となっている。



問2 貴社の企業全体の常用従業員数についてお答えください。

会社の常用従業員数は、「30人未満」が45.0%で最も高く、次いで「30～49人」が15.8%、「100～299人」が13.5%となっている。



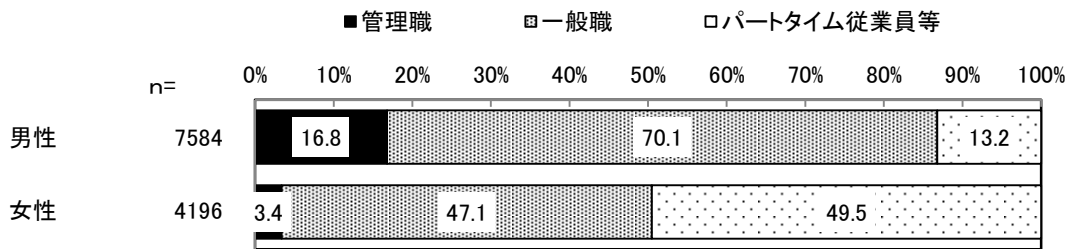
問3 貴社の従業員数についてお答えください。

職種別の従業員割合について、男性は「一般職」が70.1%で最も多く、女性は「パートタイム従業員等」が49.5%で最も多くなっている。

なお、管理職に占める女性の割合は、10.2%となっている。

また、男女ともに、既婚者の方が管理職の割合が高い。

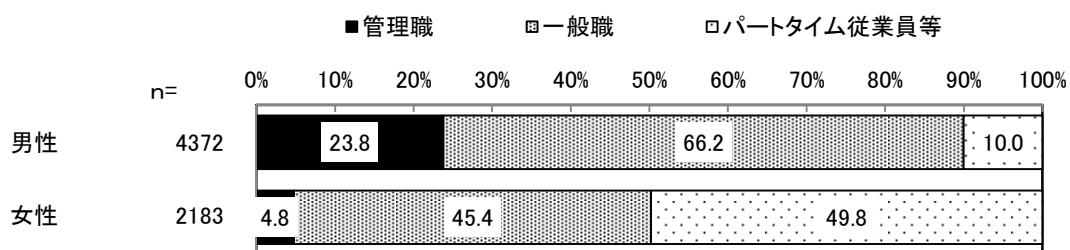
【職種別 従業員割合】



上段：実数、下段：%

	管理職	一般職	パートタイム従業員等	合計
男性	1,272 16.8	5,313 70.1	999 13.2	7,584 100.0
女性	144 3.4	1,975 47.1	2,077 49.5	4,196 100.0

【職種別 従業員割合（既婚者）】



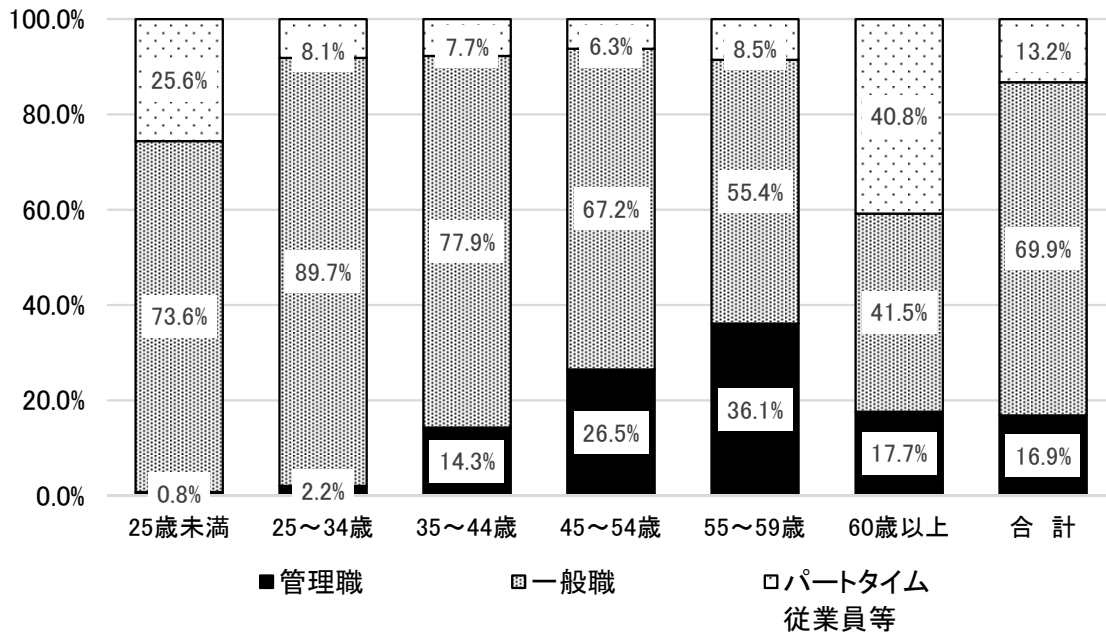
上段：実数、下段：%

	管理職	一般職	パートタイム従業員等	合計
男性	1,040 23.8	2,894 66.2	438 10.0	4,372 100.0
女性	105 4.8	990 45.4	1,088 49.8	2,183 100.0

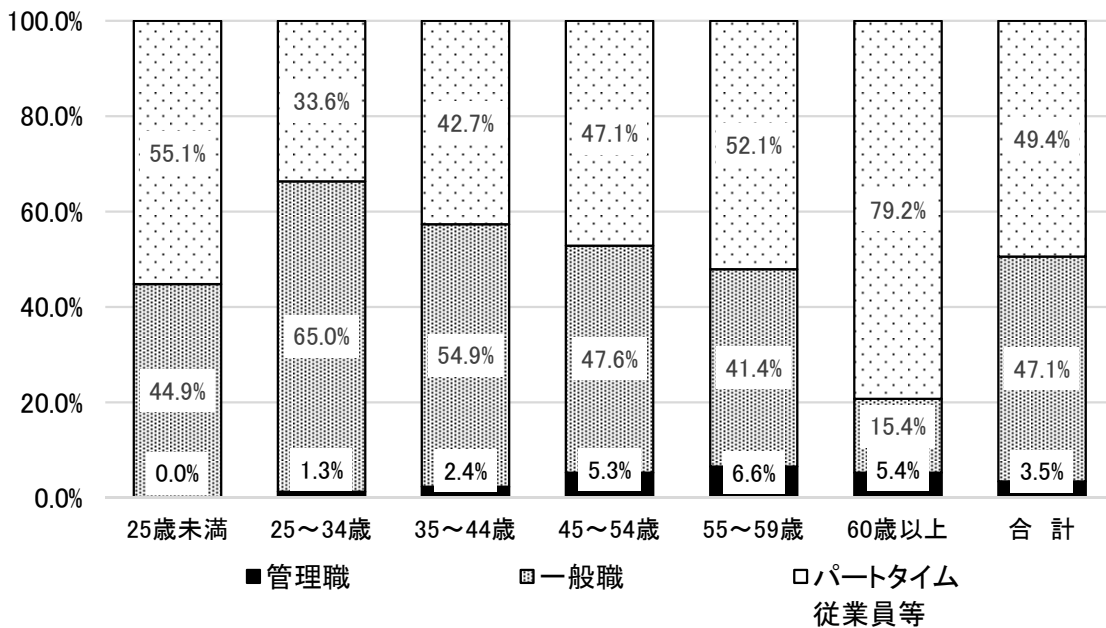
職種別の従業員割合を年齢階級別に見ると、男性は、35～44歳から「管理職」の割合が高まり、55～59歳における「管理職」の割合が最も高い。

一方、女性は、25～34歳で「パートタイム従業員等」の割合が33.6%と最も低く、35～44歳より上の年齢階級ではその割合が高まる。

**【男 性】**



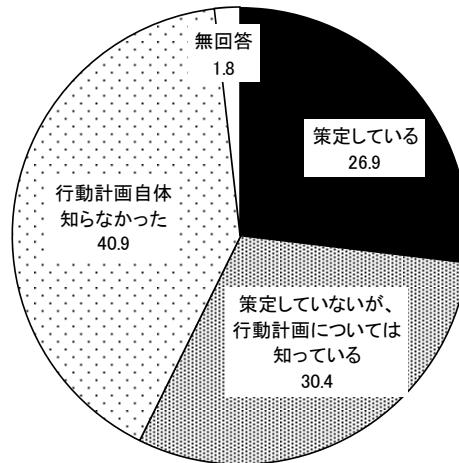
**【女 性】**



## 2. 両立支援制度について

問4 仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境の整備等を進めるための行動計画（次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画）を策定していますか。

仕事と子育ての両立を図るために必要な行動計画の策定状況は、「策定している」が26.9%、「策定していないが、行動計画については知っている」が30.4%、「行動計画自体知らなかった」が40.9%となっている。

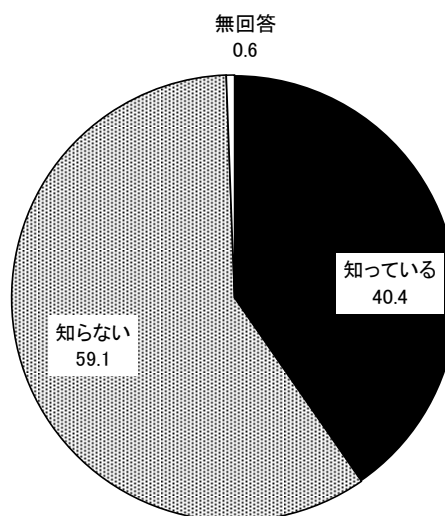


n= 171

%

問5 「くるみんマーク」(※1)、及び「プラチナくるみんマーク」(※2)をご存知ですか。  
※1・・・次世代育成支援対策推進法に基づく仕事と子育ての両立を応援している企業のマーク  
※2・・・上記のうちより高い水準の取組を行っている企業のマーク

「くるみんマーク」の認知度は、「知っている」が40.4%、「知らない」が59.1%となっている。

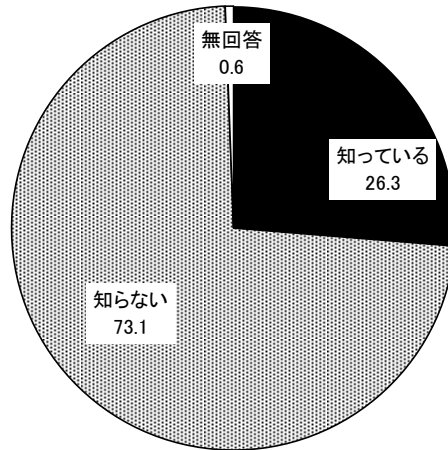


n= 171

%

問6 「群馬県いきいきGカンパニー認証制度」をご存知ですか。

「群馬県いきいきGカンパニー認証制度」の認知度は、「知っている」が26.3%、「知らない」が73.1%となっている。



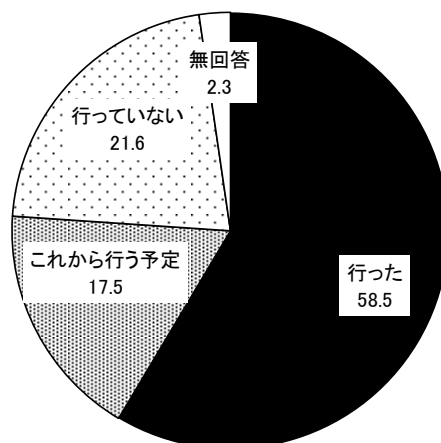
n= 171

%

3. 育児休業制度について

問7 育児・介護休業法が平成29年1月1日及び平成29年10月1日に改正されましたが、法改正に対応し、就業規則等規定整備を行いましたか。

法改正に対応した就業規則等規定整備状況は、「行った」が58.5%で最も高く、次いで「行っていない」が21.6%、「これから行う予定」が17.5%となっている。



n= 171

%



**問8 貴事業所の平成29年度における育児休業等の取得状況について記入してください。**

取得者の状況は、育児休業を取得した従業員は、女性が80人、男性が8人となっており、育児休業取得率は、女性が77.7%、男性が5.5%となっている。

復職者の育児休業取得期間は、男性では全員「3ヵ月未満」となっている。女性では、「9ヵ月～1年未満」が44.3%で最も高く、次いで「1年～1年6ヵ月未満」が41.8%となっている。

**(1) 取得者の状況**

		女性	男性
平成29年度に出産した女性従業員もしくは配偶者が出産した男性従業員 (a)		103人	145人
	上記のうち、育児休業を取得した従業員 (b)	80人	8人
	育児休業取得率	77.7%	5.5%

※4事業所は (b) > (a) となっている (全166事業所)。

**(2) 復職者の育児休業取得期間**

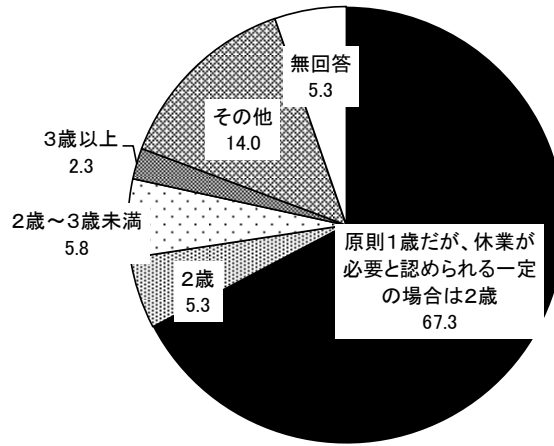
割合 (%)

	3ヵ月未満	3ヵ月～6ヵ月未満	6ヵ月～9ヵ月未満	9ヵ月～1年未満	1年～1年6ヵ月未満
女性	0.0	5.1	1.3	44.3	41.8
男性	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	9.2	4.6	1.1	40.2	37.9

	1年6ヵ月～2年未満	2年～3年未満	3年以上	合計
女性	0.0	6.3	1.3	100.0
男性	0.0	0.0	0.0	100.0
合計	0.0	5.7	1.1	100.0

問9 貴社では、子が何歳になるまで育児休業を取得できますか。

育児休業の取得期間は、「原則1歳だが、休業が必要と認められる一定の場合は2歳」が67.3%で最も高くなっている。

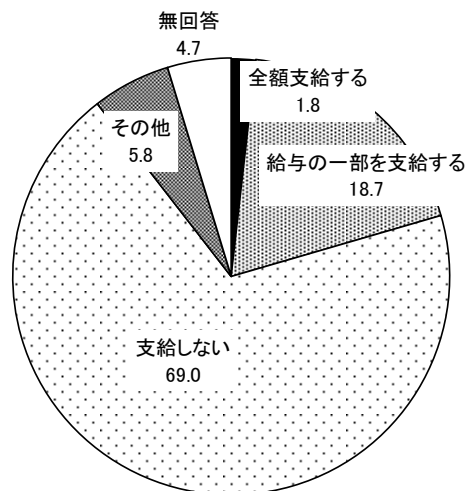


n= 171

%

問10 育児休業中の賃金の支給はどのようになっていますか(雇用保険による育児休業給付金の支給を除く)。

育児休業中の賃金支給状況は、「支給しない」が69.0%で最も高く、次いで、「給与の一部を支給する」が18.7%となっている。



n= 171

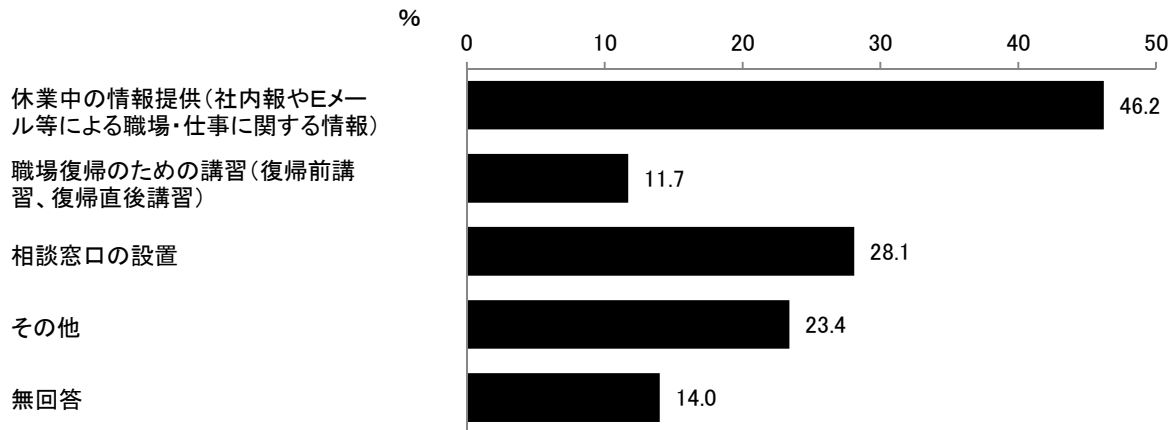
%

問 11 育児休業取得後の円滑な復帰を図るためにどのような措置をとっていますか。

(回答はいくつでも)

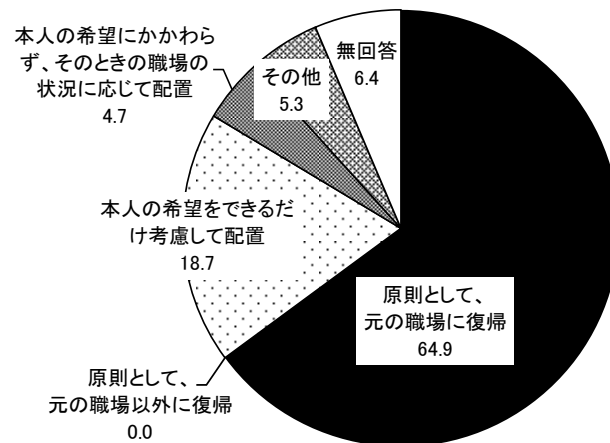
育児休業取得後の円滑な復帰措置は、「休業中の情報提供（社内報やEメール等による職場・仕事に関する情報）」が46.2%で最も高く、次いで「相談窓口の設置」が28.1%となっている。

n= 171



問 12 育児休業を取得した従業員を、復帰後どのように配置していますか。

育児休業からの復帰後の配置は、「原則として、元の職場に復帰」が64.9%で最も高く、次いで「本人の希望をできるだけ考慮して配置」が18.7%となっている。



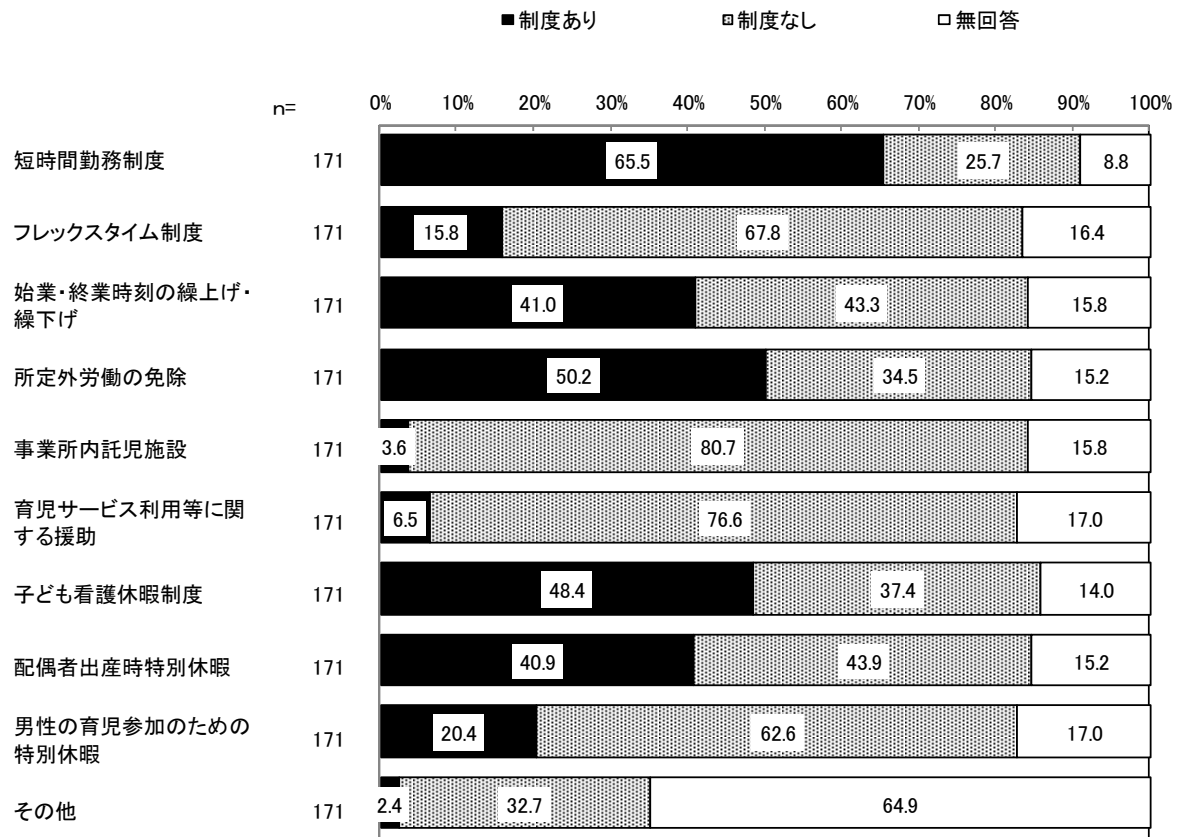
n= 171

%

問13 働きながら子育てを行う従業員に対する次のような制度がありますか。

(回答はそれぞれ1つだけ)

働きながら子育てを行う従業員に対する制度は、「制度あり」では“短時間勤務制度”が65.5%で最も高く、次いで“所定外労働の免除”が50.2%、“子ども看護休暇制度”が48.4%となっている。一方、「制度なし」は“事業所内託児施設”が80.7%、“育児サービス利用等に関する援助”が76.6%で高くなっている。



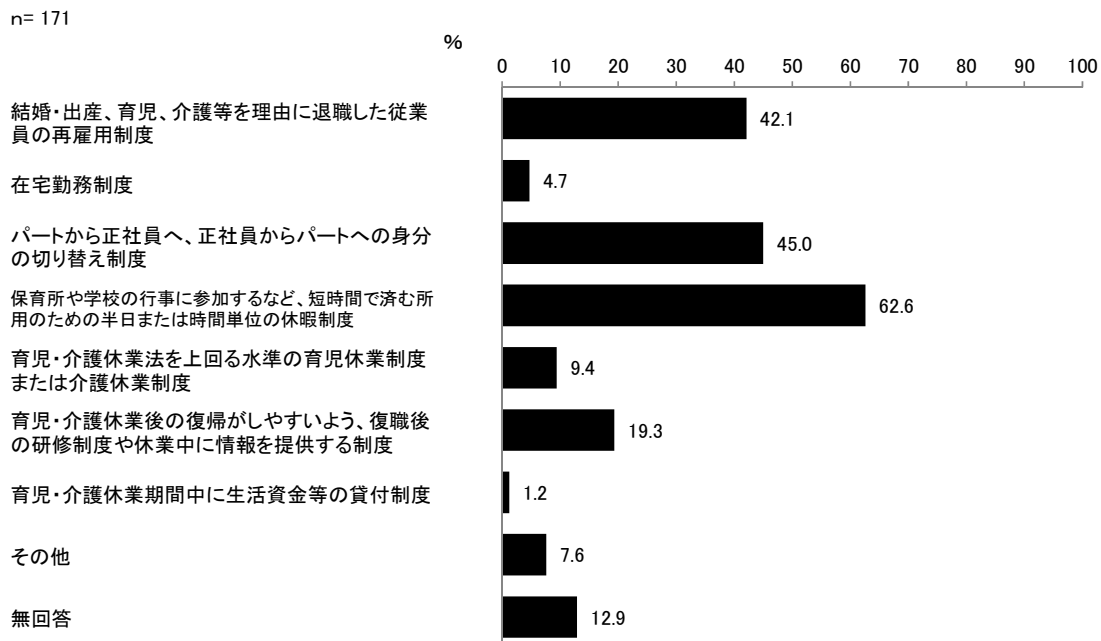
上段：実数、下段：%

	調査数	1歳未満あり	1歳～3歳未満	3歳～小学校入学前	小学校あり入学～卒業	小学校あり卒業後も利用可	制度なし	無回答
短時間勤務制度	171 100.0	14 8.2	53 31.0	22 12.9	11 6.4	12 7.0	44 25.7	15 8.8
フレックスタイム制度	171 100.0	5 2.9	7 4.1	2 1.2	1 0.6	12 7.0	116 67.8	28 16.4
始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ	171 100.0	8 4.7	28 16.4	14 8.2	5 2.9	15 8.8	74 43.3	27 15.8
所定外労働の免除	171 100.0	9 5.3	32 18.7	30 17.5	4 2.3	11 6.4	59 34.5	26 15.2
事業所内託児施設	171 100.0	2 1.2	2 1.2	1 0.6	-	1 0.6	138 80.7	27 15.8
育児サービス利用等に関する援助	171 100.0	2 1.2	1 0.6	2 1.2	2 1.2	4 2.3	131 76.6	29 17.0
子ども看護休暇制度	171 100.0	4 2.3	6 3.5	58 33.9	5 2.9	10 5.8	64 37.4	24 14.0
配偶者出産時特別休暇	171 100.0	44 25.7	7 4.1	2 1.2	-	17 9.9	75 43.9	26 15.2
男性の育児参加のための特別休暇	171 100.0	18 10.5	10 5.8	3 1.8	-	4 2.3	107 62.6	29 17.0
その他	171 100.0	1 0.6	-	1 0.6	-	2 1.2	56 32.7	111 64.9

#### 4. 両立支援制度や働きやすい職場環境整備について

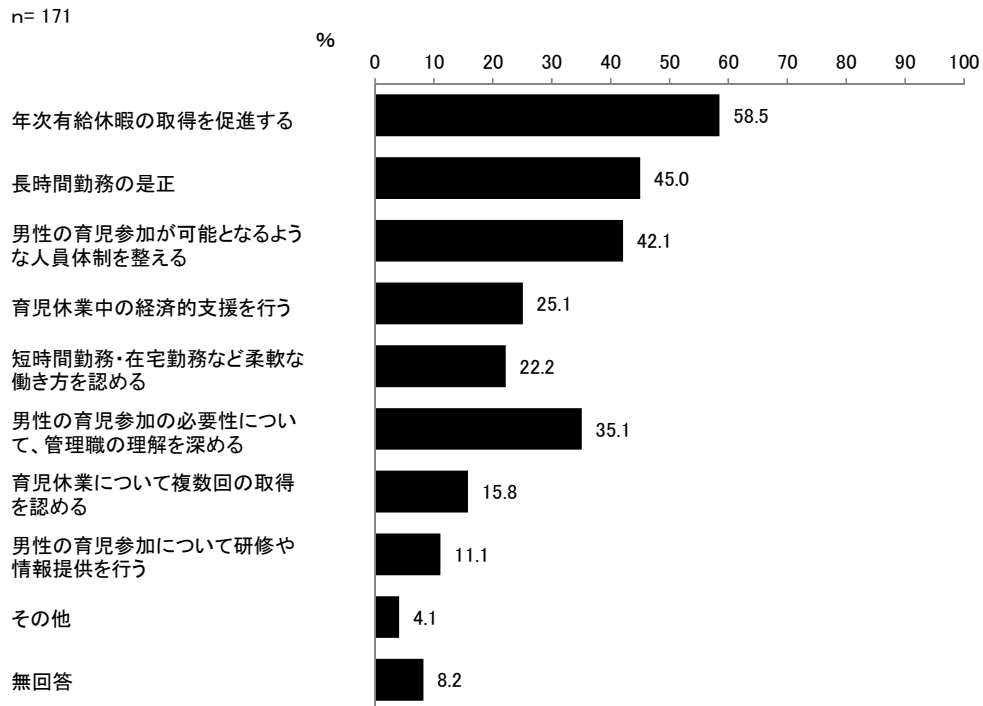
問 14 貴社には、仕事と家庭の両立を支援するため、次のような制度がありますか。  
(回答はいくつでも)

仕事と家庭の両立支援制度は、「保育所や学校の行事に参加するなど、短時間で済む所用のための半日または時間単位の休暇制度」が62.6%で最も高く、次いで「パートから正社員へ、正社員からパートへの身分の切り替え制度」が45.0%、「結婚・出産、育児、家族の介護等を理由に退職した従業員の再雇用制度」が42.1%となっている。



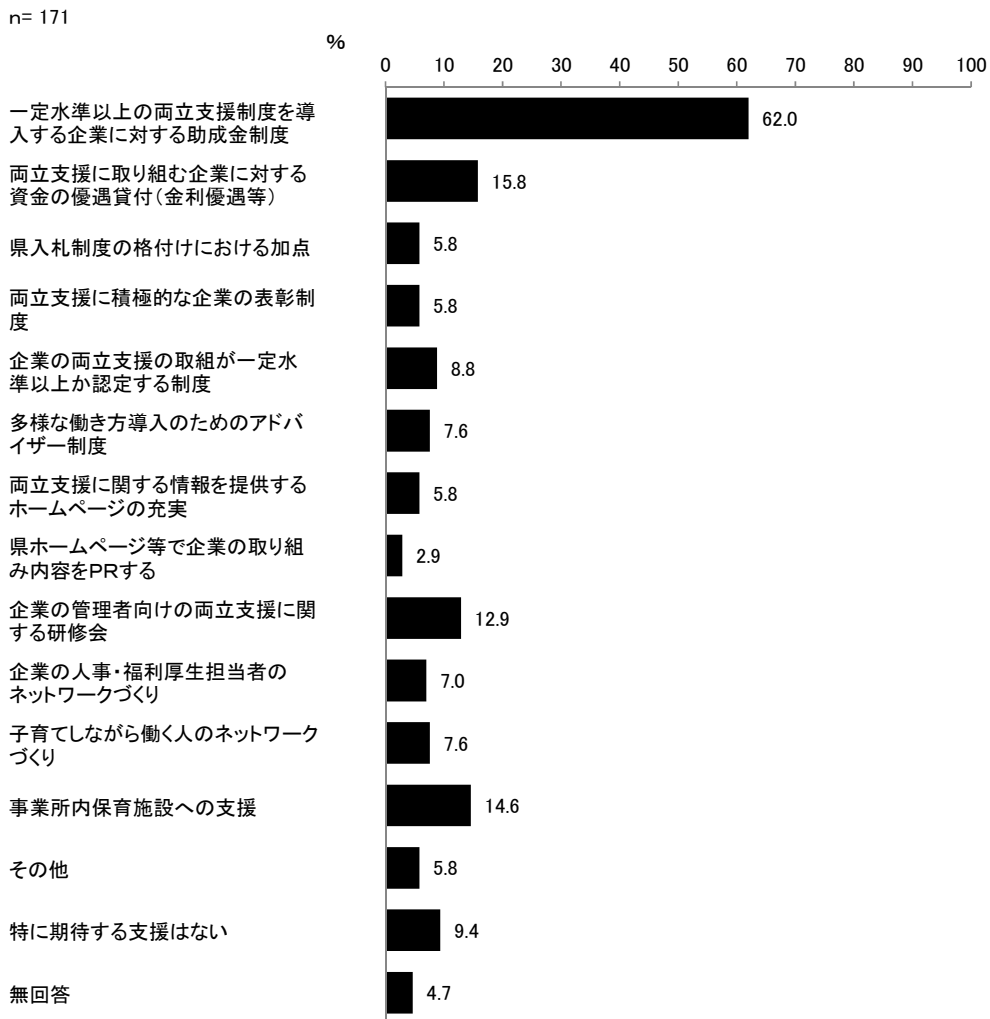
問 15 男性の育児休業制度の利用を含めた育児参加を促進するためには、どのような取組が有効と考えますか。（回答はいくつでも）

男性の育児参加を促進するために有効と考える取組は、「年次有給休暇の取得を促進する」が 58.5%で最も高く、次いで「長時間勤務の是正」が 45.0%、「男性の育児参加が可能となるような人員体制を整える」が 42.1%となっている。



問 16 今後、企業が仕事と家庭が両立しやすい労働環境を整備するために、行政に対してどのような支援を期待しますか。（回答は3つまで）

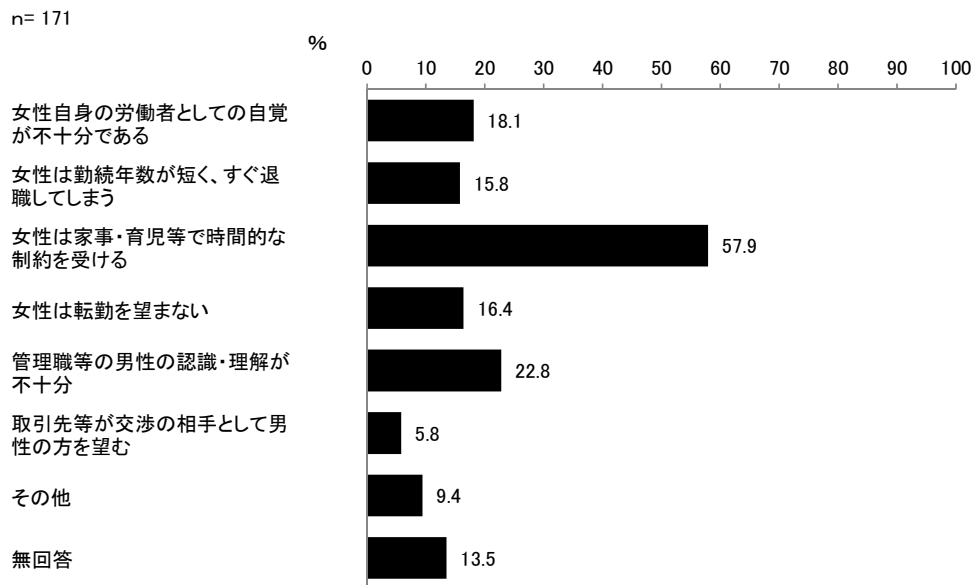
企業が仕事と家庭が両立しやすい労働環境を整備するために行政に期待する支援は、「一定水準以上の両立支援制度を導入する企業に対する助成金制度」が 62.0%で最も高く、次いで「両立支援に取り組む企業に対する資金の優遇貸付(金利優遇等)」が 15.8%、「事業所内保育施設への支援」が 14.6%となっている。



## 5. 女性活躍推進について

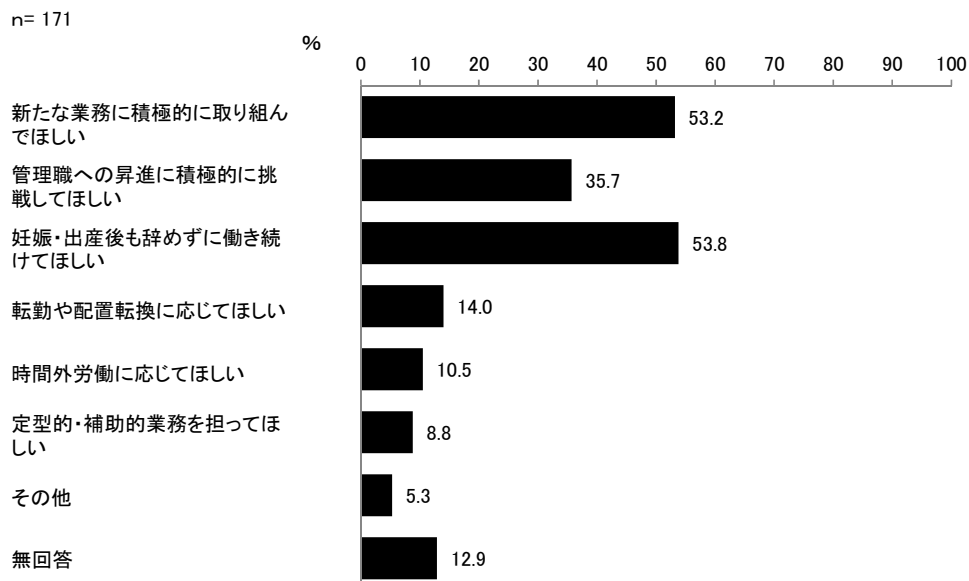
問 17 今後、女性従業員を活用するにあたり、障害となる問題点はどのようなことだと考えますか。  
(回答はいくつでも)

女性従業員を活用するにあたり、障害となる問題は、「女性は家事・育児等で時間的な制約を受ける」が57.9%で最も高く、次いで「管理職等の男性の認識・理解が不十分」が22.8%となっている。



問 18 貴社が女性従業員に対し望むことは何ですか。(回答はいくつでも)

女性従業員に対し望むことは、「妊娠・出産後も辞めずに働き続けてほしい」が53.8%で最も高く、次いで「新たな業務に積極的に取り組んでほしい」が53.2%、「管理職への昇進に積極的に挑戦してほしい」が35.7%となっている。





## 6. ワーク・ライフ・バランスの推進や少子化問題について

問 19 ワーク・ライフ・バランスの推進や少子化問題について、日頃お考えのことや行政に対する要望がありましたら自由にお書きください。

自由記述については、6つの項目に分類した。「子育てに関することについて」が7件、「経済的負担に関することについて」が2件、「行政に対する要望について」が7件、「雇用・休暇に関することについて」が2件、「男女の働き方に関することについて」が4件、「その他」が13件となっている。

### 【自由意見の例】

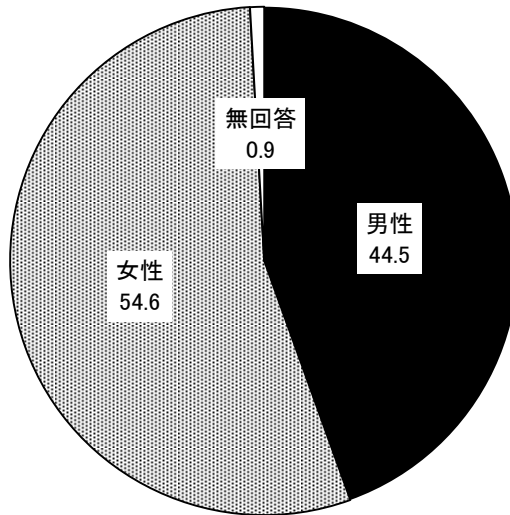
- ・社会全体で子どもを育てやすい環境整備をして女性が活躍できる環境を整備しないと人手不足も解消されないと思います。
- ・男性の家事分担及び育児参加の大幅な促進、「男は大黒柱、女は専業主婦」モデル意識の撤廃を行わなければ、いくら行政が号令をかけても効果は出ないものと考えます。
- ・祖父・祖母がいないとうまくいかない状況を変える施策があるとよい。
- ・制度を整備することも重要だが、それ以上に社員1人1人の認識や考え方の方が大切だと考える。
- ・子どもを育てていくうえでの経済的な厳しさがあること、産休・育休を取る中で働き続ける厳しさ、産休・育休時の代用職員の見つけにくさ、人材不足や賃金の低さから子どもの預かる施設（保育園、認定こども園、幼稚園など）の受け入れにくさなど解消がなければ少子化は進むと思われる。

## 第6 仕事と生活の調和に関する調査（従業員調査）

### 1. あなた自身について（属性）

問1 あなたの性別をお答えください。

性別は、「男性」が44.5%、「女性」が54.6%となっている。

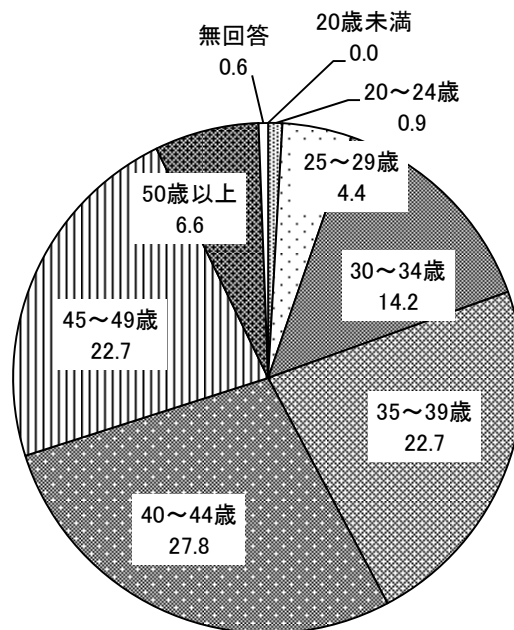


n= 317

%

問2 あなたの年齢をお答えください。

年齢は、「40～44歳」が27.8%で最も高く、次いで「35～39歳」と「45～49歳」が22.7%となっている。

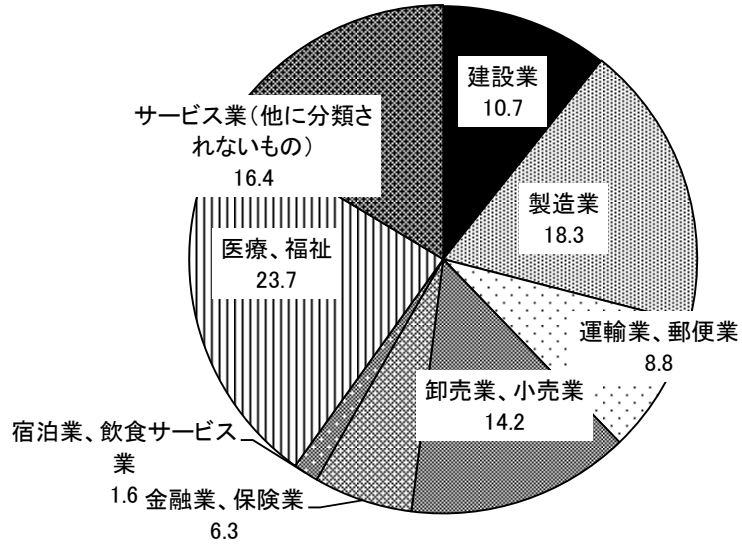


n= 317

%

問3 あなたがお勤めの会社の業種をお答えください。

勤め先の業種は、「医療、福祉」が 23.7%で最も高く、次いで「製造業」が 18.3%、「サービス業（他に分類されないもの）」が 16.4%となっている。

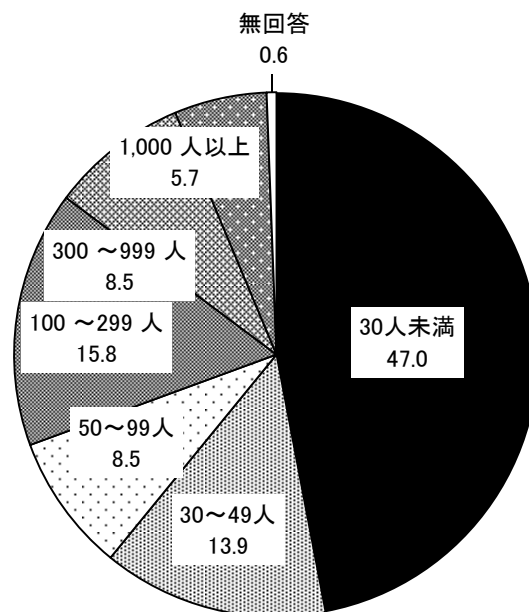


n= 317

%

問4 あなたがお勤めの会社（事業所）の従業員数をお答えください。

勤め先の従業員数は、「30人未満」が 47.0%で最も高く、次いで「100～299人」が 15.8%、「30～49人」が 13.9%となっている。

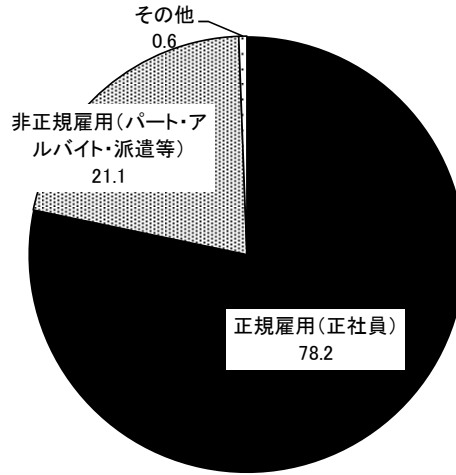


n= 317

%

問5 あなたの雇用形態についてお答えください。

雇用形態は、「正規雇用（正社員）」が78.2%で最も高く、次いで「非正規雇用（パート・アルバイト・派遣等）」が21.1%、「その他」が0.6%となっている。



n= 317

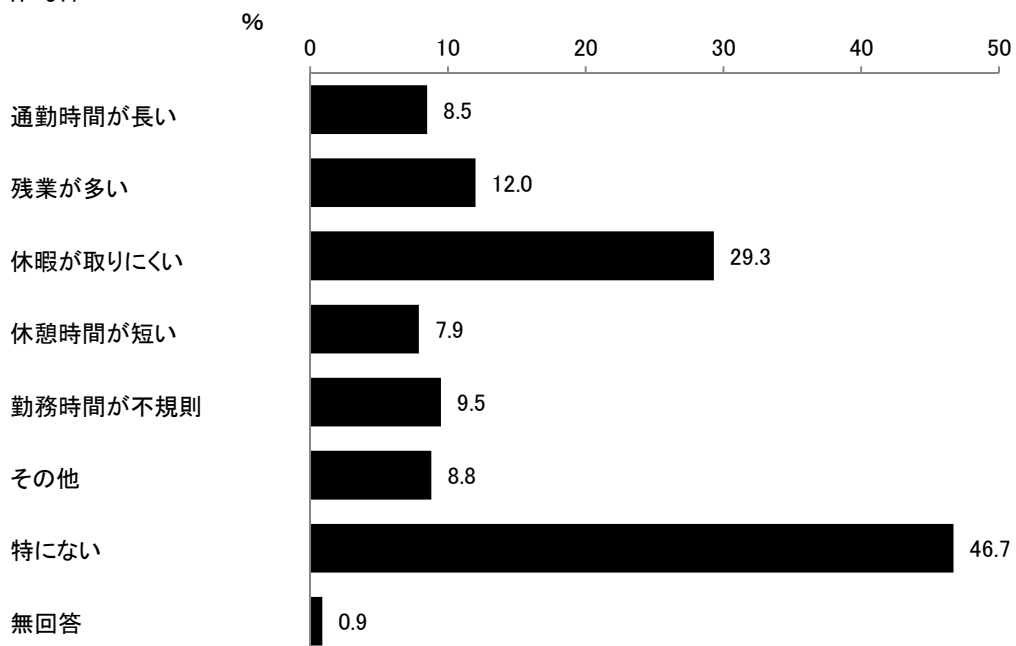
%

2. 職場環境について

問6 あなたの職場環境で、普段感じていることがあればお答えください。（回答はいくつでも）

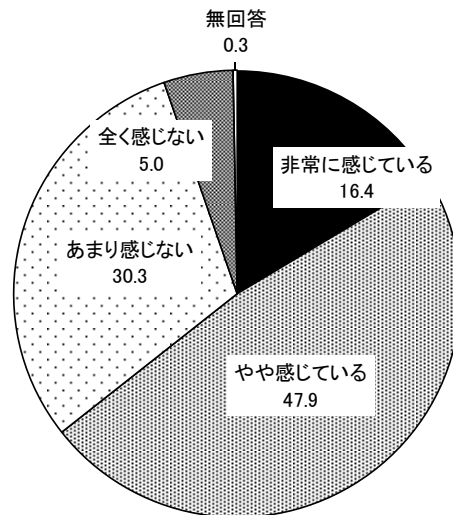
職場環境で、普段感じていることは、「特にない」が46.7%で最も高くなっているが、「特にない」を除くと、「休暇が取りにくい」が29.3%で最も高く、次いで「残業が多い」が12.0%、「勤務時間が不規則」が9.5%となっている。

n= 317



問7 あなたはご自身の仕事と生活の調和が図られていると感じていますか。

仕事と生活の調和が図られているかは、「やや感じている」が47.9%で最も高く、次いで「あまり感じない」が30.3%となっている。「非常に感じている」と「やや感じている」をあわせた「感じている(計)」は64.3%となっている。



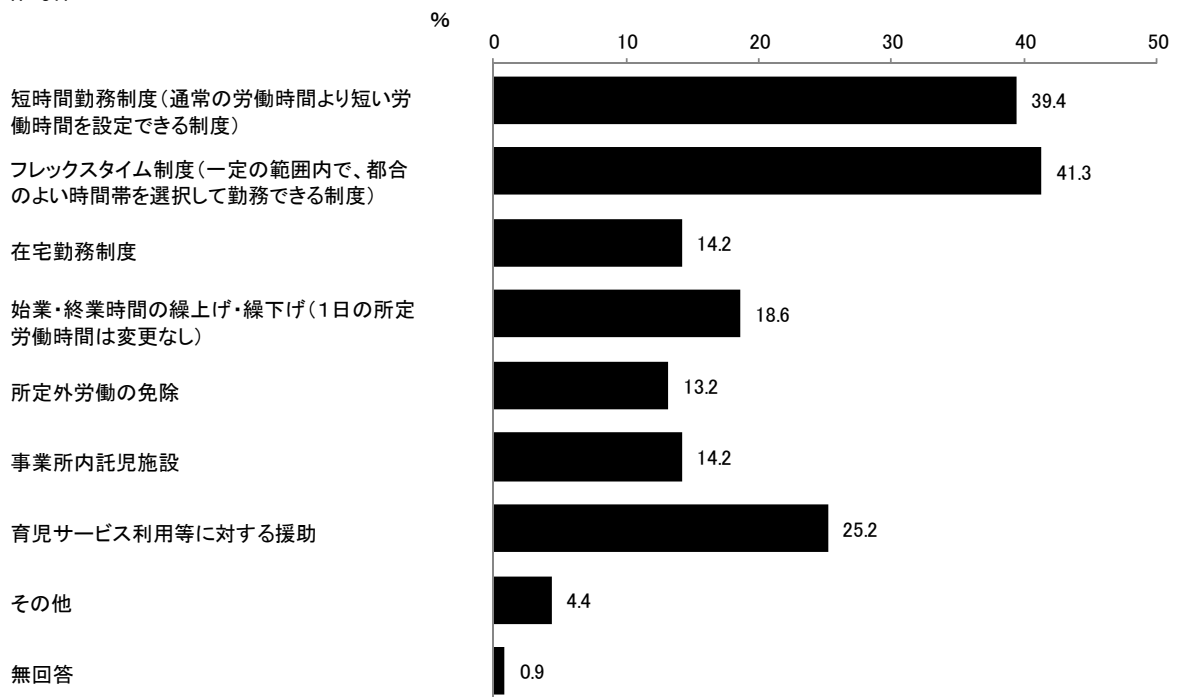
n= 317

%

問8 あなたは仕事と子育てを両立するために、どのような制度が有効だと思いますか。  
(回答は2つまで)

仕事と子育ての両立は、「フレックスタイム制度(一定の範囲内で、都合のよい時間帯を選択して勤務できる制度)」が41.3%で最も高く、次いで「短時間勤務制度(通常の労働時間より短い労働時間を設定できる制度)」が39.4%、「育児サービス利用等に対する援助」が25.2%となっている。

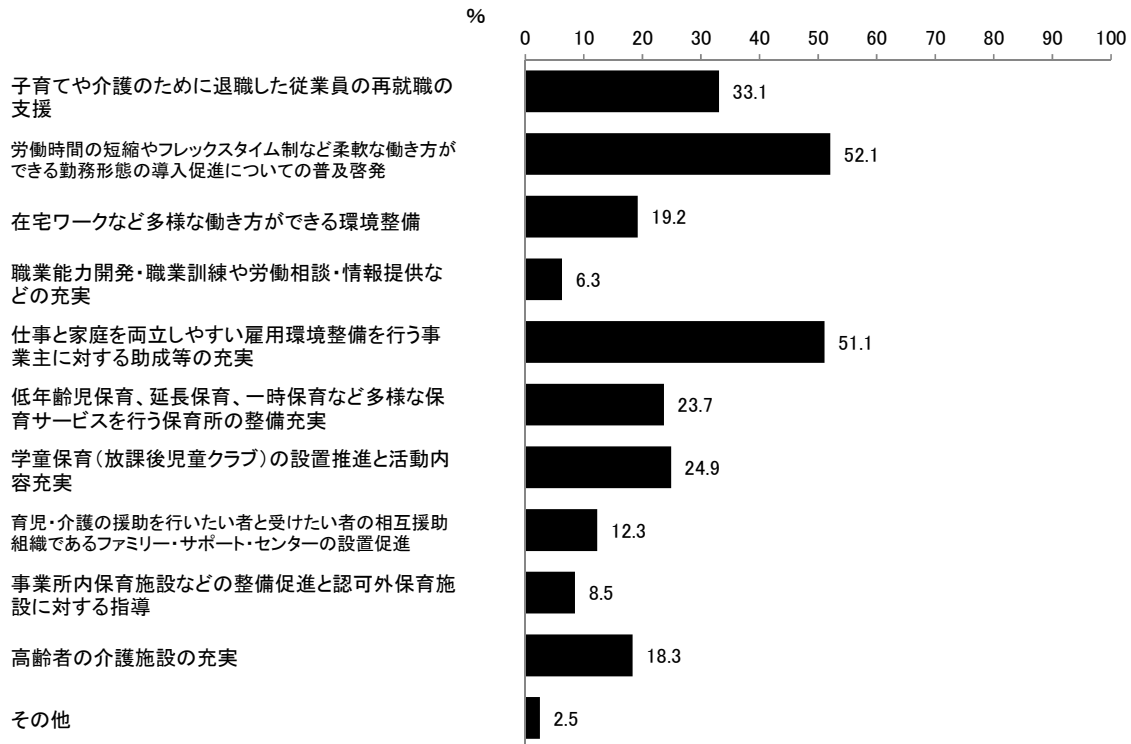
n= 317



問9 今後、男女が働きやすい環境を整備するためには、どのような行政施策があればよいと思いますか。（回答は3つまで）

男女が働きやすい環境を整備するためにあればよい行政対策は、「労働時間の短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる勤務形態の導入促進についての普及啓発」が52.1%で最も高く、次いで「仕事と家庭を両立しやすい雇用環境整備を行う事業主に対する助成等の充実」が51.1%、「子育てや介護のために退職した従業員の再就職の支援」が33.1%となっている。

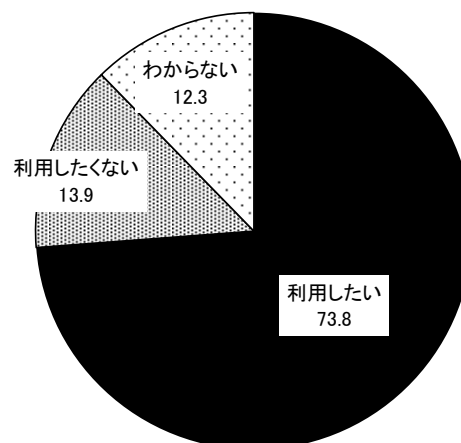
n = 317



### 3. 育児休業制度について

問10 仮に、あなたもしくは配偶者が出産し、育児休業を取得できる状態である場合、育児休業制度を利用したいと思いますか。

育児休業制度の利用意向は、「利用したい」が73.8%で最も高く、次いで「利用したくない」が13.9%、「わからない」が12.3%となっている。



n = 317

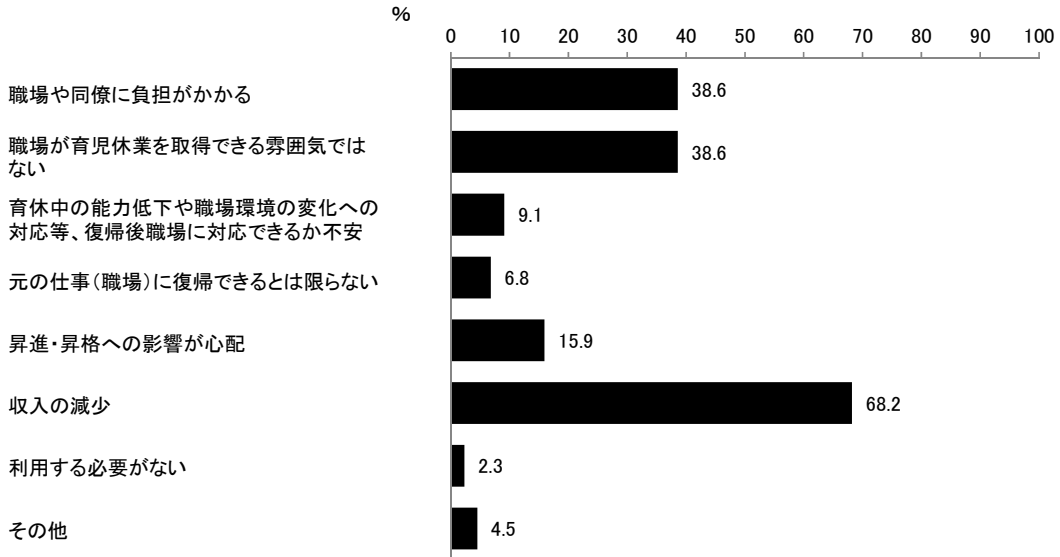
%

【問 10 で「利用したくない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-1 育児休業制度を利用したくない理由はどのようなことですか。（回答は2つまで）

育児休業制度を利用したくない理由は、「収入の減少」が 68.2%で最も高く、次いで「職場や同僚に負担がかかる」と「職場が育児休業を取得できる雰囲気ではない」が 38.6%となっている。

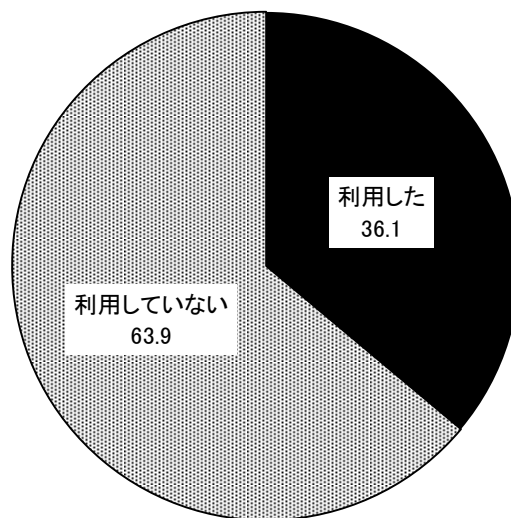
n= 44



【現在の職場に就職後、あなたもしくは配偶者が出産した方のみにお聞きします。】

問 11 あなたは育児休業制度を利用しましたか。

育児休業制度の利用は、「利用した」が 36.1%、「利用していない」が 63.9%となっている。



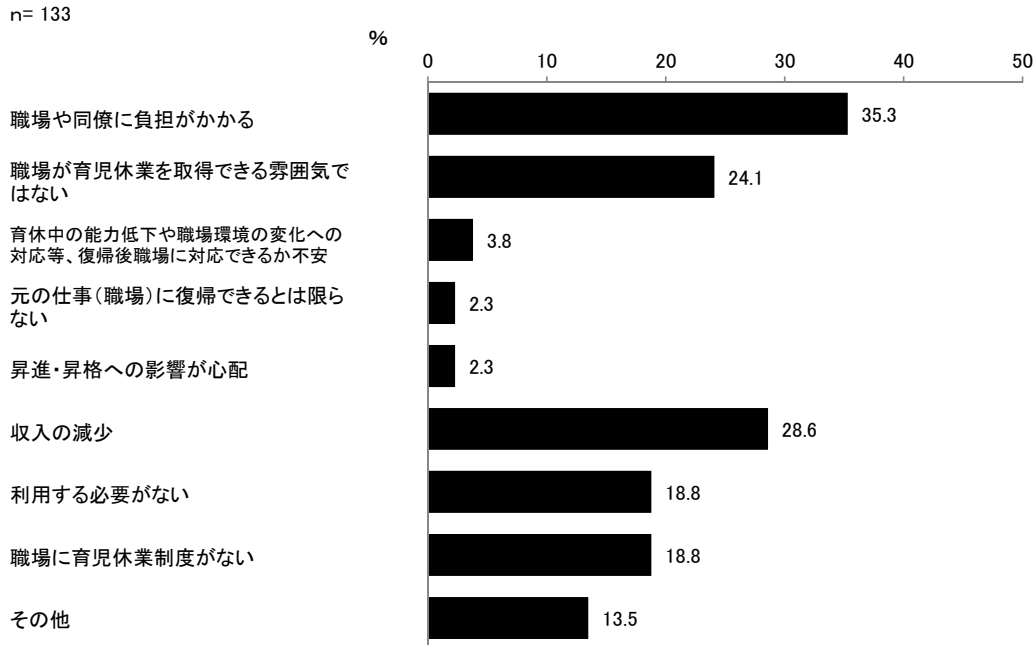
n= 208

%

【問 11 で「利用していない」を選択した方のみにお聞きします。】

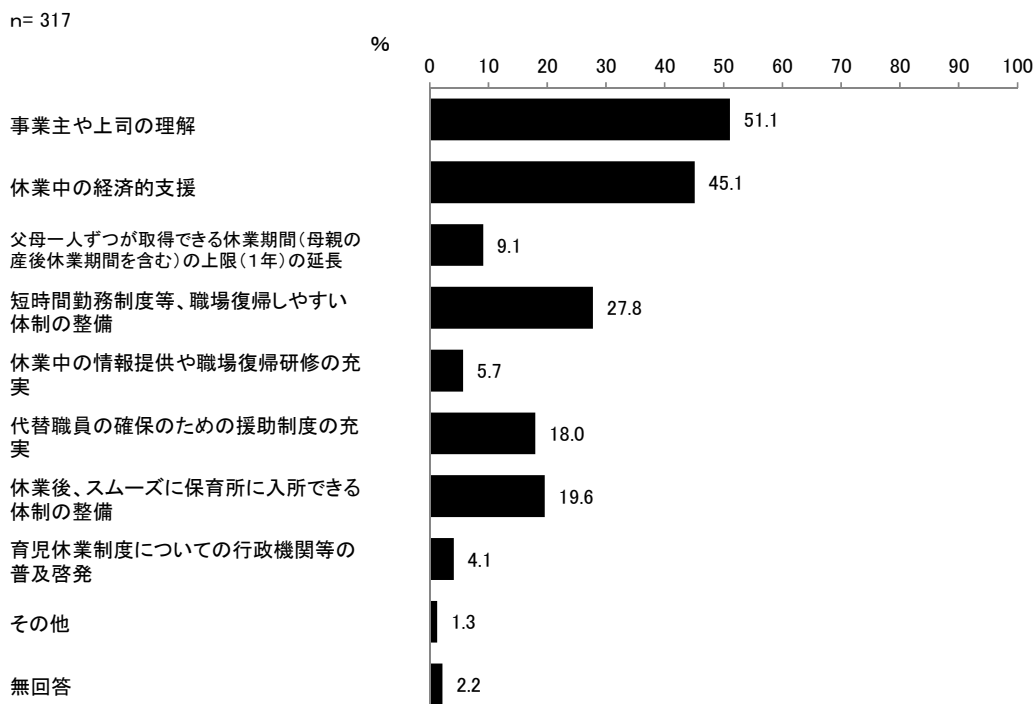
問 11-1 育児休業制度を利用しなかった理由はどのようなことですか。(回答は2つまで)

育児休業制度を利用しなかった理由は、「職場や同僚に負担がかかる」が 35.3%で最も高く、次いで「収入の減少」が 28.6%、「職場が育児休業を取得できる雰囲気ではない」が 24.1%となっている。



問 12 育児休業制度をさらに利用しやすくしていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(回答は2つまで)

育児休業制度をさらに利用しやすくしていくために必要だと思うことは、「事業主や上司の理解」が 51.1%で最も高く、次いで「休業中の経済的支援」が 45.1%、「短時間勤務制度等、職場復帰しやすい体制の整備」が 27.8%となっている。





#### 4. ワーク・ライフ・バランスや子育て支援、少子化対策について

問 13 ワーク・ライフ・バランスや子育て支援、少子化対策について、日頃お考えのことや行政に対する要望等がありましたらご自由にお書きください。

自由意見については、8つの項目に分類した。「少子化対策について」が12件、「子育て（全般）について」が14件、「産休育休制度について」が7件、「保育所・学童について」が25件、「雇用・収入について」が11件、「経済的支援について」が15件、「企業環境について」が27件、「その他」が27件となっている。

##### 【自由意見の例】

- ・子どもを持って初めて実感したことは、予想よりもお金がかかります。もっと子がいる家庭には支援がないとやっていけない。
- ・育休に対する職場の上司、同僚の認識を深めてほしい。フルタイムで働いてますが、子どもの病気等の休みの確保、(休みが多いと査定でマイナスになる)保育園学童の環境整備(預かり時間等)、学校での共働き家庭のPTAや役員の負担軽減を見直してほしい。
- ・土曜勤務があるけど保育施設は預かってもらえない(短時間保育等されると仕事できない)
- ・女性の社会進出が加速すればする程、少子化につながる。女性の負担が増すだけです。問題は「お金」と「時間」です。夫の収入だけで生活できるぐらいの給与であれば、無理に妻が働くことはないです。時間があれば家事や育児に率先して協力できます。今後の「働き方改革」の方針がちゃんと現場でも実施し、良い方向に行けばと思っています。
- ・病児保育、病後児童保育サービスをもう少し充実させて利用しやすくしてもらいたい。(子どもが熱を出してしまうと保育園に預けられず、仕事を休まなくてはならないため。)
- ・子育て世帯への支援が充実して、育児への負担が減少すれば子どもを産む家庭も増え、少子化の歯止めになれば経済効果も生まれ、より子育て支援につながる好環境になると思います。
- ・育児と親の介護が一緒になってしまうことがあります。高齢化社会になって、子どもに親にお金がかかってしまうことが心配で結婚すら躊躇しているのが現実です。



少子化対策に関する県民意識調査  
調査結果報告書 概要版

平成31年3月

発行：群馬県こども未来部 こども政策課  
〒371-8570  
群馬県前橋市大手町一丁目1番1号  
電話：027-226-2392